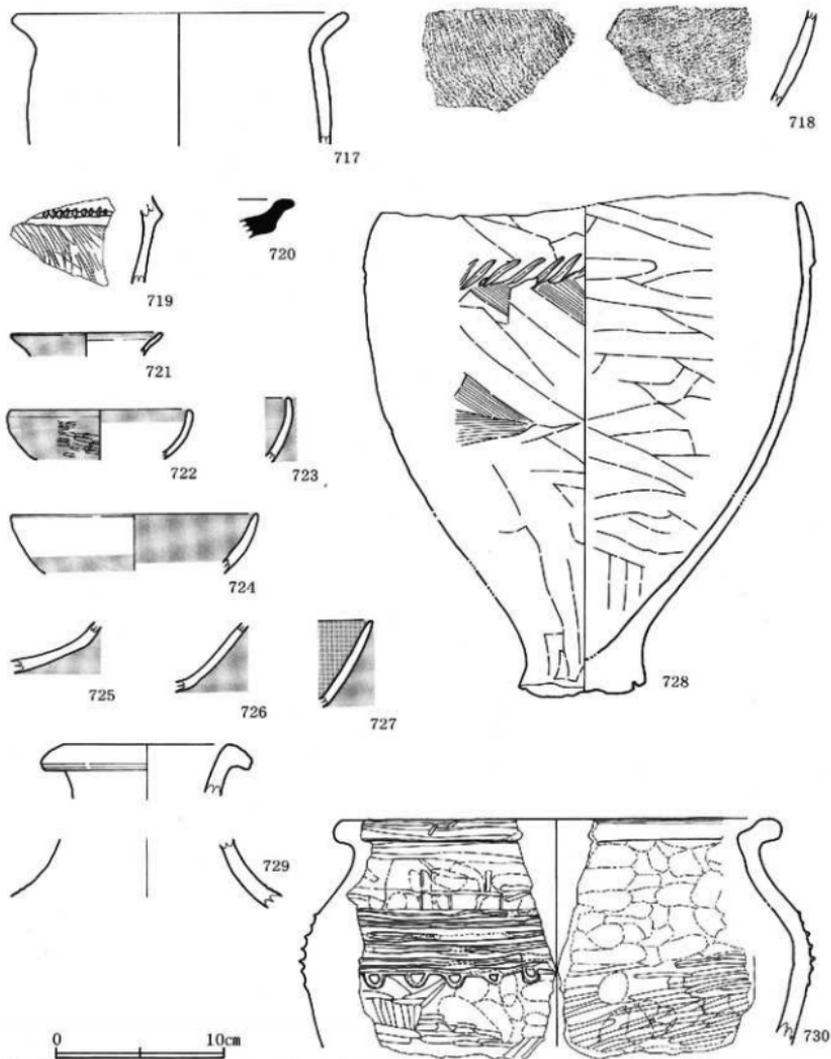
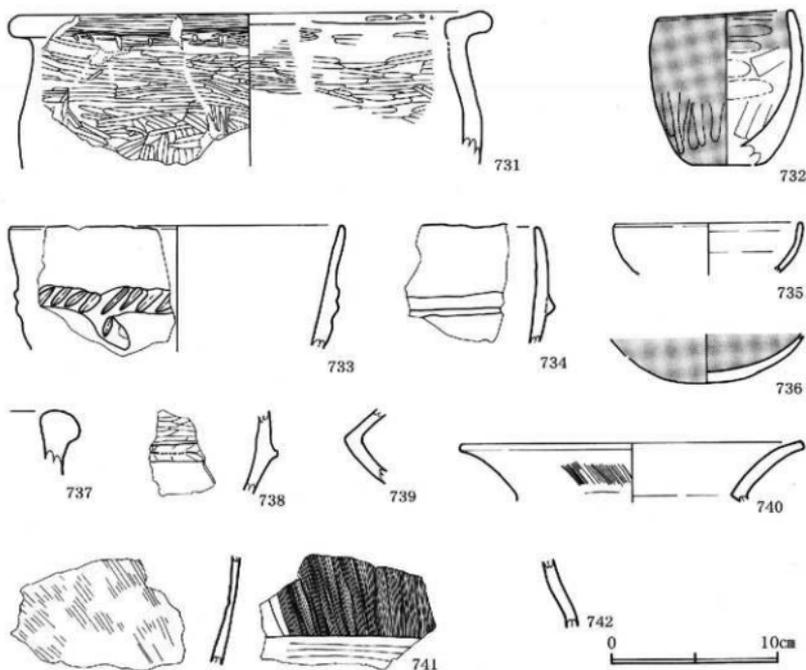


Ⅲ区の西部北側、Ⅱ区との境目にある、梁行2間4.30m、桁行3間6.45mを測る建物である。柱穴の規模は、径21~44cm、深さ25~40cmを測る。主軸方位はN12° Eである。



第88図 SA-25・26・28・30 出土遺物実測図 717~720 SA-25,721~722-724-726~728 SA-26,723-725 SA-26・ベルト内, 729 SA-28,730 SA-30



第89図 SA-30・31・33 出土遺物実測図

731:SA-30・上層 732~736:SA-31,737~742:SA-33

**SB-72** (第102図)

Ⅲ区の西部北側、Ⅱ区との境目にある、梁行2間3.77~4.03m、桁行3間6.17~6.23mを測る建物である。柱穴の規模は、径26~65cm、深さ21~43cmを測る。主軸方位はN12° Eである。

**SB-73** (第102図)

Ⅲ区の西部中央、Ⅱ区との境目にある、梁行2間4.63~4.66m、桁行3間7.05mを測る建物である。柱穴の規模は、径26~63cm、深さ31~51cmを測る。主軸方位はN76° Wである。

**SB-74** (第102図)

Ⅲ区の西部中央、Ⅱ区との境目にある、梁行1間2.82~3.15m、桁行2間4.35~4.82mを測る建物である。柱穴の規模は、径27~54cm、深さ21~39cmを測る。主軸方位はN79° Wである。

**SB-75** (第103図)

Ⅲ区の西部中央付近、Ⅱ区との境目にある、梁行2間4.46~4.48m、桁行3間6.98~7.07mを測る建物である。柱穴の規模は、径27~41cm、深さ23~59cmを測る。主軸方位はN78° Wである。

**SB-76** (第103図)

Ⅲ区の西部中央付近、Ⅱ区との境目にある、梁行2間4.18~4.25m、桁行2間4.32~4.42mを測る

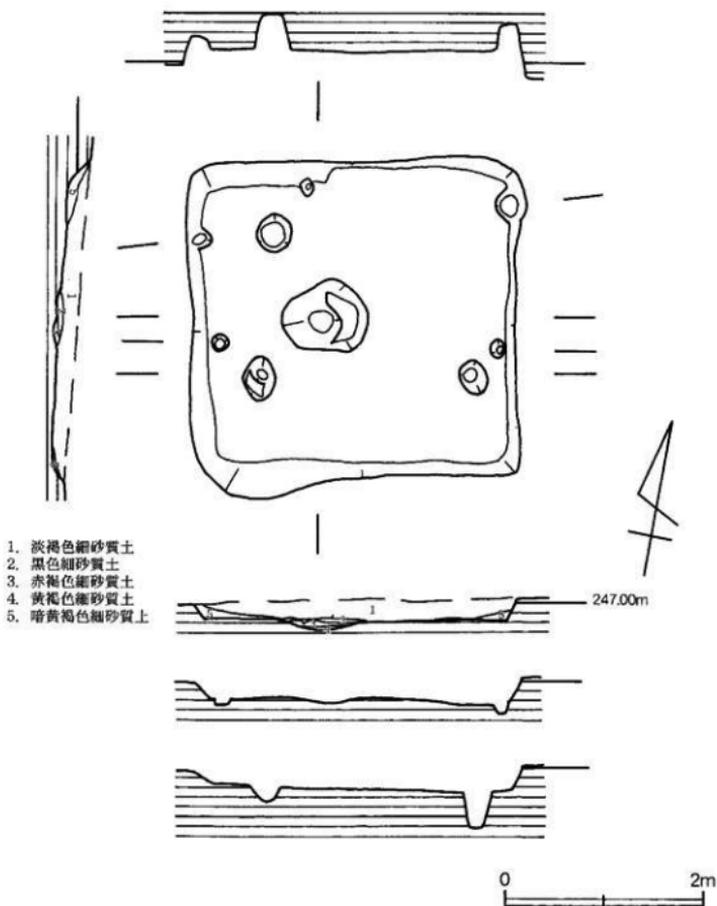
建物である。柱穴の規模は、径27～55cm、深さ28～52cmを測る。主軸方位はN78° Wである。

**SB-77 (第103図)**

Ⅱ区の中央部にある、梁行2間3.40m、桁行3間6.53mを測る建物である。柱穴の規模は、径23～42cm、深さ10～43cmを測る。主軸方位はN1° Eである。

**SB-78 (第103図)**

Ⅱ区の中央部やや東寄りにある、梁行2間4.09～4.44m、桁行3間8.36～8.40mを測る建物である。柱穴の規模は、径28～46cm、深さ25～53cmを測る。主軸方位はN71° Wである。

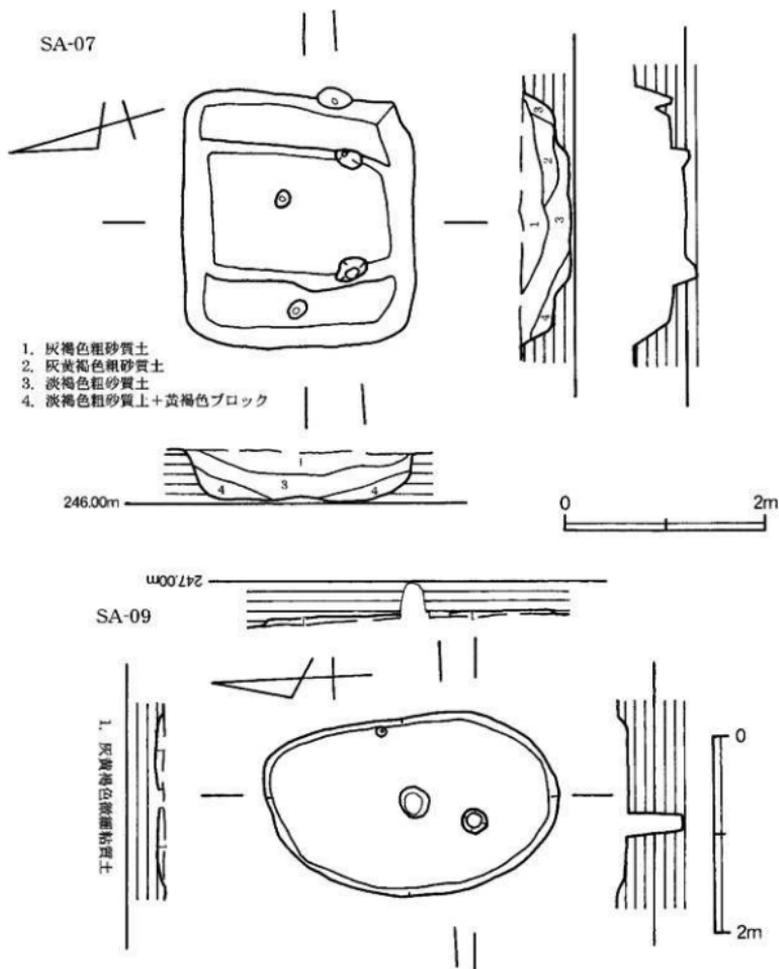


第90図 SA-06 遺構実測図

SB-79 (第103図)

Ⅲ区の西部南端にある、梁行1間2.10m、桁行2間3.23mを測る建物である。柱穴の規模は、径11~15cm、深さ17~43cmを測る。主軸方位はN65°Wである。

SB-80 (第103図)



第91図 SA-07・09 遺構実測図

Ⅲ区の西部南端にある、梁行1間2.80~3.04m、桁行2間3.50~3.65mを測る建物である。柱穴の規模は、径28~47cm、深さ25~45cmを測る。主軸方位はN73° Wである。

**SB-81** (第104図)

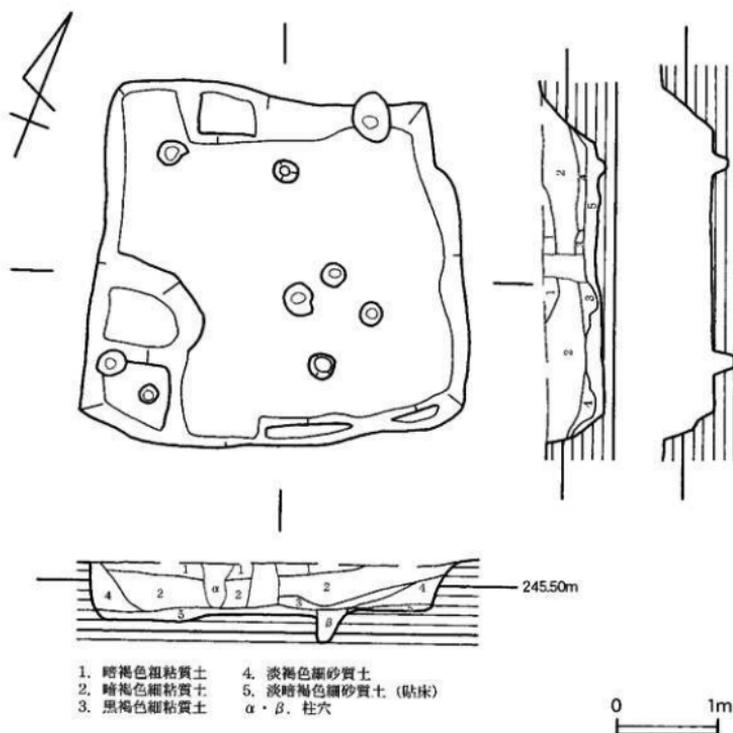
Ⅱ区の中央やや西寄りにある、梁行2間4.12m、桁行3間6.82mを測る建物である。柱穴の規模は、径27~55cm、深さ11~33cmを測る。主軸方位はN32° Eである。

**SB-82** (第104図)

Ⅱ区の中央部南側にある、梁行2間3.40~3.46m、桁行3間4.68~4.88mを測る建物である。柱穴の規模は、径25~53cm、深さ15~52cmを測る。主軸方位はN18° Eである。

**SB-83** (第104図)

Ⅱ区の中央やや東寄りにある、梁行2間3.95~4.09m、桁行3間7.52~7.62mを測る建物である。柱穴の規模は、径29~52cm、深さ18~42cmを測る。主軸方位はN85° Wである。



第92図 SA-14 遺構実測図

**SB-84** (第104図)

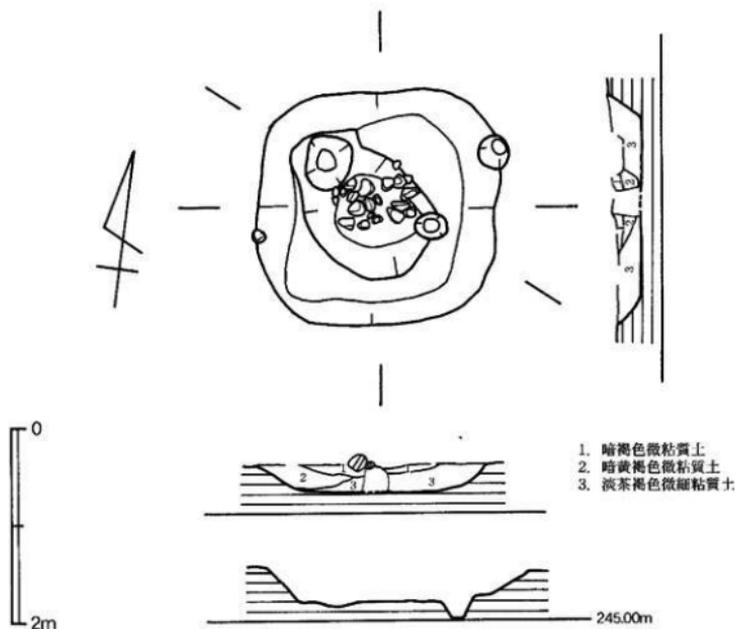
Ⅱ区の中央部南側やや東寄りにある、梁行2間5.74~6.25m、桁行3間9.28~9.86mを測る建物である。柱穴の規模は、径27~43cm、深さ16~43cmを測る。主軸方位はN83°Wである。

**SB-85** (第105図)

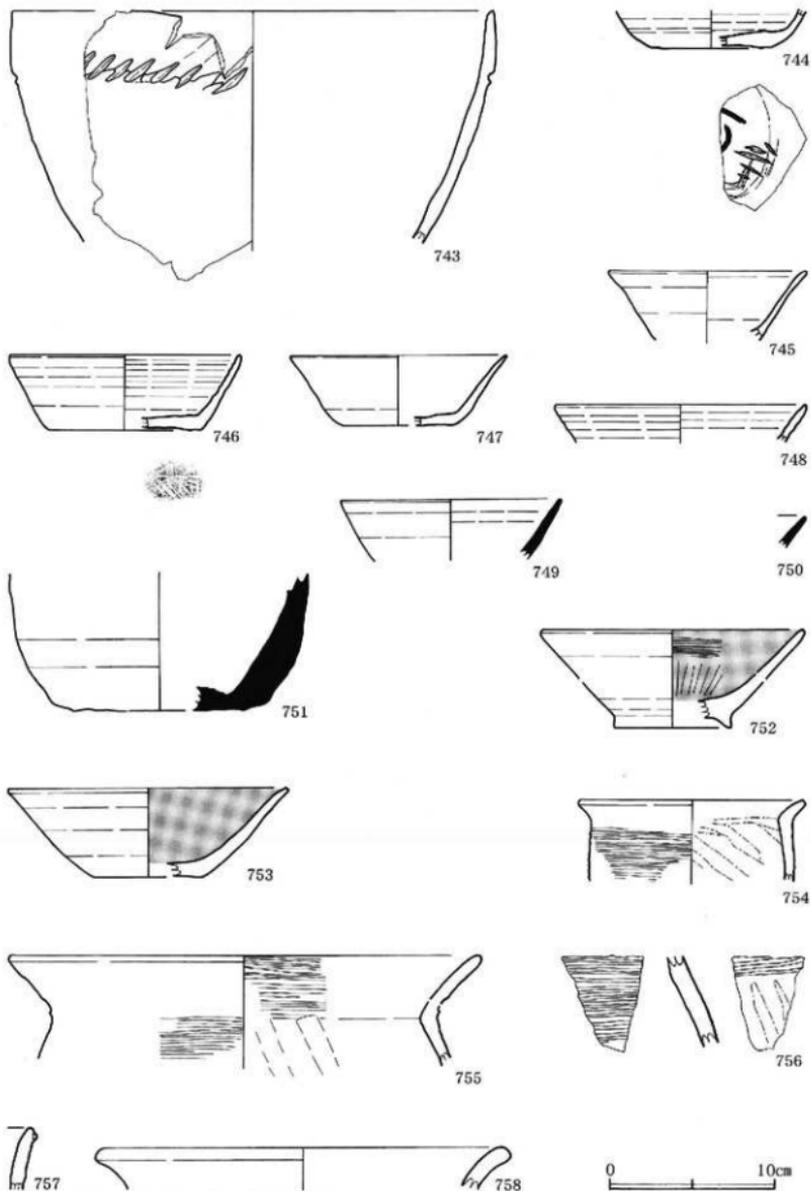
Ⅱ区の中央部東端にある建物で、東端が東壁に入っているため、詳細は不明であるが、現存で梁行2間4.30m、桁行3間7.92mを測る、北面に廂を持つ建物である。柱穴の規模は、径29~39cm、深さ29~59cmを測る。主軸方位はN78°Wである。この建物の廂部分の西から2番目の柱穴の底に近い部分から墨書土器の塊(682)で、体部外面に3文字あり、左の2文字は、「鷹」と正位で書かれており、右端のものは、はっきりとしないが、おそらく「鷹」と書かれたものと思われる。土器自体はそれほど割れておらず、廂の重みや土圧を受けていなかったことを物語っており、建物廃棄後に埋められたと思われる。時期は9世紀後半である。

**SB-86** (第105図)

Ⅱ区の南部やや西寄りにある、梁行2間3.08~3.24m、桁行3間5.45~5.62mを測る建物である。柱穴の規模は、径21~39cm、深さ28~58cmを測る。主軸方位はN58°Wである。

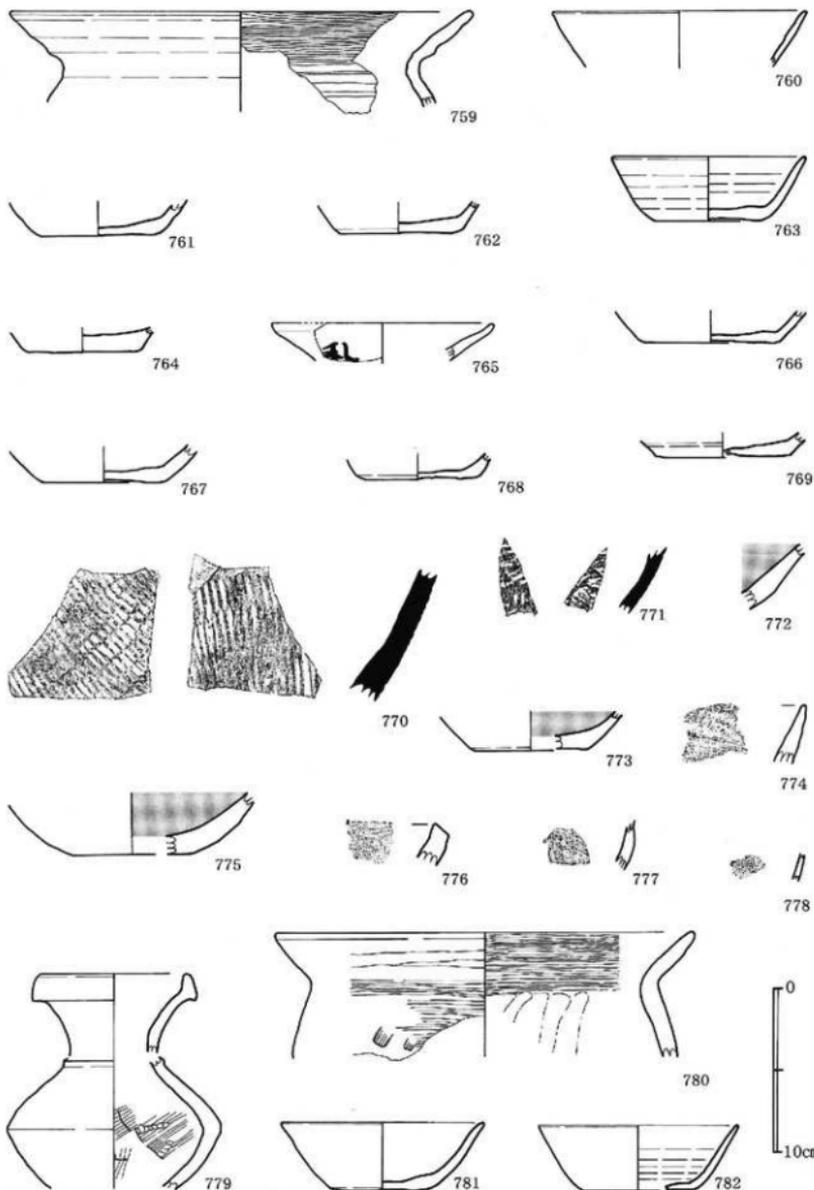


第93図 SA-29 遺構実測図



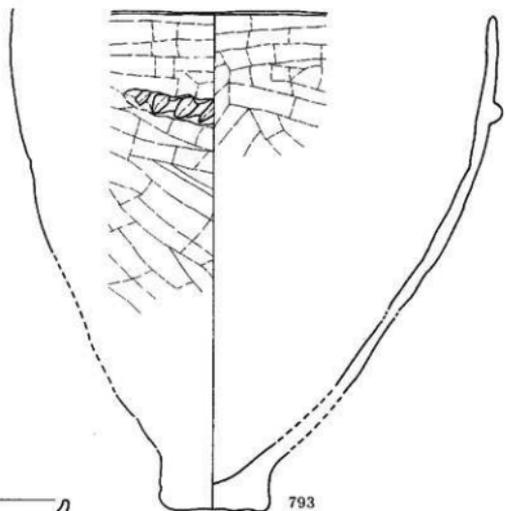
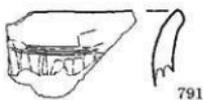
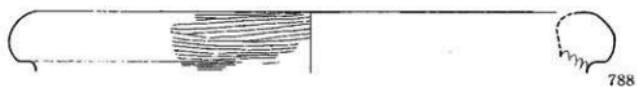
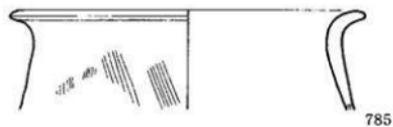
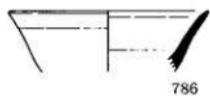
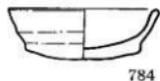
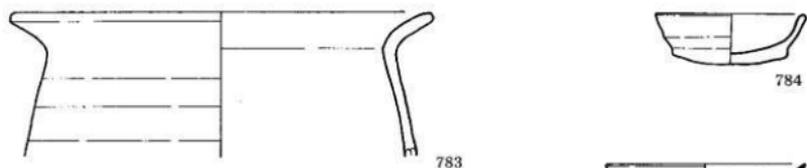
第94圖 SA-06·07 出土遺物実測図

743~753: SA-06.754~755: SA-07. III 756~758: SA-07



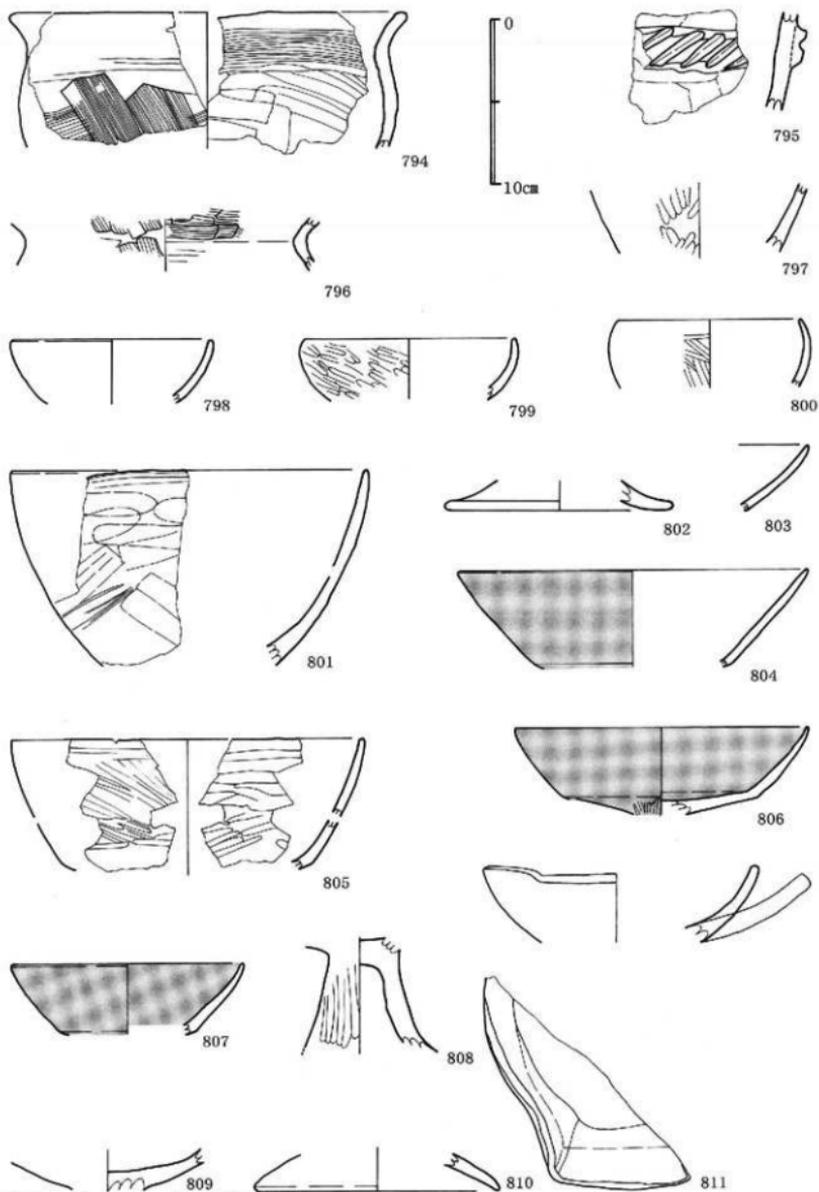
第95図 SA-07・09 出土遺物実測図

759~764・766~768~769・772~778 SA-07,765・767・770 SA-07・II層  
771 SA-07・I層 779~782 SA-09

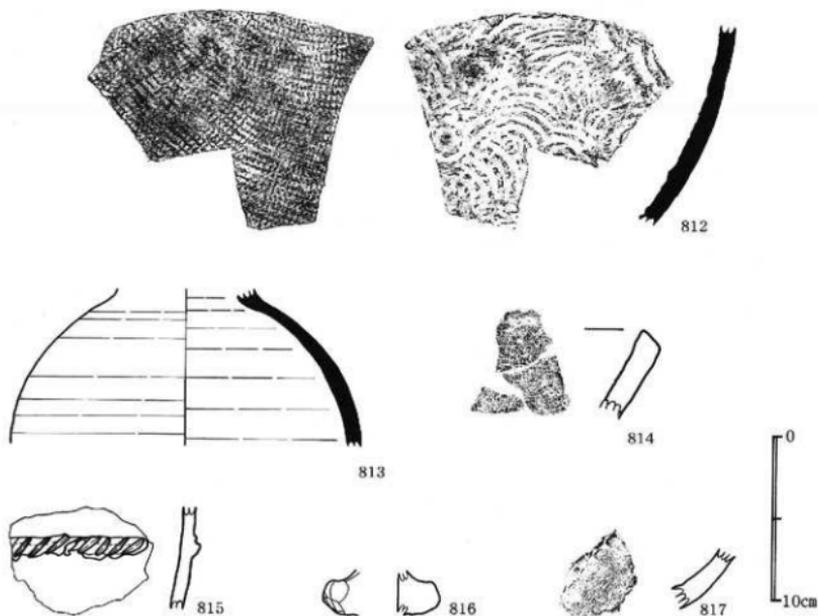


第96图 SA-09·14 出土遺物実測図

783~787-SA-09788~793-SA-14



第97图 SA-14 出土遗物实测图



第98図 SA-14・29 出土遺物実測図

812~814-SA-14/815~817-SA-29

**SB-87** (第105図)

Ⅱ区の南部北側西端にある、梁行2間3.98m、桁行3間6.62~6.70mを測る建物である。柱穴の規模は、径28~35cm、深さ26~35cmを測る。主軸方位はN12° Eである。

**SB-88** (第105図)

Ⅱ区の南部西端にある、梁行2間2.90~3.10m、桁行2間4.29~4.57mを測る建物である。柱穴の規模は、径32~42cm、深さ26~32cmを測る。主軸方位はN76° Wである。

**SB-89** (第105図)

Ⅱ区の南部西端にある、梁行2間4.50~4.82m、桁行2間5.92~6.25mを測る建物である。柱穴の規模は、径19~56cm、深さ13~38cmを測る。主軸方位はN74° Wである。

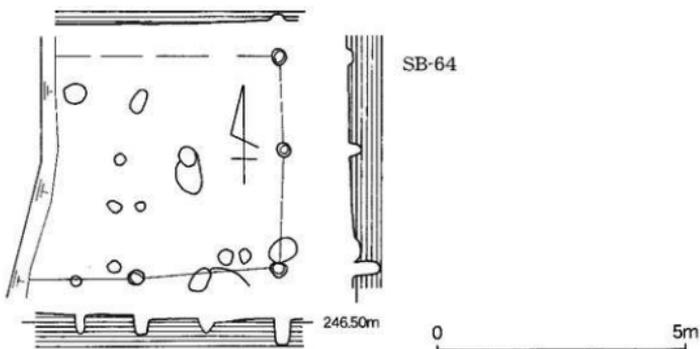
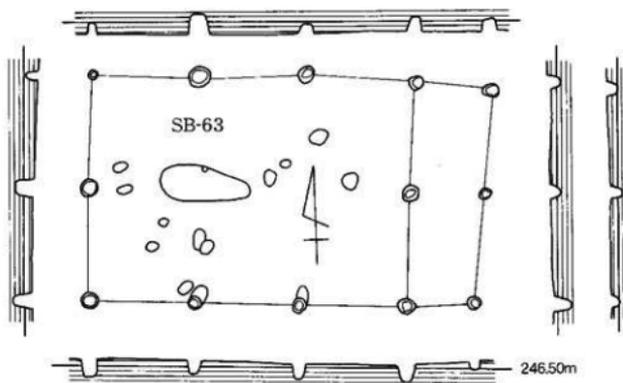
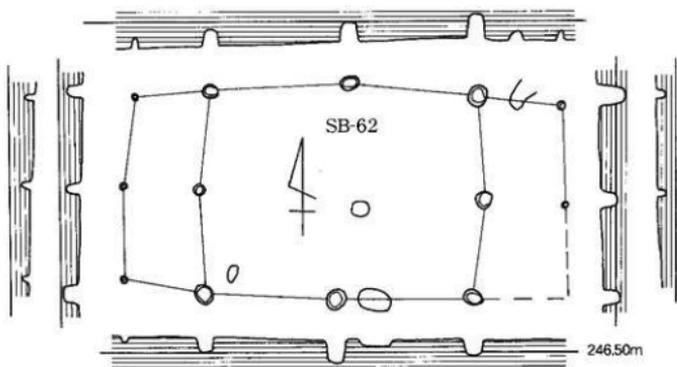
**SB-90** (第106図)

Ⅱ区の南部西端にある、梁行2間4.33~4.50m、桁行3間6.20~6.22mを測る建物である。柱穴の規模は、径26~42cm、深さ23~43cmを測る。主軸方位はN73° Wである。

**SB-91** (第106図)

Ⅱ区の南部中央にある、梁行2間4.10~4.27m、桁行3間6.55~6.64mを測る建物である。柱穴の規模は、径29~54cm、深さ19~45cmを測る。主軸方位はN84° Wである。

**SB-92** (第106図)

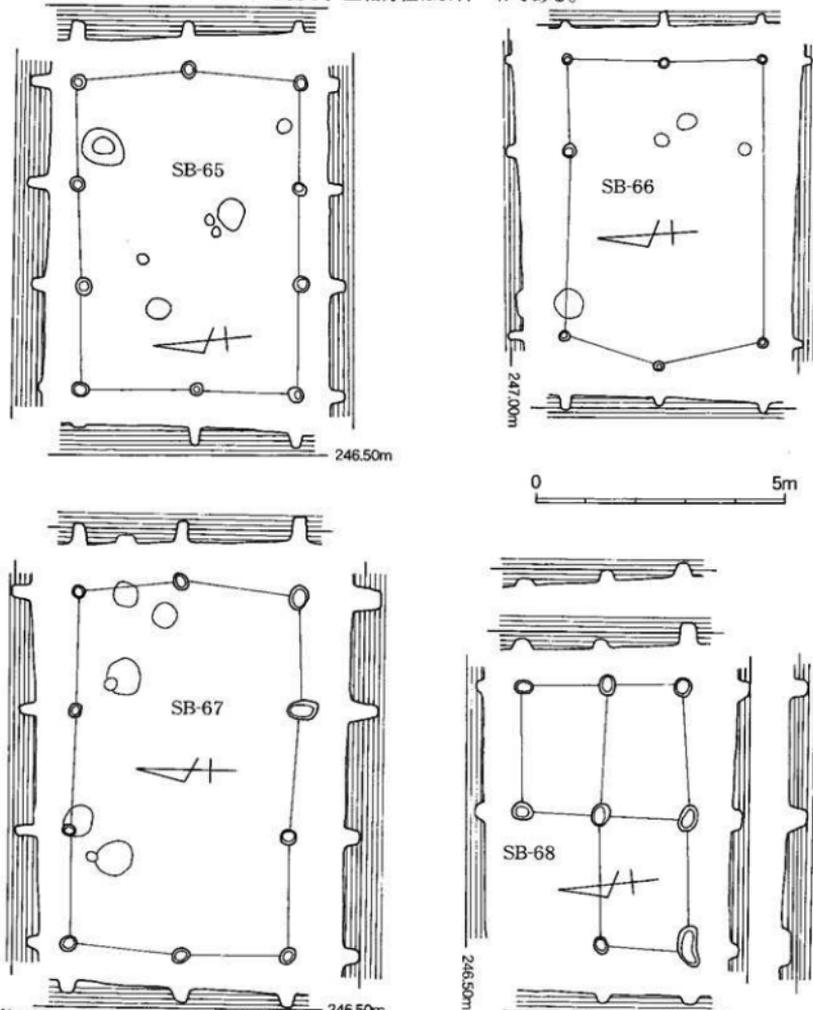


第99図 SB-62~64 遺構実測図

Ⅱ区の南部中央にある、梁行2間4.17~4.24m、桁行3間7.22~7.29mを測る建物である。柱穴の規模は、径32~70cm、深さ26~58cmを測る。主軸方位はN15° Eである。

SB-93 (第106図)

Ⅱ区の南部中央にある、梁行2間4.27~4.29m、桁行3間9.48mを測る建物である。柱穴の規模は、径32~47cm、深さ33~58cmを測る。主軸方位はN77° Wである。



第100図 SB-65~68 遺構実測図

**S B-94** (第107図)

Ⅱ区の南部中央やや東よりにある、梁行2間4.00m、桁行3間9.22mを測る建物である。柱穴の規模は、径28～51cm、深さ21～70cmを測る。主軸方位はN80° Wである。

**S B-95** (第107図)

Ⅱ区の南部中央やや東よりにある、梁行2間3.84～3.90m、桁行3間7.54～7.56mを測る建物である。柱穴の規模は、径35～63cm、深さ27～46cmを測る。主軸方位はN76° Wである。

**S B-96** (第107図)

Ⅱ区の南部東端にある、現存で、梁行1間2.04m、桁行3間6.10mを測る建物である。柱穴の規模は、径41～72cm、深さ15～39cmを測る。主軸方位はN71° Wである。

**S B-97** (第107図)

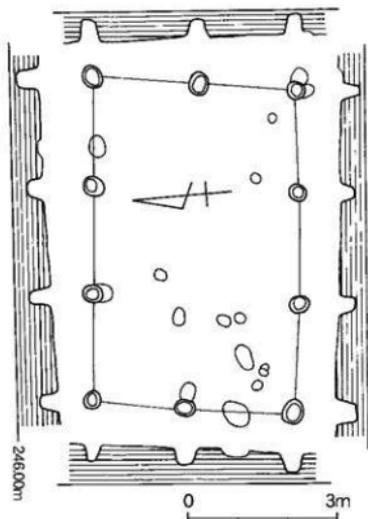
Ⅱ区の南部南壁際にある建物で、南側が南壁に入っているため、詳細は不明であるが、現存で、梁行1間1.96m、桁行3間7.66mを測る。柱穴の規模は、径32～48cm、深さ27～53cmを測る。主軸方位はN78° Wである。

**S B-98** (第108図)

Ⅱ区の南部東端にある、梁行2間4.16～4.30m、桁行3間8.20～8.50mを測る建物である。柱穴の規模は、径34～81cm、深さ25～69cmを測る。主軸方位はN75° Wである。

**S B-153** (第108図)

Ⅱ区の中央部西側にある、梁行2間6.80m、桁行3間10.78mを測る建物である。柱穴の規模は、径30～51cm、深さ13～47cmを測る。主軸方位はN70° Wである。



第101図 S B-69 遺構実測図

**S B-154** (第108図)

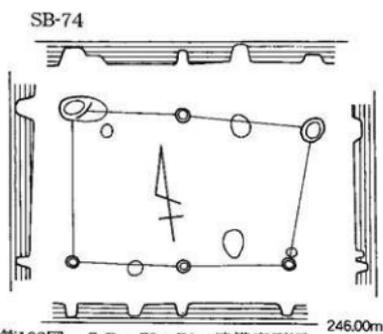
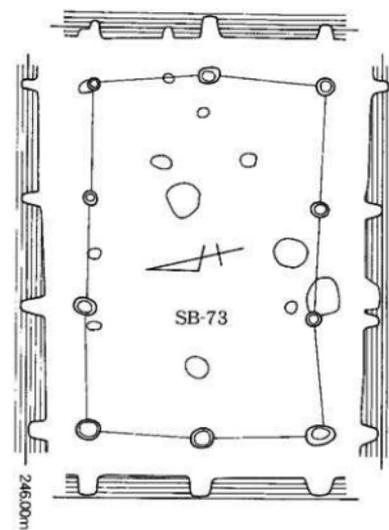
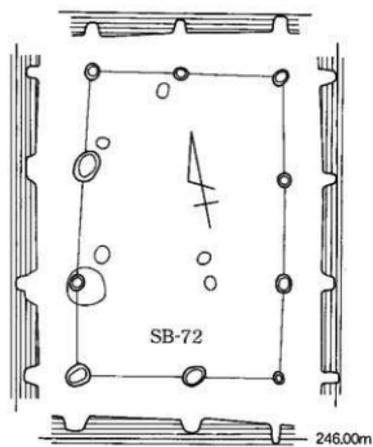
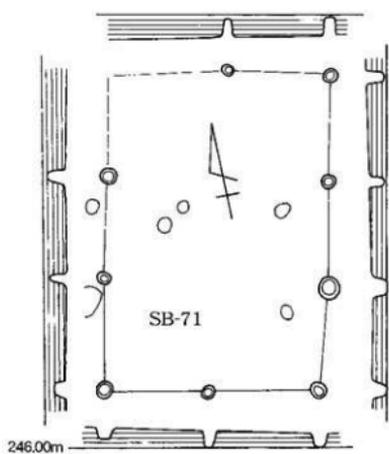
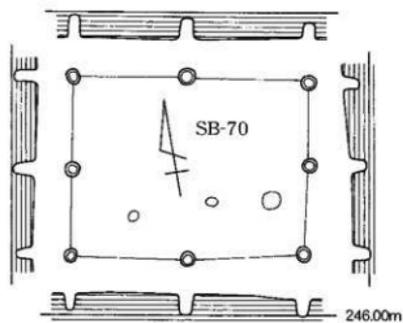
Ⅱ区の中央部西側にある、梁行1間3.00m、桁行3間8.34mを測る建物で、柱穴の規模は、径28～54cm、深さ26～52cmを測る。主軸方位はN65° Wである。

**S B-155** (第108図)

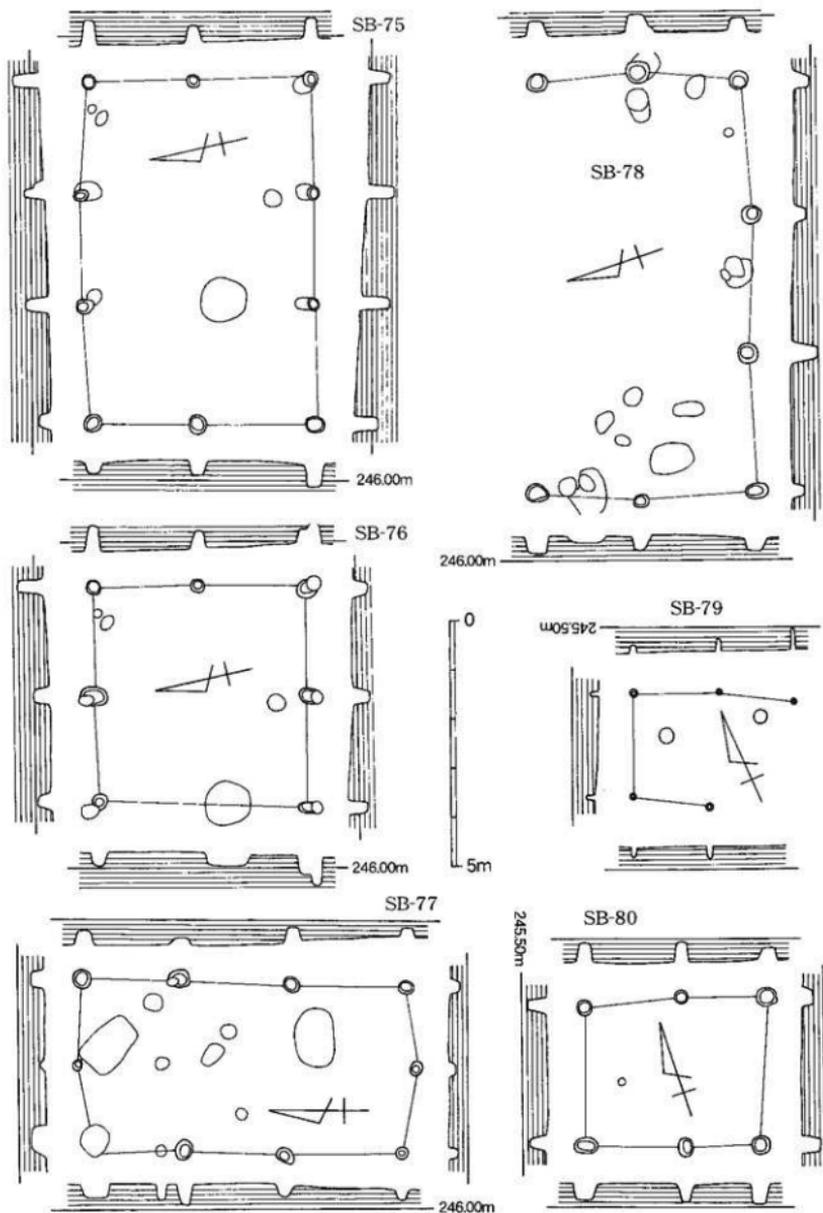
Ⅱ区の中央部西側にある、現存で、梁行2間6.56mの建物の可能性がある。柱穴の規模は、径32～39cm、深さ18～32cmを測る。主軸方位はN80° Wである。

**S K-39**

調査区の西部中央西壁際で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.34m、短径



第102図 SB-70~74 遺構実測図



第103図 SB-75~80 遺構実測図

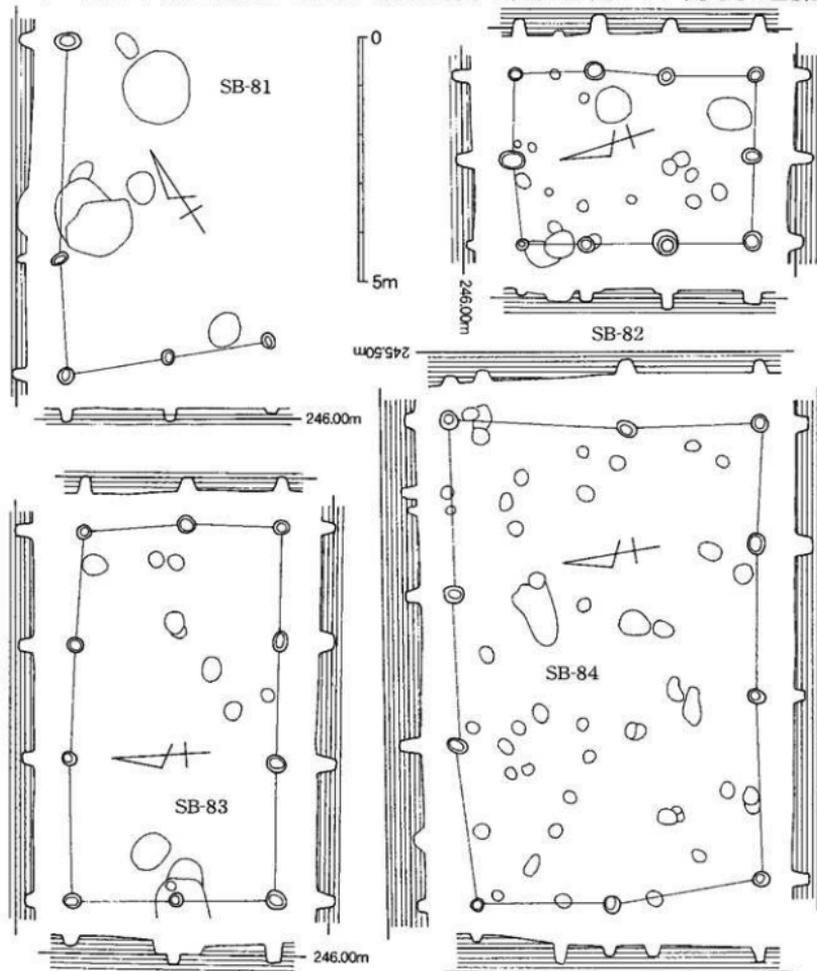
0.73m、検出面から床面までの深さ23cmを測る。遺物は土師器片、黒色土器片が出土した。

**SK-50**

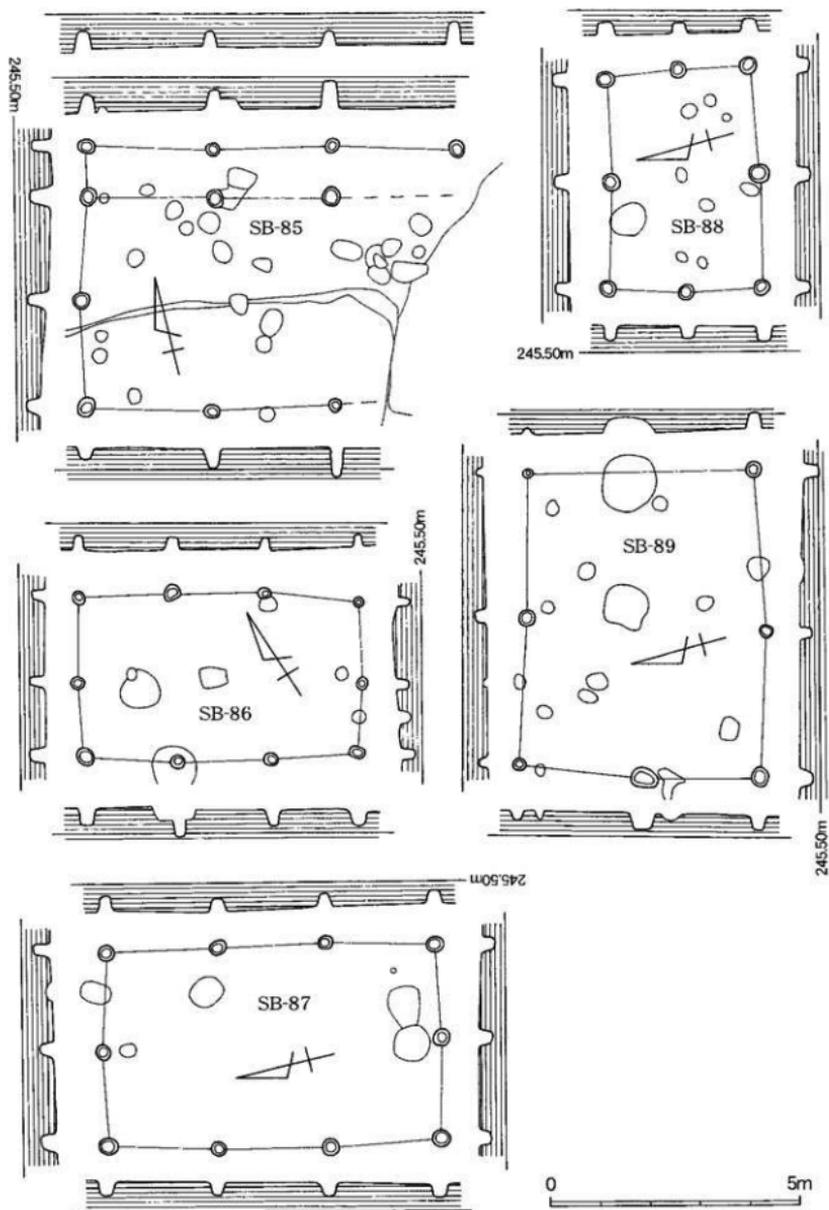
調査区の西部中央、SK-39の東4mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.74m、短径0.65m、検出面から床面までの深さは17cmを測る。遺物は磨製石鏃が出土した。

**SK-151 (第109図)**

Ⅱ区の西部やや北側で検出された、0.76×1.81mの方形で東側が細くなっていく形をした土墳墓



第104図 SB-81~84 遺構実測図



第105図 SB-85~89 遺構実測図

であり、検出面から床面までの深さは、20cmを測る。土壌内からは、中央から西へ40cm、南へ10cmのところで、皿の底部と鏡の鏡面を合わせて、立てた状態で出土した。床面からは10cmほど浮いた状態である。鏡の下方には木片が少量出土しており、鏡は木箱に入った状態で副葬されたと思われる。鏡は青銅製の唐草双鳳鏡で、直径20.6cmを測り、時期は平安時代末期から鎌倉時代初期にかけてである。土層断面で確認はできなかったが、副葬品と思われる皿と鏡が床面より浮いた状態で出土していることから木棺墓であった可能性も考えられる。

#### SK-160 (第110図)

Ⅱ区の北部やや東側で検出された、方形を呈する土坑である。規模は、0.73×1.87m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は出土していない。形や規模から考慮すると土壌墓である可能性がある。

#### SK-161

SK-160の東1.2mで検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径1.14m、検出面から床面までの深さは24cmを測る。遺物は磨製石鏃が出土した。

#### SK-165

Ⅱ区の北部東側で検出された円形を呈する土坑である。規模は、径1.12m、検出面から床面までの深さは8cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

#### SK-170

Ⅱ区の北部中央で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.28m、短径0.88m、検出面から床面までの深さは21cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

#### SK-174

Ⅱ区の北部中央で検出された楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.88m、短径0.61m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は土師器片、黒色土器片が出土した。

#### SK-179

Ⅱ区の北部中央で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.46m、短径0.82m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は土師器片、須恵器片、黒色土器片が出土した。

#### SK-180

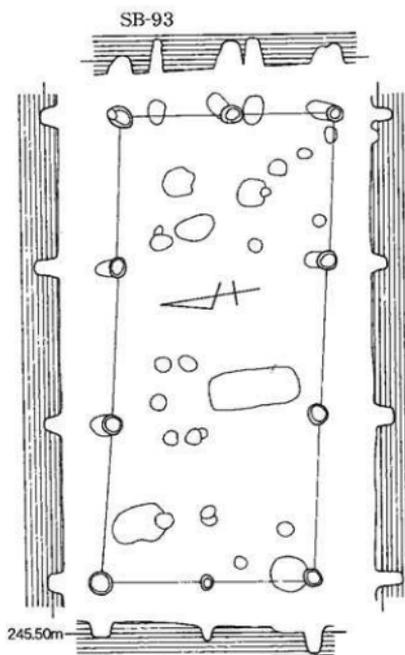
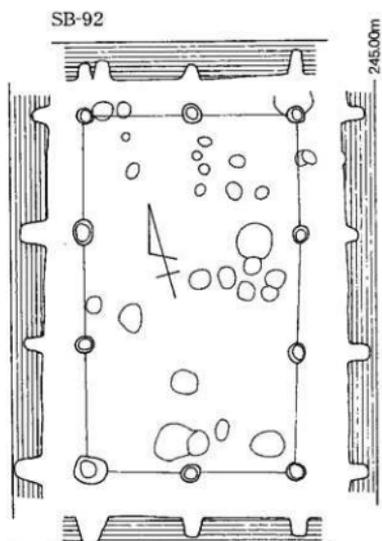
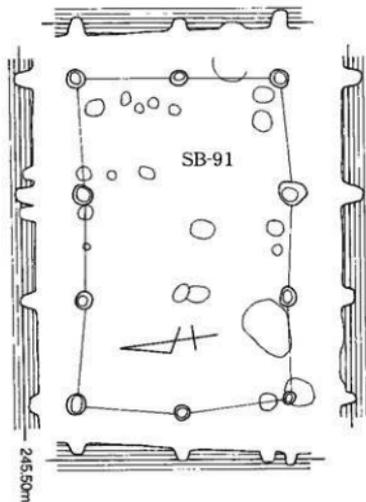
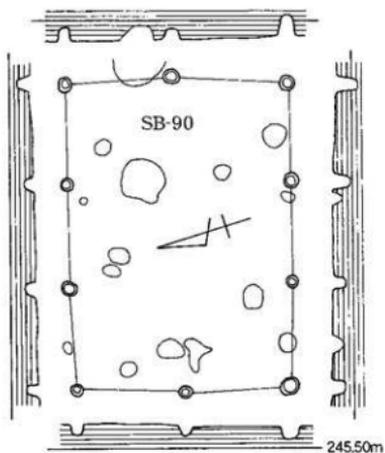
SK-179の東4mで検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径1.02m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

#### SK-187

Ⅱ区の中央部やや西側で検出された、楕円形の土坑である。規模は、長径1.15m、短径0.92m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。遺物は弥生土器片、土師器片が出土した。

#### SK-192

Ⅱ区の中央部で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.18m、短径0.92m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は弥生土器の甕と黒色土器の壺が出土した。



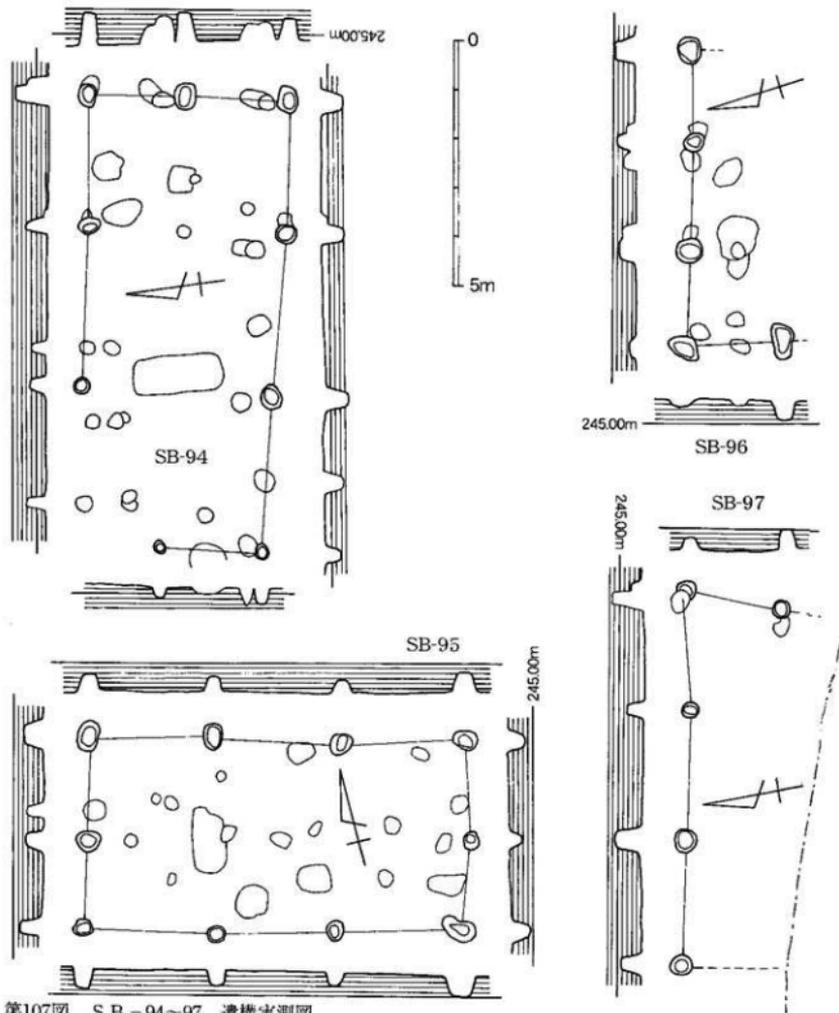
第106図 SB-90~93 遺構実測図

**SK-194**

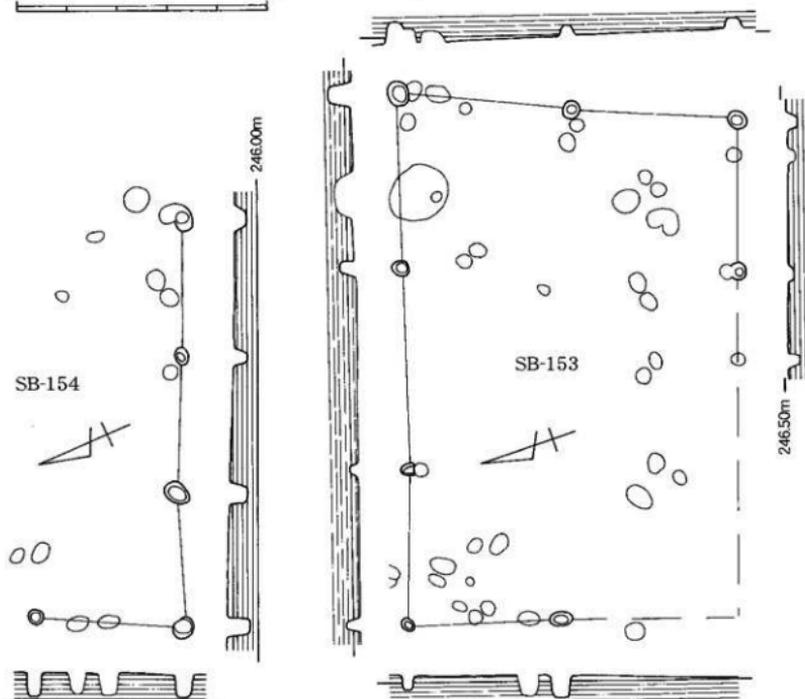
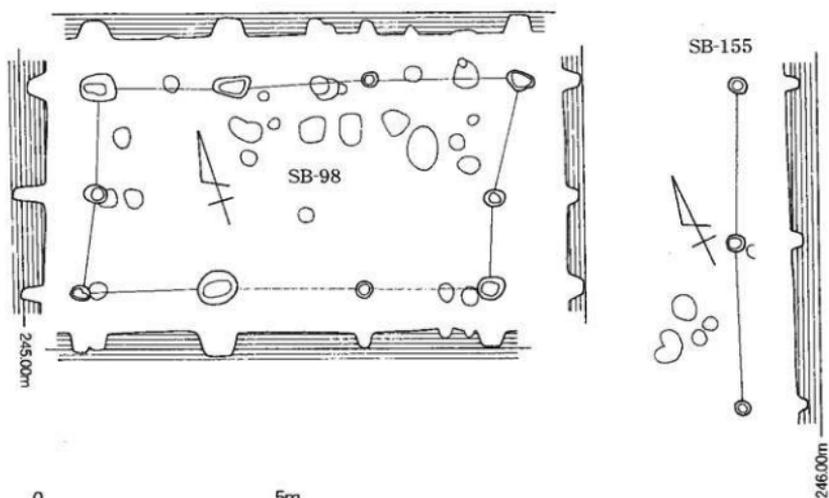
Ⅱ区の中央部やや西側で検出された、不整形を呈する土坑である。規模は、長径1.82m、短径1.21m、検出面から床面までの深さは34cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

**SK-199**

Ⅱ区の中央部南側で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.64m、短径1.12m、



第107図 SB-94-97 遺構実測図



第108图 SB-98·153~155 遺構実測図

検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は土師器の甕が出土した。

#### SK-200

SK-194の南西5.5mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.78m、短径0.67m、検出面から床面までの深さは19cmを測る。遺物は出土していない。

#### SK-201

SK-200の西3mで検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.78m、検出面から床面までの深さは12cmを測る。遺物は出土していない。

#### SK-202 (第110図)

Ⅱ区の南部西側で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.76m、短径0.68m、検出面から床面までの深さは28cmを測る。土坑内からは、20~30cm大の扁平な礫が重なって検出された。遺物は土師器片、黒色土器片が出土した。

#### SK-206

Ⅱ区の南部西側で検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.86m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は土師器片、黒色土器片が出土した。

#### SK-208

Ⅱ区の南部西側で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.16m、短径0.97m、検出面から床面までの深さは12cmを測る。遺物は縄文土器の口縁部片が出土した。

#### SK-210

Ⅱ区の南部西側で検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径1.16m、検出面から床面までの深さは13cmを測る。遺物は土師器片、須恵器片、陶磁器片が出土した。

#### SK-213

SK-210の東1mで検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.87m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は布痕土器が出土した。

#### SK-214

SK-213の東0.7mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.06m、短径0.87m、検出面から床面までの深さは12cmを測る。遺物は黒色土器の鉢と白磁の甕が出土した。時期は10~12世紀と思われる。

#### SK-216

SK-214の北東0.3mで検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.89m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は土師器の高坏が出土した。

#### SK-218

Ⅱ区の南部東側で検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.74m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は土師器の壺が出土した。

#### SK-219 (第110図)

S K - 217の南東5mで検出された、長方形を呈する土坑である。規模は、0.74×1.85m、検出面から床面までの深さは15cmを測る。土坑内の中央から北へ50cm、東へ10cmのところ鉄製の小杯が、床直上で出土した。この小杯は、口径4.8cm、器高2.2cmを測る。その他の遺物は、弥生土器の甕の土器片と白磁の小皿が出土した。土壌墓であると思われる。時期は白磁の年代で9～12世紀である。

#### S K - 220

Ⅱ区の南部西側、S K - 211の南2.2mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.03m、短径0.82m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は黒色土器B類の鉢が出土した。

#### S K - 221

S K - 220の東1mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.07m、短径0.94m、検出面から床面までの深さは19cmを測る。遺物は弥生土器片、土師器片が出土した。

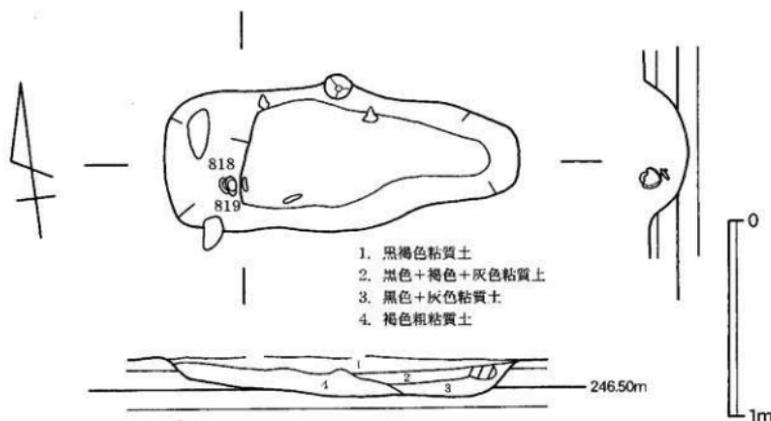
#### S K - 222 (第110図)

Ⅱ区の南部西側で検出された、不整形を呈する土坑である。規模は、長径1.07m、短径0.88m、検出面から床面までの深さは30cmを測る。土坑内からは、5～40cm大の礫が重なって検出された。遺物は土師器片、黒色土器片が出土した。

#### S K - 225

Ⅱ区の南部中央南壁よりで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.87m、短径0.72m、検出面から床面までの深さは23cmを測る。遺物は須恵器の壺が出土した。

#### S K - 228



第109図 S K - 151 遺構実測図

SK-227の西1mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.34m、短径1.12m、検出面から床面までの深さは23cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

#### SK-229

SK-228に南西接する、円形を呈する土坑である。規模は、径0.76m、検出面から床面までの深さは22cmを測る。遺物は土師器片、黒色土器片が出土した。

#### SK-230

SK-229の南0.1mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.15m、短径0.97m、検出面から床面までの深さは24cmを測る。遺物は黒色土器の皿が出土した。

#### SK-231

SK-230の南0.4mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.28m、短径1.02m、検出面から床面までの深さは28cmを測る。遺物は土師器片、黒色土器片が出土した。

#### SK-232

SK-225の南西0.4mで検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.98m、検出面から床面までの深さは25cmを測る。遺物は土師器片、陶磁器片が出土した。

#### SK-234

SK-219の南3mで検出された、不整形を呈する土坑である。規模は、長径1.23m、短径0.63m、検出面から床面までの深さは24cmを測る。遺物は黒色土器の皿が出土した。

#### SK-235

Ⅱ区の南東隅で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.08m、短径0.68m、検出面から床面までの深さは23cmを測る。遺物は出土していない。

#### SK-238

SK-218の東1.4mで検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径1.06m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は土師器片、黒色土器片が出土した。

#### SK-249

Ⅱ区の南部東壁際、SK-238の北7.3mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.26m、短径1.06m、検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

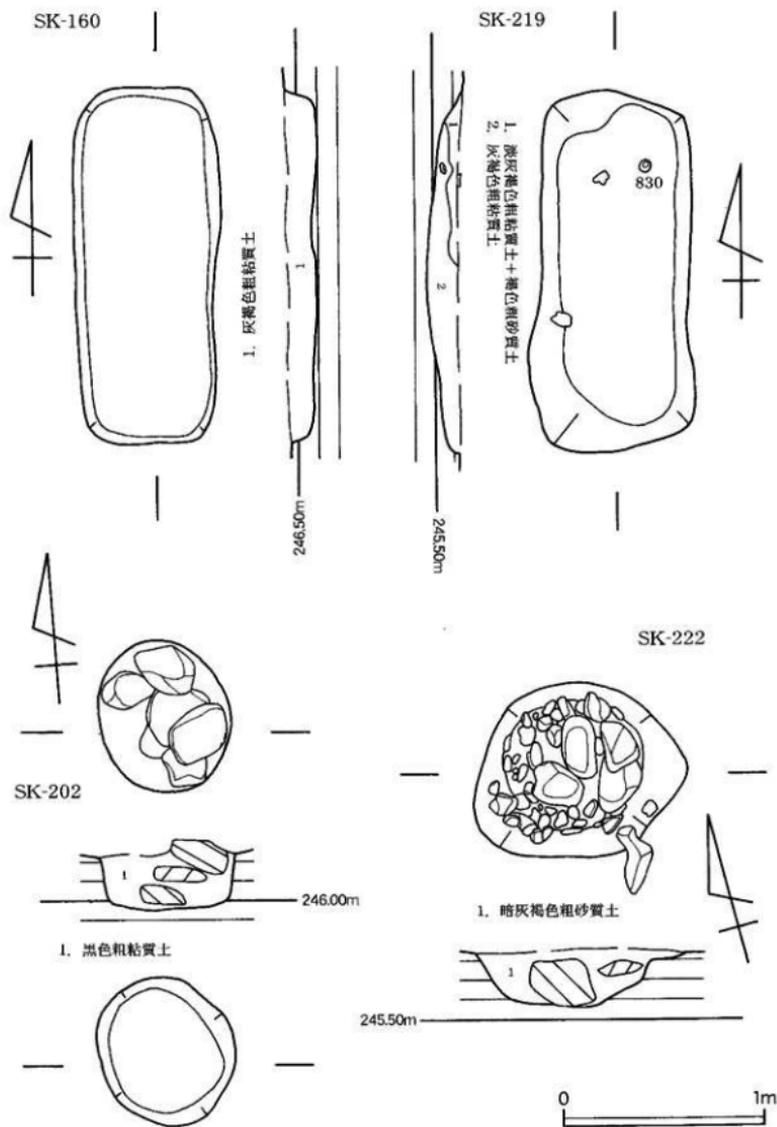
#### SK-254 (第111図)

Ⅱ区の中央部やや西側で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.23m、短径1.04m、検出面から床面までの深さは28cmを測る。土坑内からは、5~20cmほどの礫とともに、土師器の甕・壺・埴、須恵器の甕、黒色土器の埴などの土器片が出土し、時期は10世紀と思われる。

#### SK-256

Ⅱ区の中央部で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.05m、短径0.78m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は、土師器の坏と皿が出土した。

#### SK-258



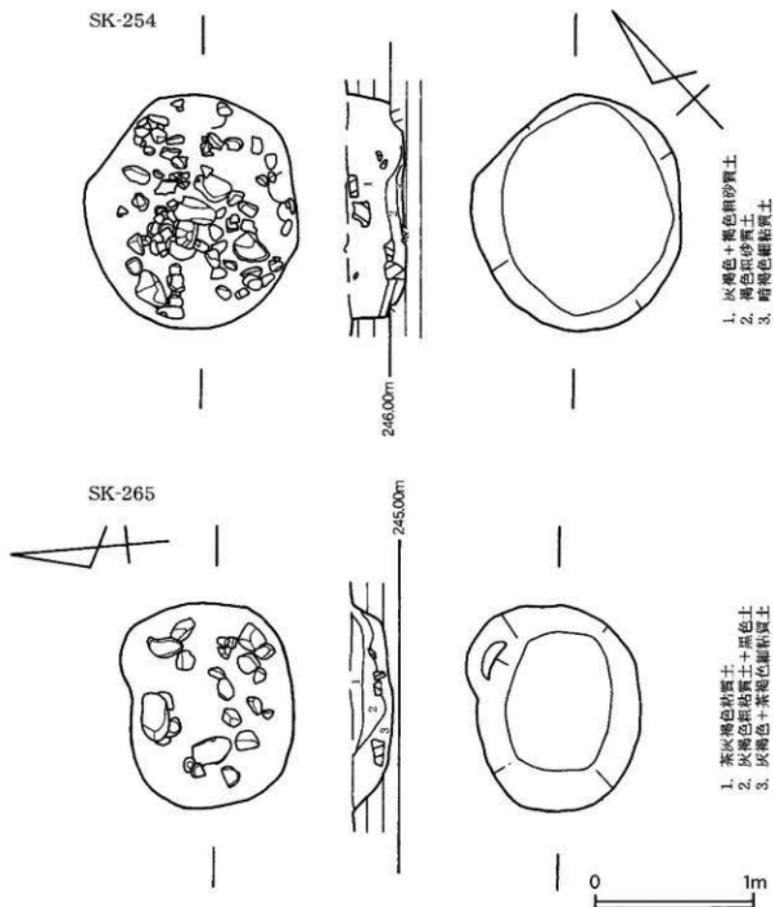
第110圖 SK-160・202・219・222 遺構実測圖

Ⅲ区の西部中央で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.38m、短径1.24m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は出土していない。

SK-259

Ⅲ区の西部やや南側、Ⅱ区との境で検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.82m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は出土していない。

SK-265 (第111図)



第111図 SK-254・265 遺構実測図

Ⅲ区の北部中央北壁際で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.04m、短径0.83m、検出面から床面までの深さは22cmを測る。土坑内から5～20cmほどの礫とともに、土師器の皿と黒色土器の壺が出土した。

#### SK-272 (第112図)

Ⅱ区の北部中央やや北側で検出された、方形を呈する土坑である。規模は、1.08×1.34m、検出面から床面までの深さは57cmを測る。遺物は須恵器の坏の口縁部片が出土した。

#### SK-273

Ⅱ区の北部、SK-253の南西3mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.9m、短径0.78m、検出面から床面までの深さは23cmを測る。遺物は出土していない。

#### SK-274

Ⅱ区の北部中央、SK-272の南1mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.4m、短径1.21m、検出面から床面までの深さは24cmを測る。遺物は、弥生土器の甕と土師器の甕・壺・高坏、須恵器の高坏が出土した。

#### SK-275

SK-274の東隣で検出された、SK-274に切られている土坑である。詳細は不明であるが、南北長1.23m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

#### SK-276

SK-275の東隣で検出された、SK-275に切られている土坑である。詳細は不明であるが、南北長0.8m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は弥生土器片、土師器片が出土した。

#### SK-277

SK-274の西隣で検出された、不整形を呈する土坑である。規模は、長径0.82m、短径0.78m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は弥生土器片、土師器片が出土した。

#### SK-278

SK-277の西0.4mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.62m、短径0.39m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は弥生土器片、土師器片が出土した。

#### SK-281

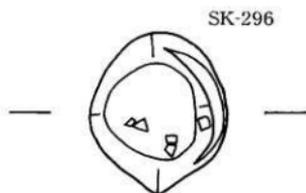
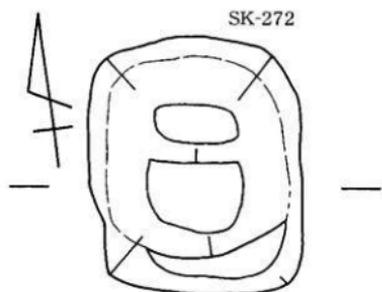
Ⅱ区の北部で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.24m、短径0.82m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は弥生土器片、土師器片が出土した。

#### SK-288

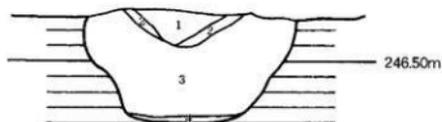
Ⅱ区の中央部東側、SK-160の南4.4mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径2.58m、短径1.36m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は弥生土器片、土師器片が出土した。

#### SK-291

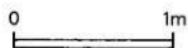
Ⅲ区の南部西側、Ⅱ区との境で検出された、方形を呈する土坑である。規模は、1.32×1.97m、



1. 暗灰褐色砂質土



1. 暗褐色粘質土      3. 淡黃褐色粘質土  
2. 白色+赤褐色粘質土      4. 黑色粘質土



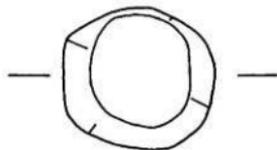
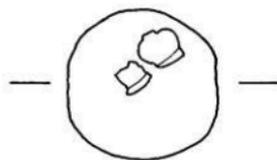
SK-292



1. 暗灰褐色砂質土

245.50m

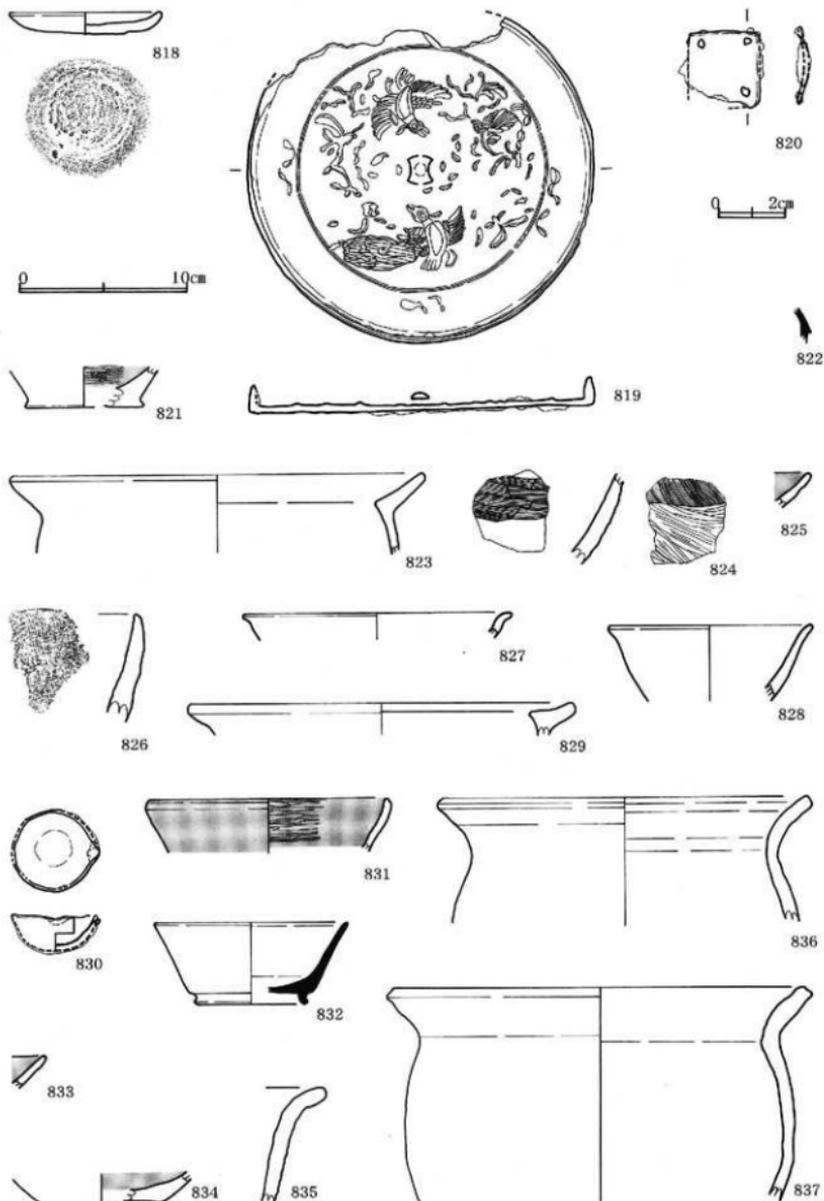
SK-298



245.50m

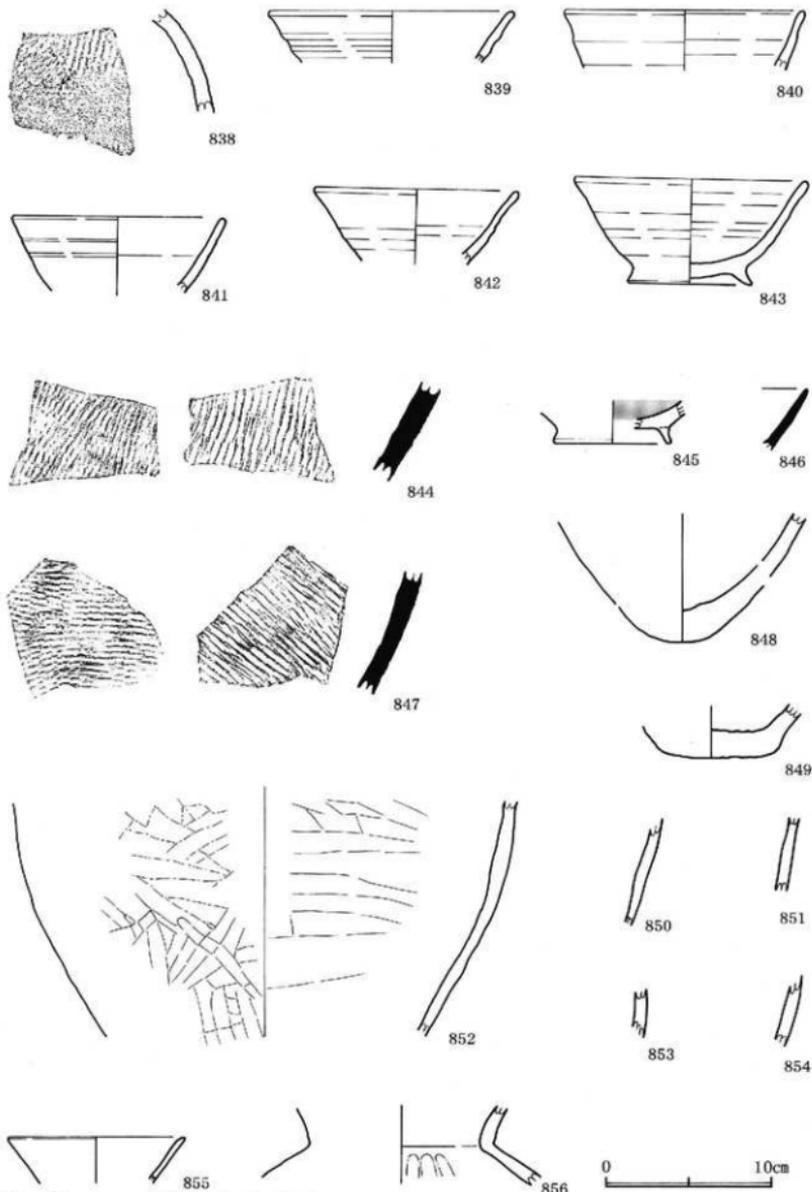
1. 暗黑褐色砂質土

第112図 SK-272・292・296・298 遺構実測図



第113图 SK 出土遺物実測図(1)

818-819 SK-151,820 SK-179,821-823 SK-192,822 SK-196,824 SK-199,  
 825 SK-214,826 SK-213,827 SK-216,828 SK-218,829-830 SK-219,831 SK-220,  
 832 SK-225,833 SK-230,834 SK-234,835-837 SK-234

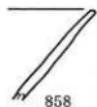


第114圖 SK 出土遺物実測圖(2)

838~845・847:SK 254,846:SK 272・ベルト内,848~856:SK 274



857



858



860



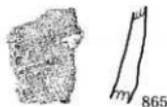
861



10cm



864



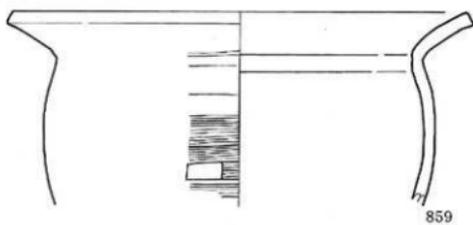
865



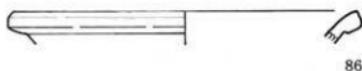
866



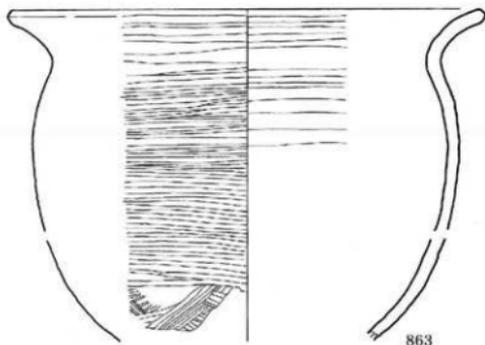
868



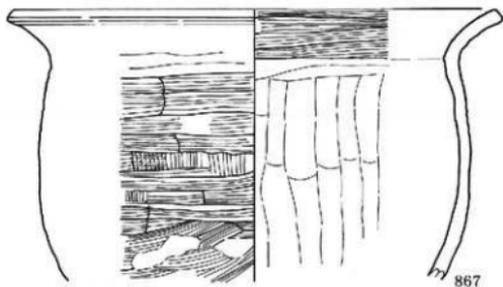
859



862



863



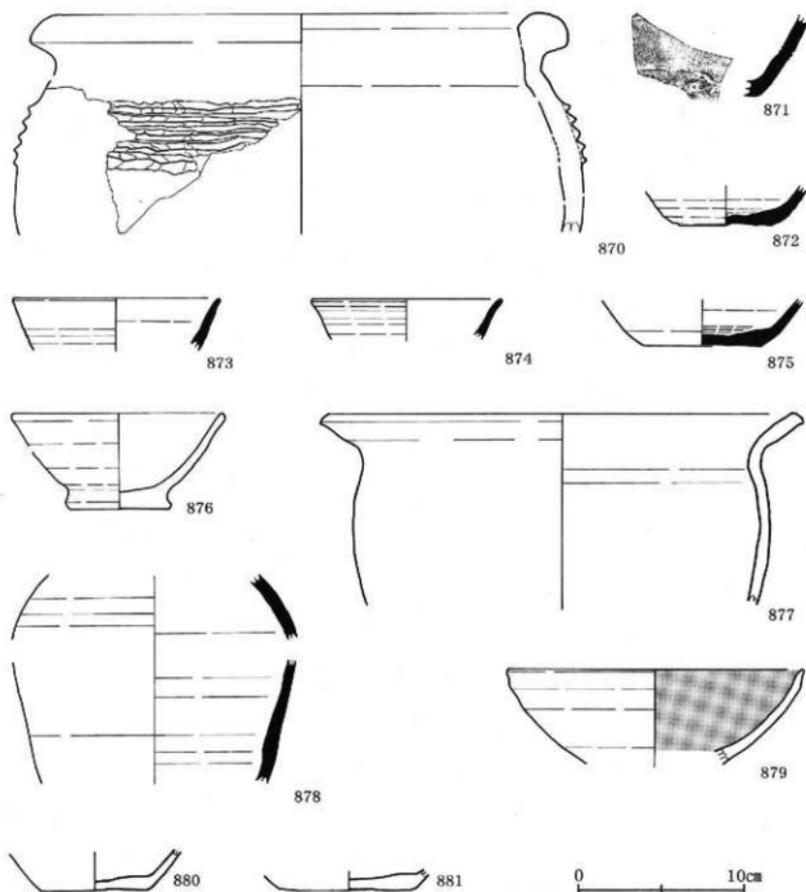
867



869

第115图 SK 出土遺物実測図(3)

857~858:SK 271,859-861:SK 291,860:SK 272,862~863:SK 298,864~865:SK 296,  
866~868:SK 299,869:SK 302



第116図 SK 出土遺物実測図(4)

870:SK-302,871~875:SZ.01,876~879:SZ.02,880~881:SS.01

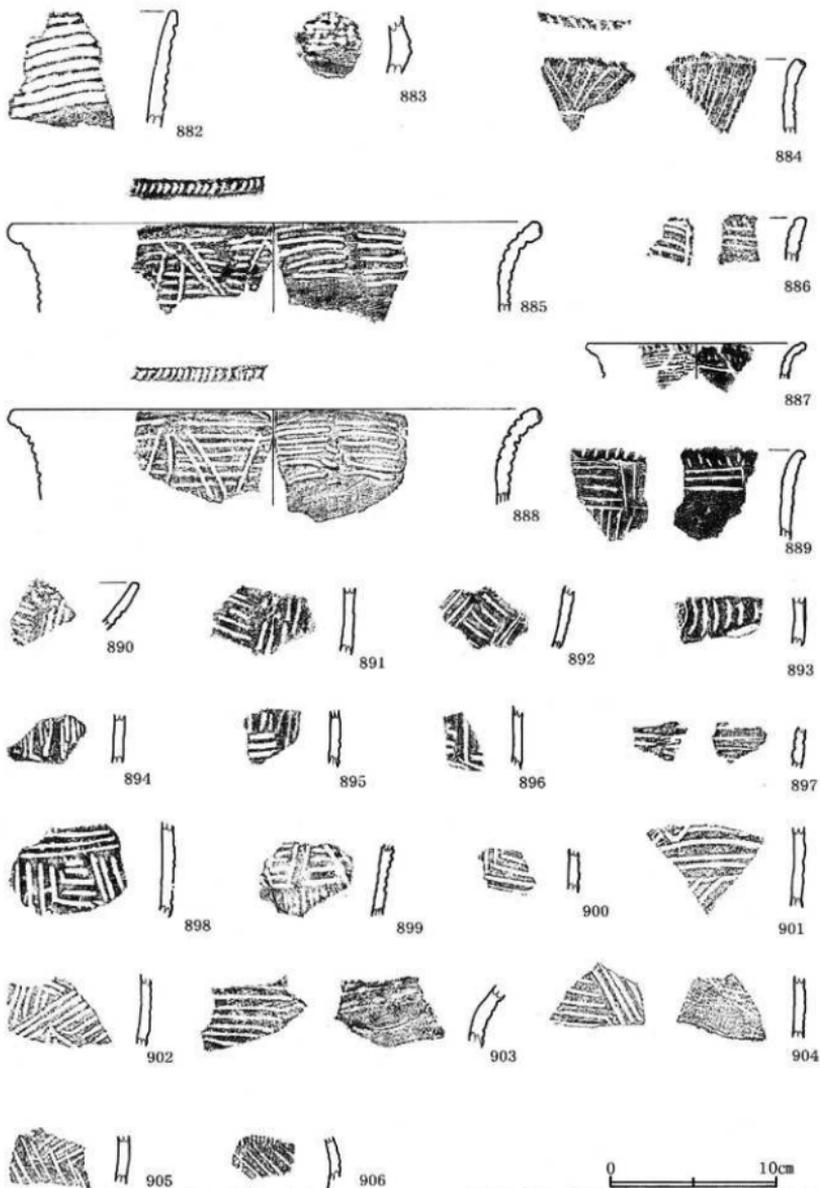
検出面から床面までの深さは23cmを測る。遺物は出土していない。

#### SK-292 (第112図)

Ⅲ区の南部西端、Ⅱ区との境で検出された、方形を呈する土坑である。規模は、0.97×1.50m、検出面から床面までの深さは22cmを測る。遺物は弥生土器片、土師器片が出土した。用途は形や規模を考慮すると土壙墓の可能性はある。

#### SK-294

SK-292の南5mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.75m、短径0.67m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は、弥生土器の壺、土師器の甕の口縁部片が出土し



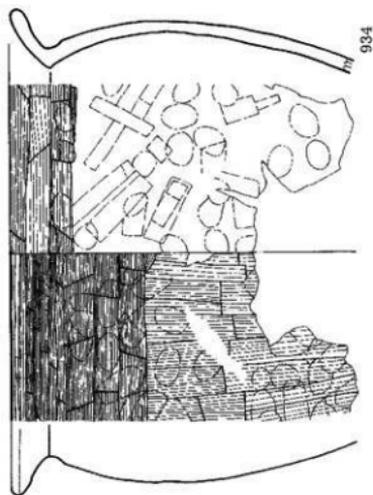
第117图 II区 出土遗物实测图(1)

884:326.885:391.886-893:SA-10.887-901:SA-12.890:SA-28.891:SA-21  
892-895-900-905:IV.894:SA-20

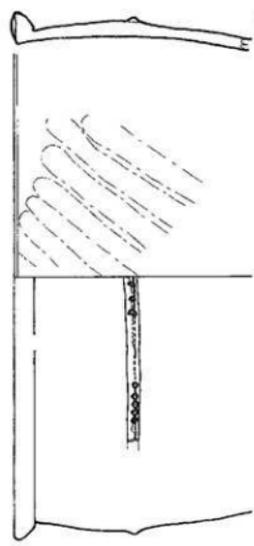


第118图 II区 出土遺物実測図(2)

907:SK-205,906-913:SA-14,909:SA-26,915~916:SA-10,917:SS-01,921-925-929-930:IV原,923:SA-25,927:SA-20、ベネト内



934



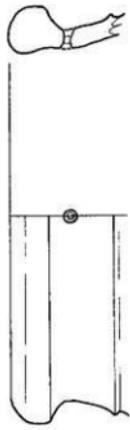
931



932



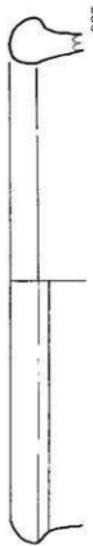
933



936



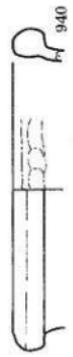
935



937



938



940

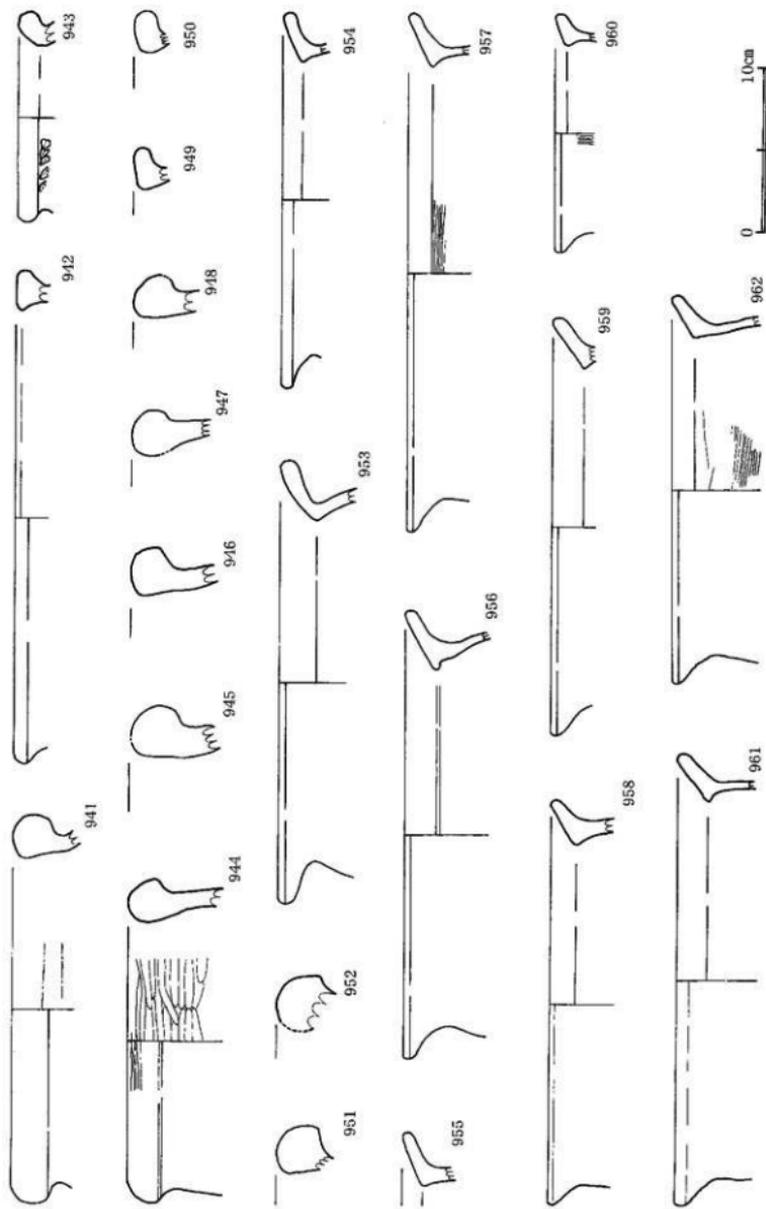


939



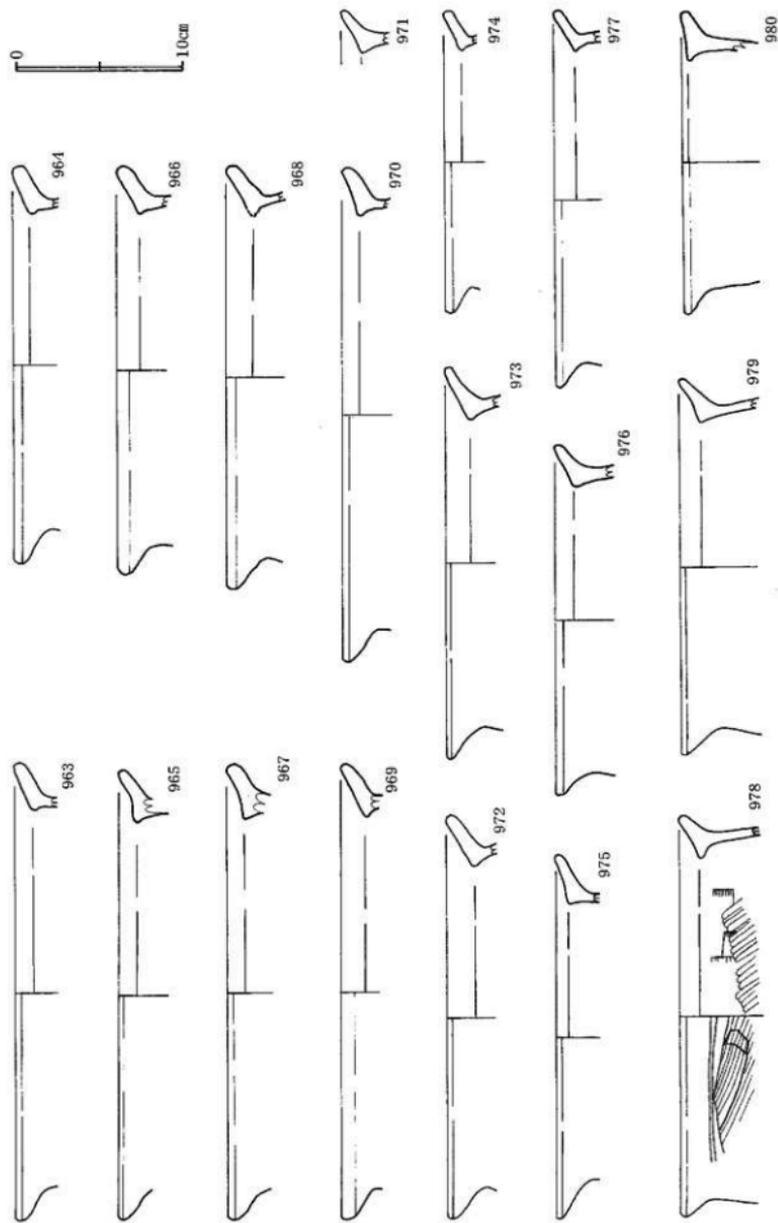
第119图 II区 出土遺物実測图(3)

931-940

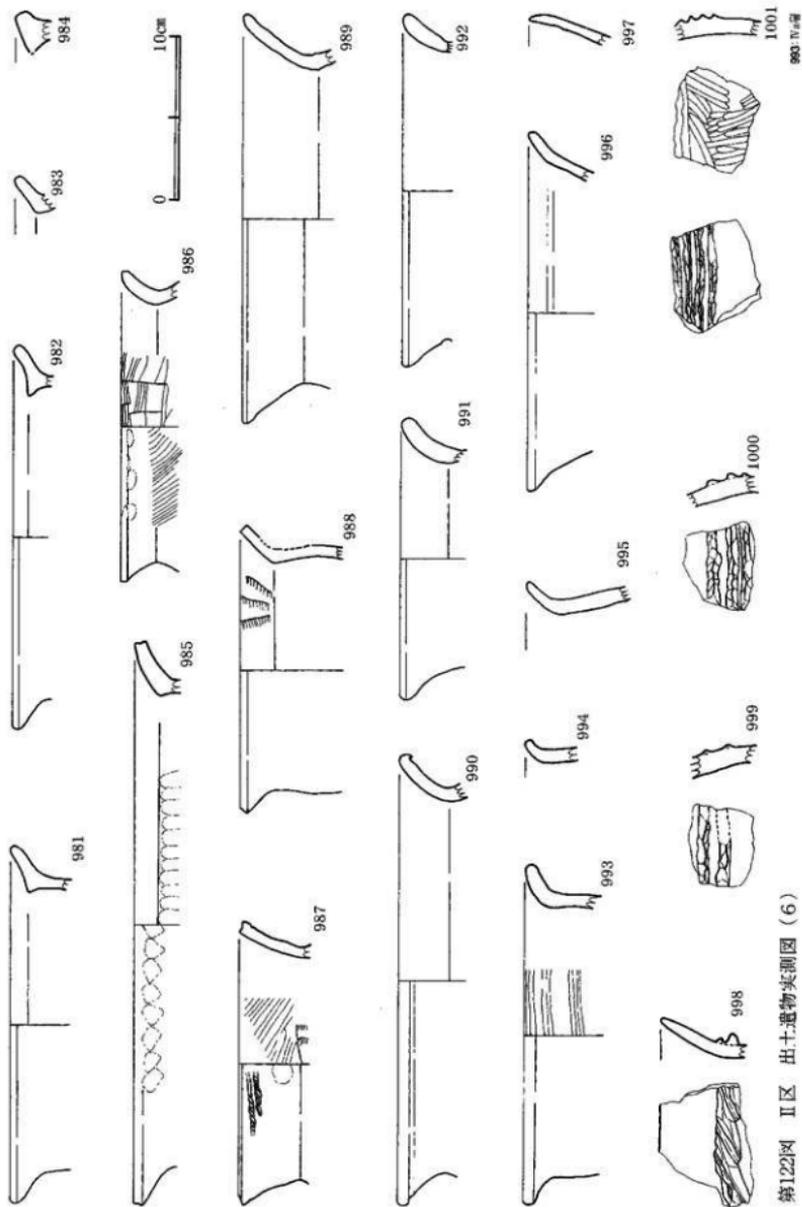


第120图 II区 出土器物类测图(4)

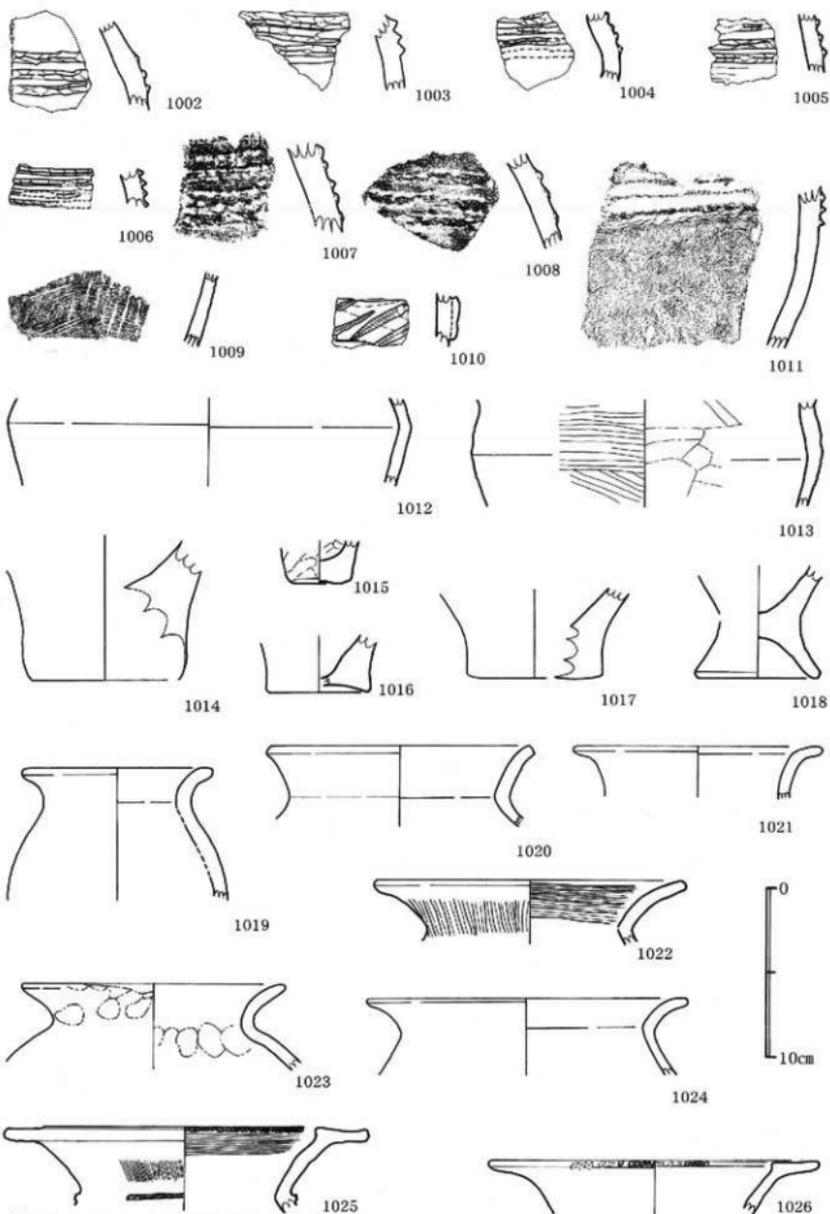
942 32



第121图 II区 出土遺物素描圖(5)

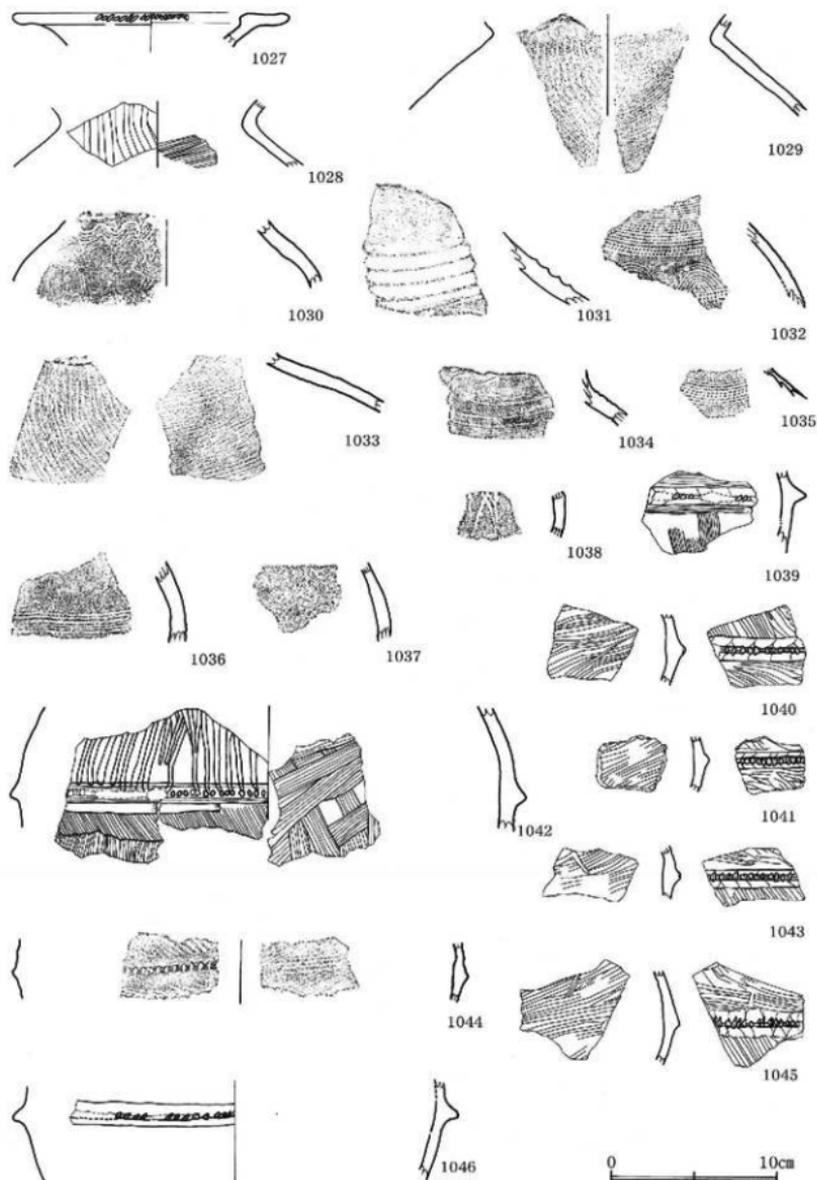


第122图 II区 出土遗物素描图(6)

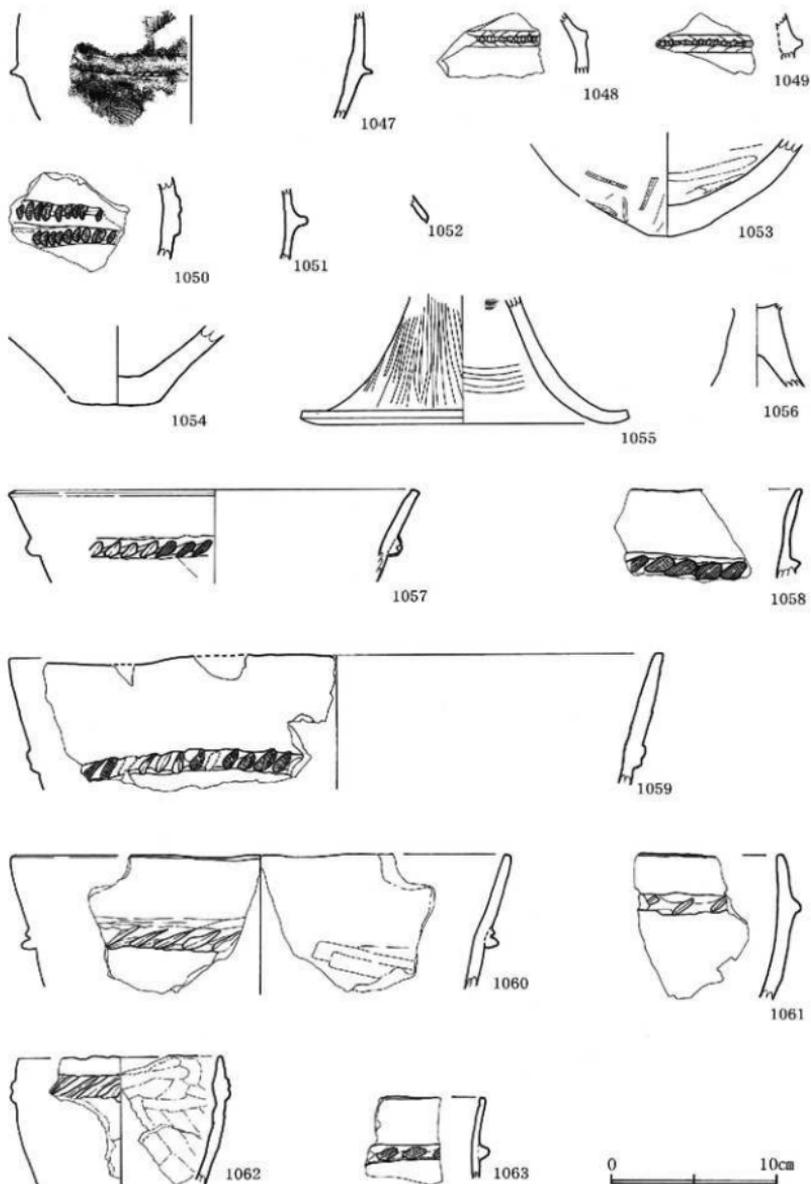


第123图 II区 出土遗物实测图(7)

1005:162

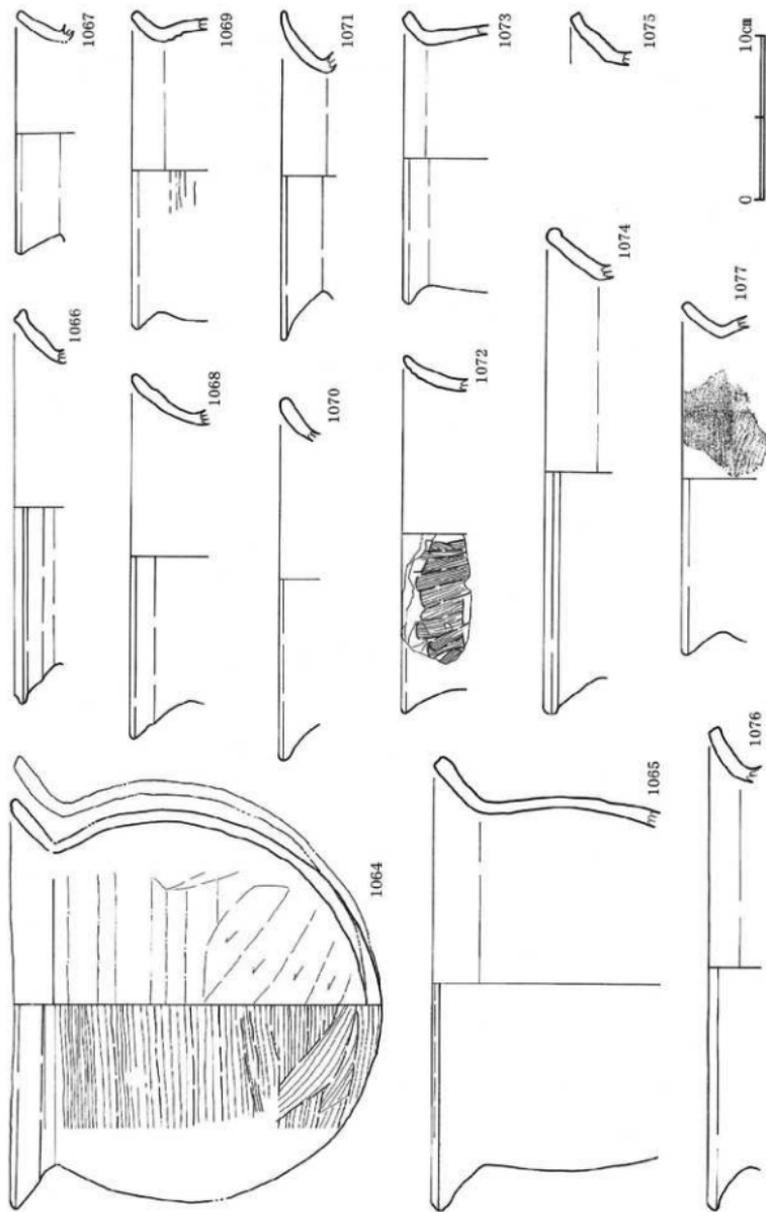


第124图 II区 出土遗物实测图(8)

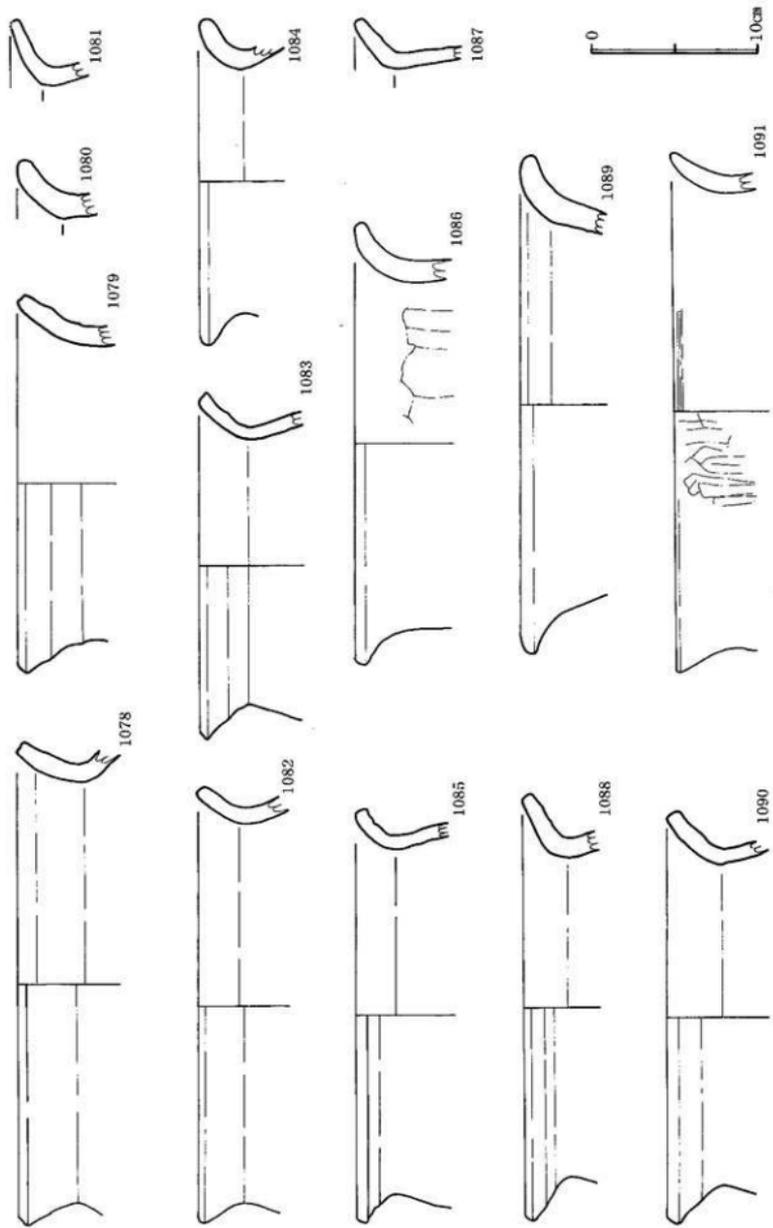


第125图 II区 出土遗物实测图(9)

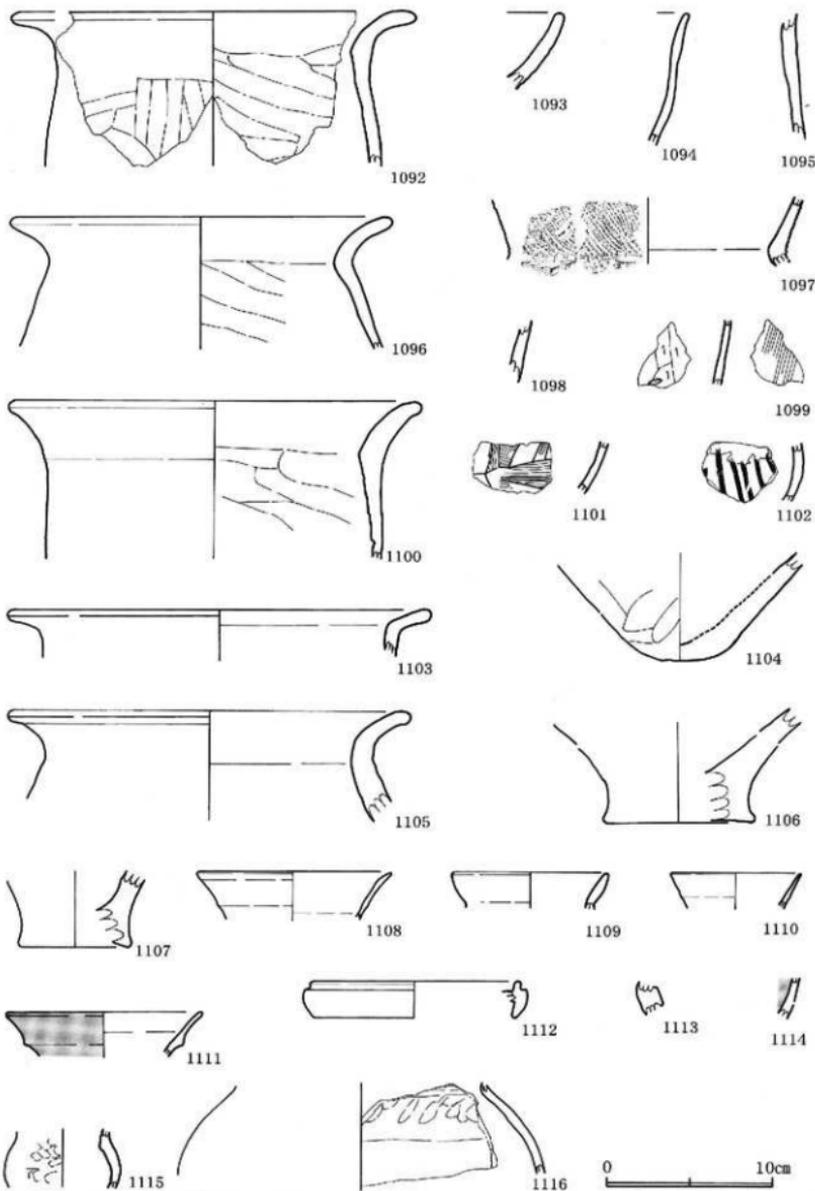
1056-477,1059-484,1062-257



第126图 II区 出土遗物实测图 (10)

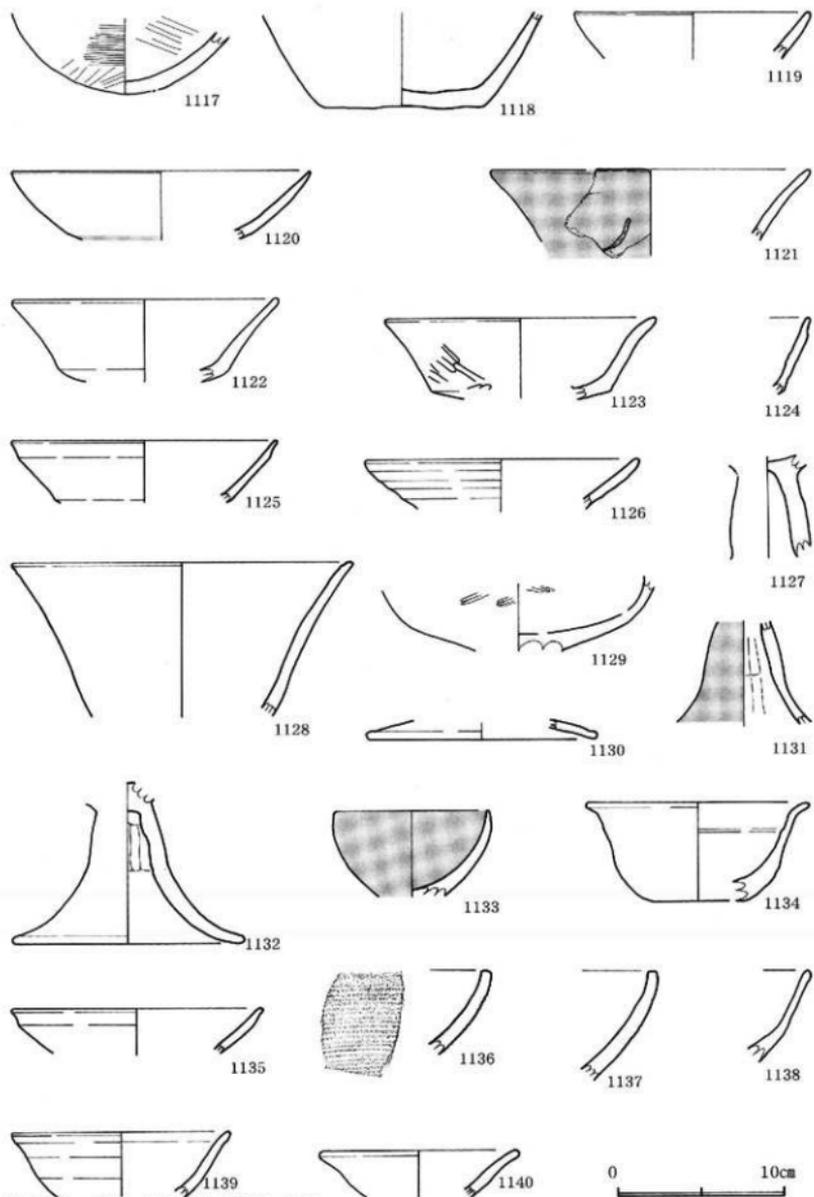


第127图 II区 出土器物素描图(11)



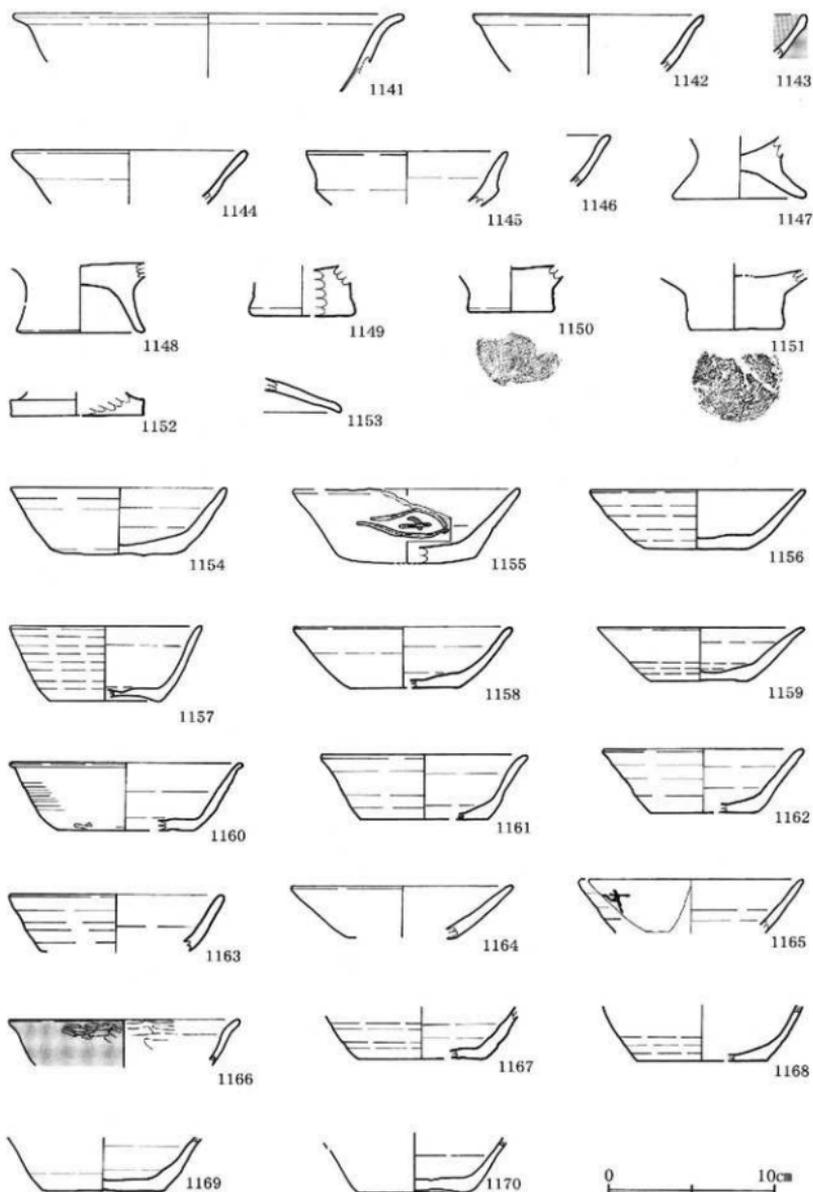
第128图 II区 出土物实测图(12)

1098-1113: 原物



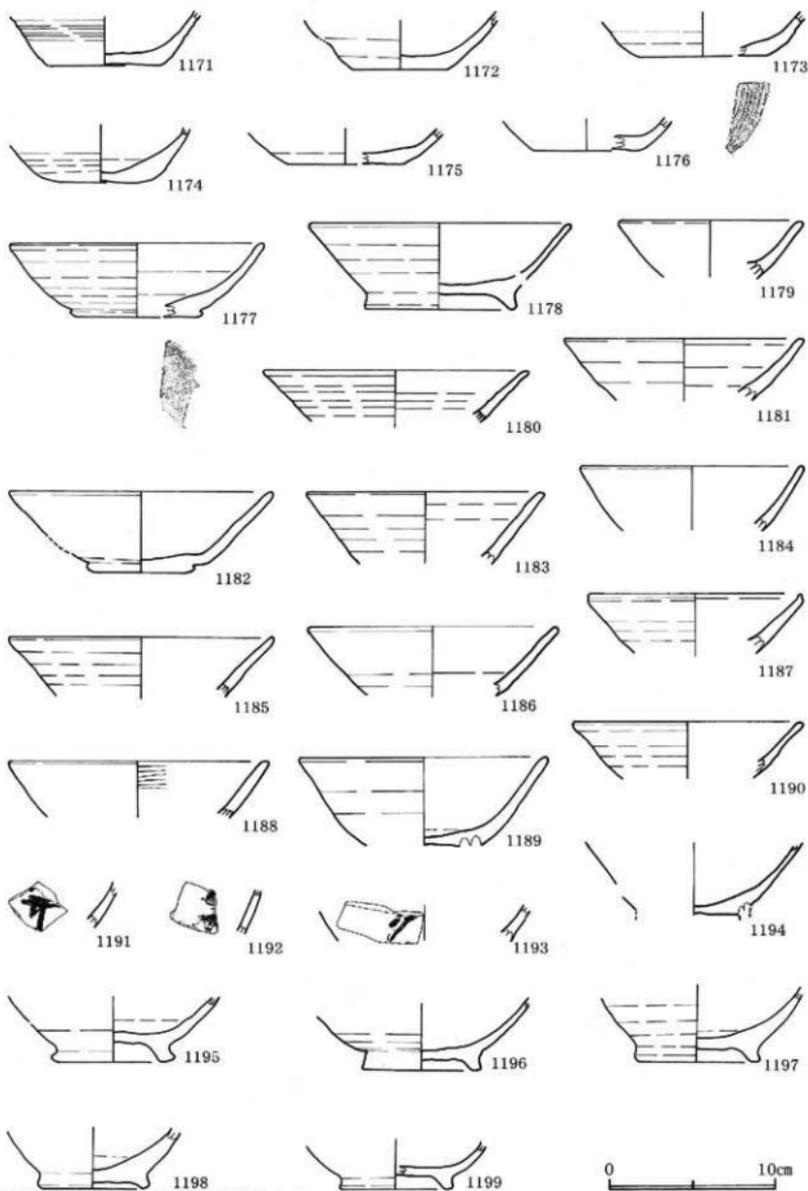
第129图 II区 出土遺物実測図 (13)

1132:IV集,1133:IV集



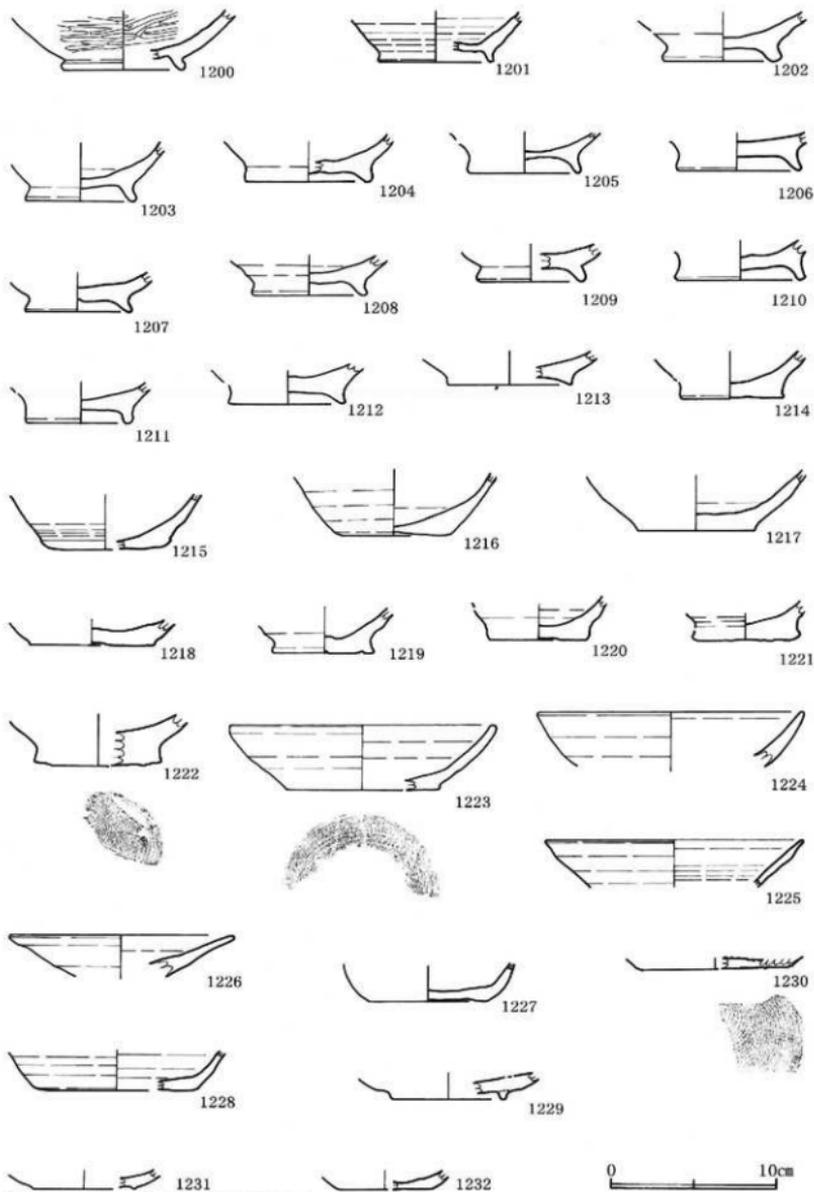
第130图 II区 出土遗物实测图(14)

1145·200,1151·40,1162·470,1163·489



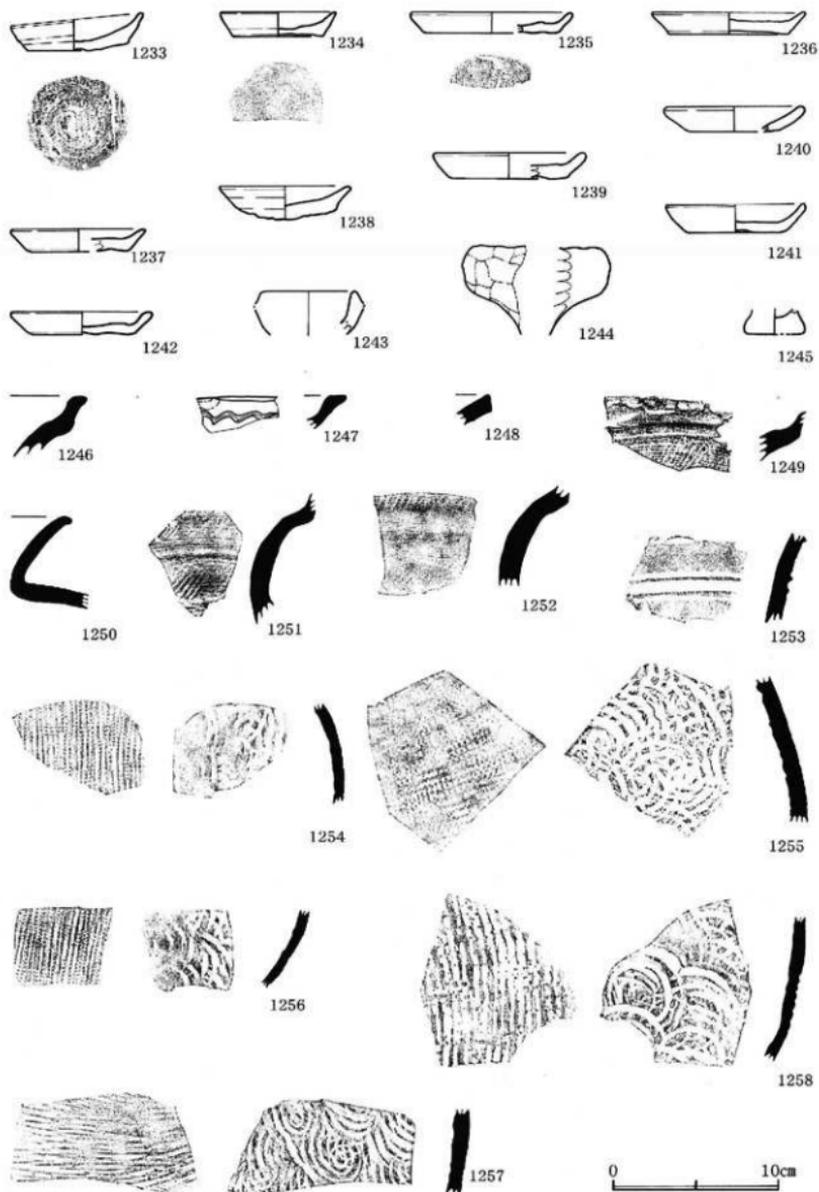
第131图 II区 出土遗物实测图 (15)

1171:130,1181:415,1186:16



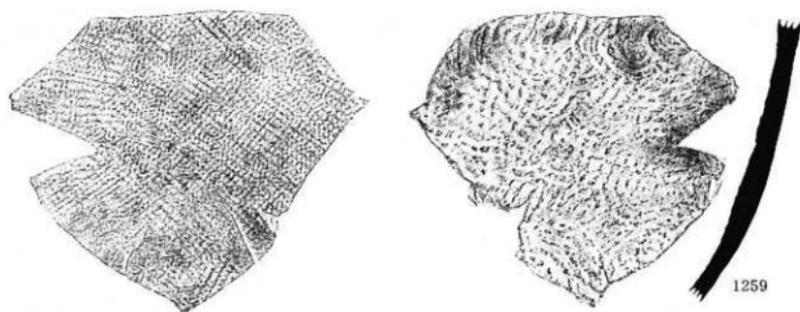
第132图 II区 出土遗物实测图(16)

1217-415



第133图 II区 出土遗物实测图(17)

1233:65,1238 422,1239-440

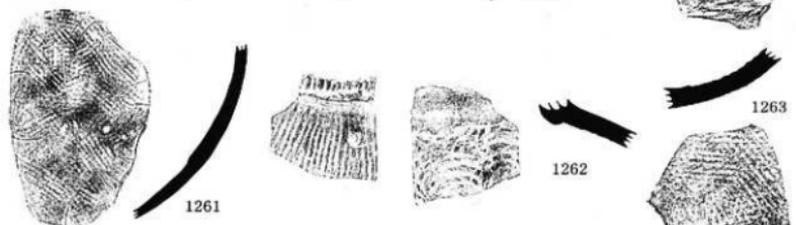


1259



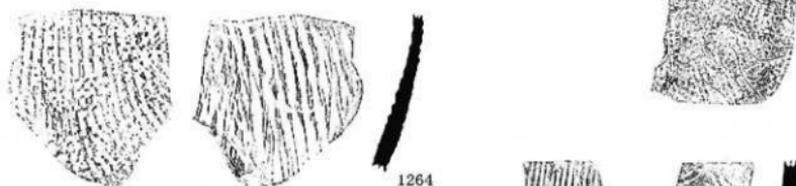
1260

1263



1261

1262



1264

1265

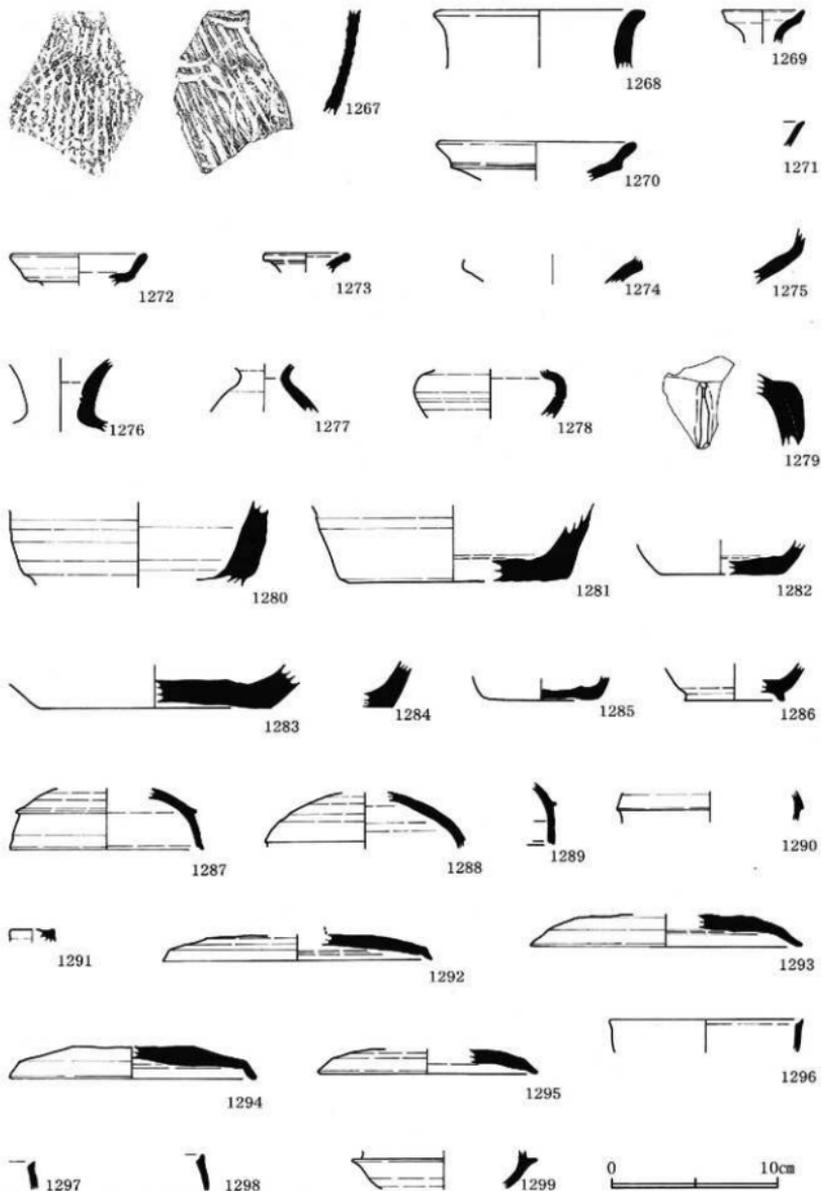


1266



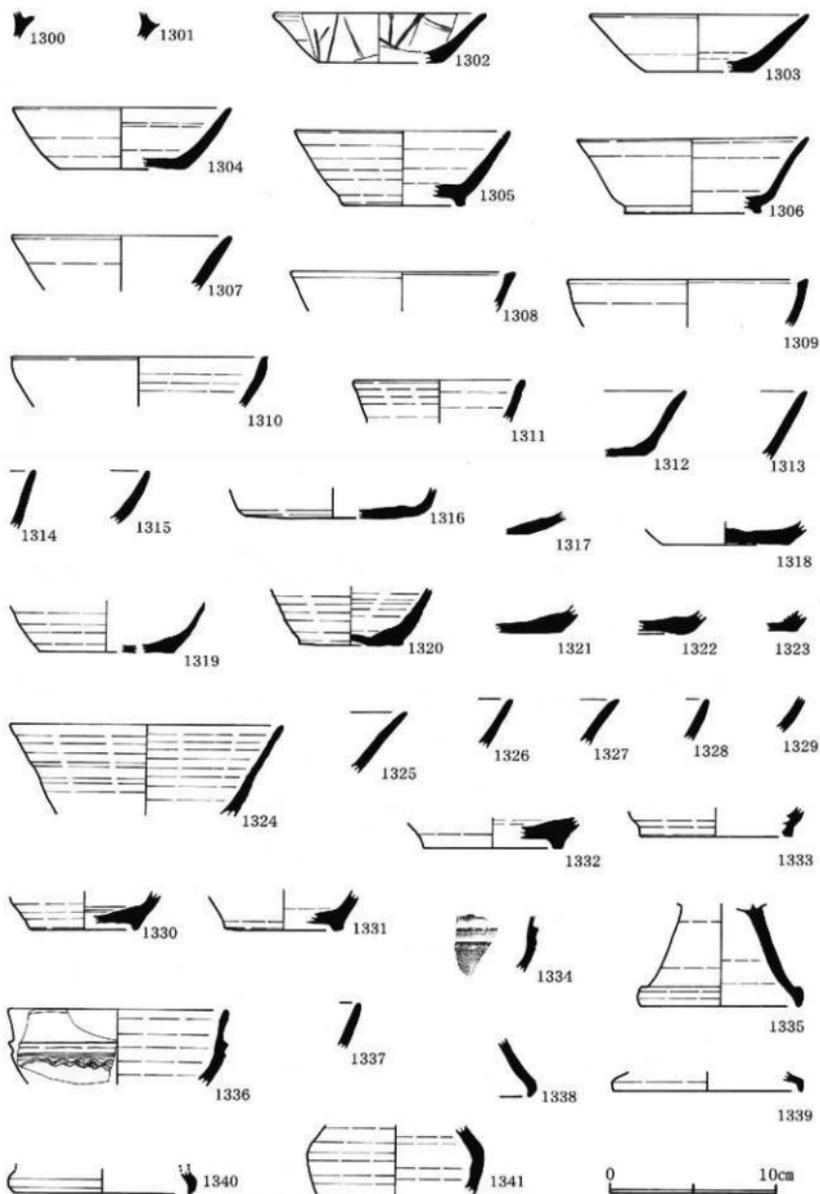
第134图 II区 出土遺物実測図 (18)

1261:157



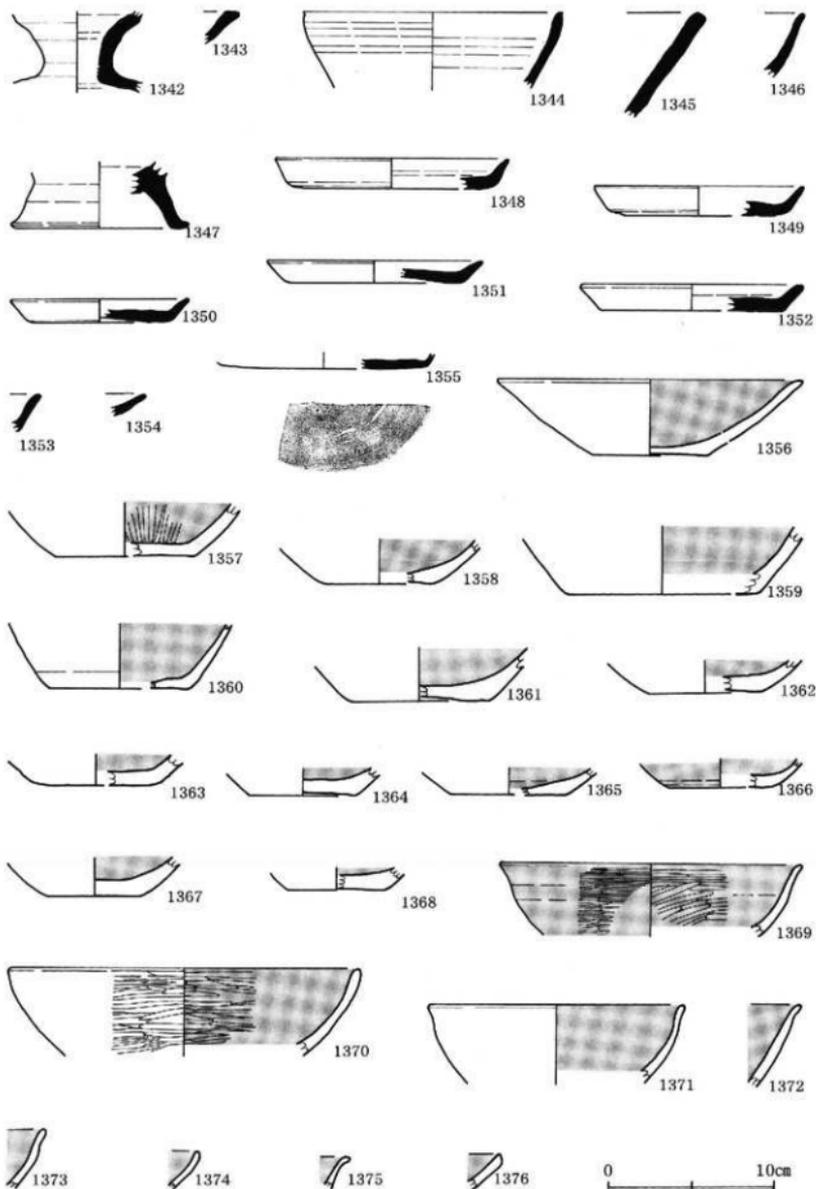
第135图 II区 出土遗物实测图 (19)

1287-127,1289: 1/40



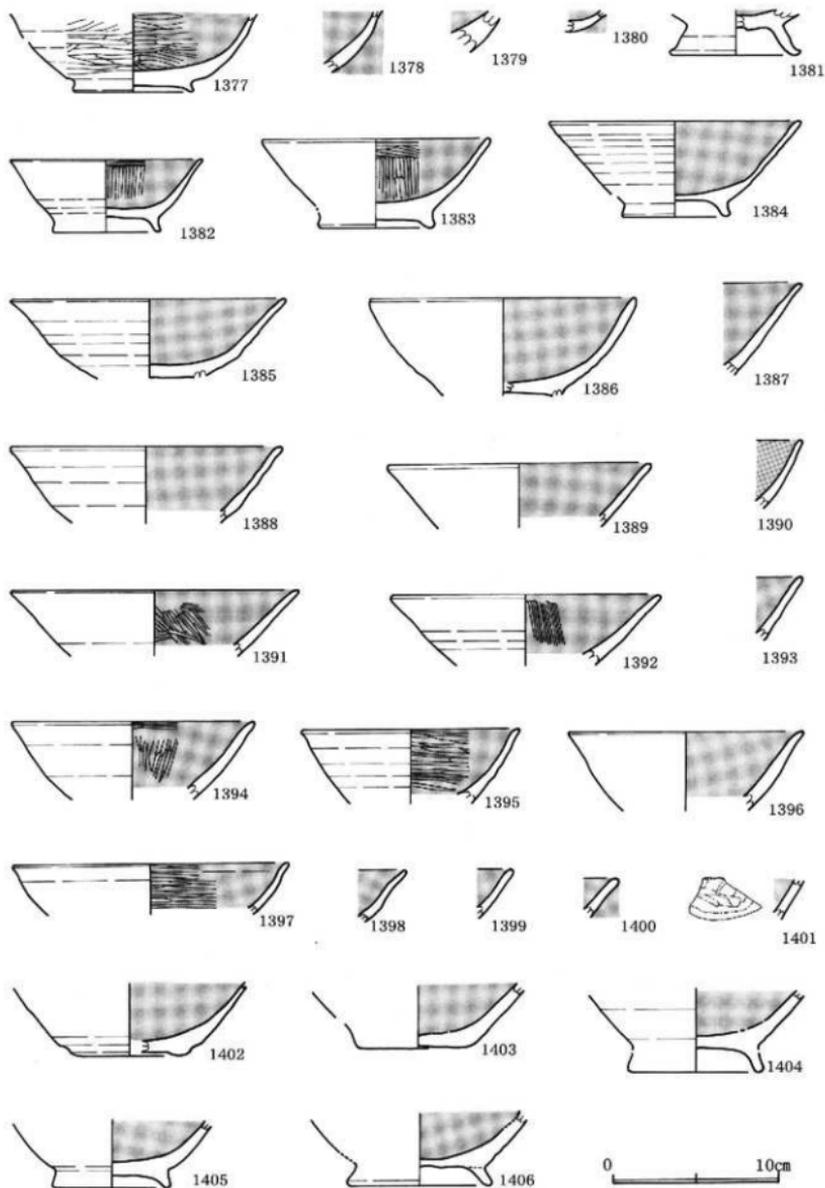
第136图 Ⅱ区 出土遗物实测图(20)

1315~1316: IV/Ⅱ, 1325~42, 1341: 463



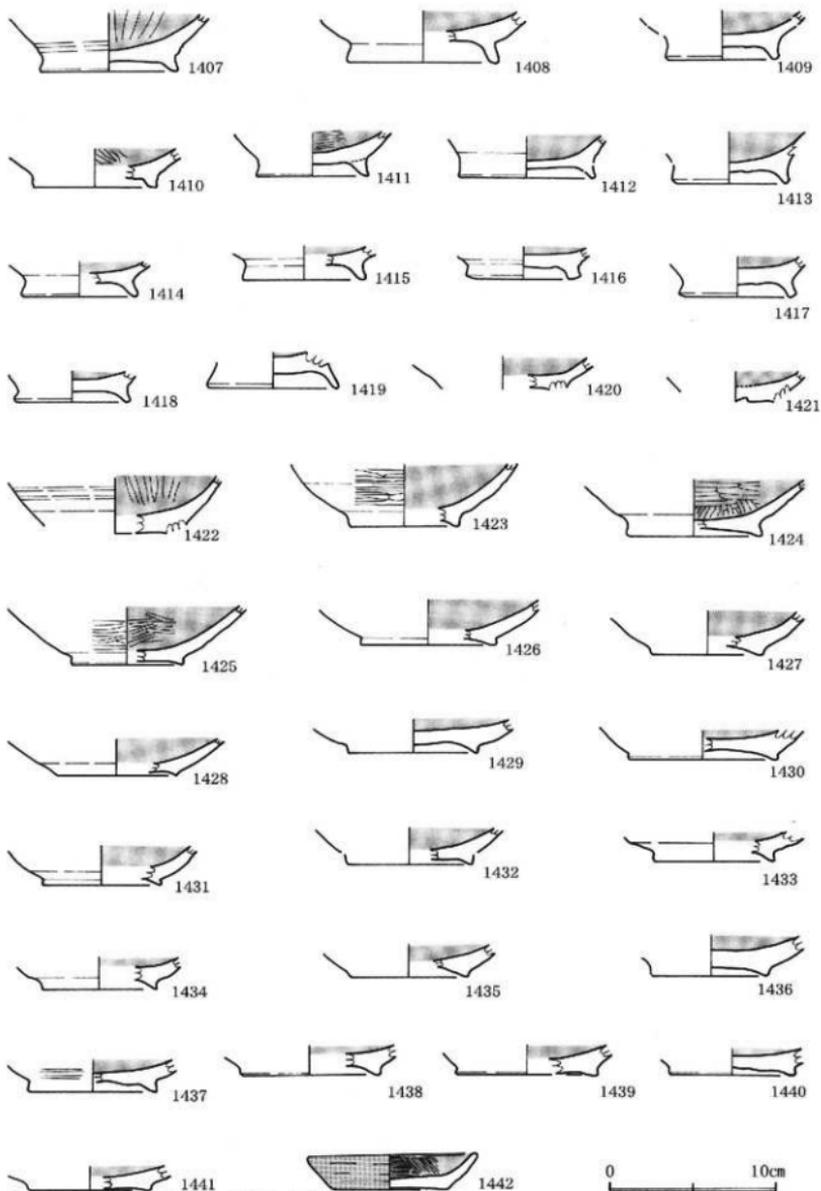
第137图 II区 出土遗物实测图 (21)

1354: 17·M.1369·448.1376·141

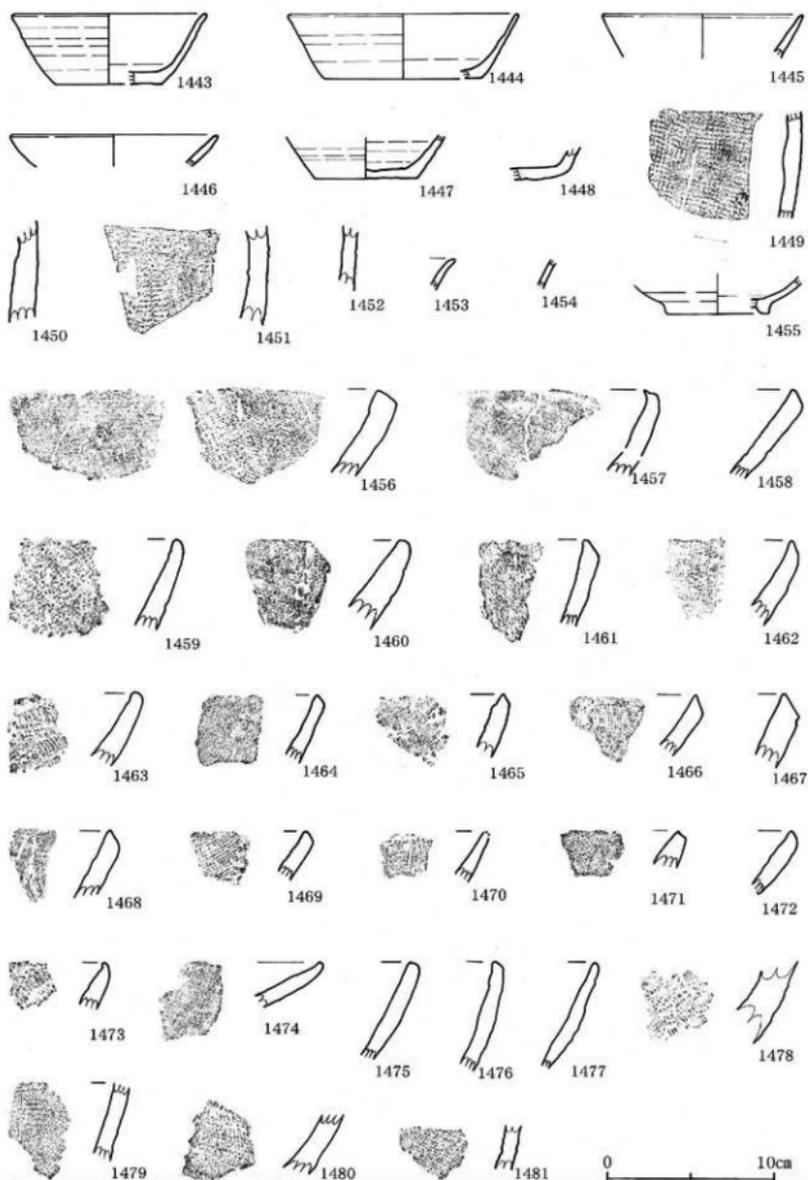


第138图 II区 出土遗物实测图(22)

1383-85, 1387-525, 1402-IV版

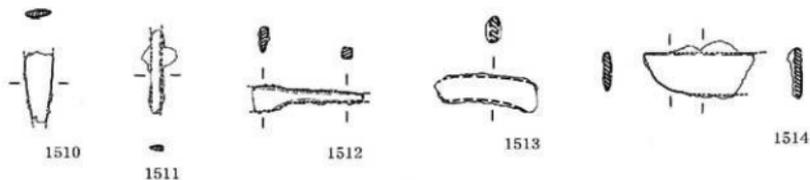
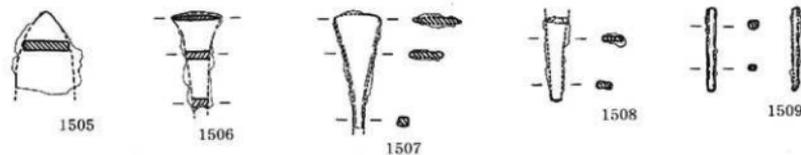
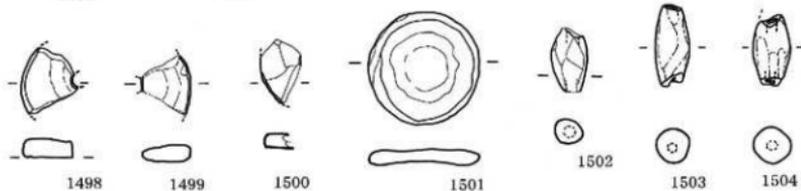
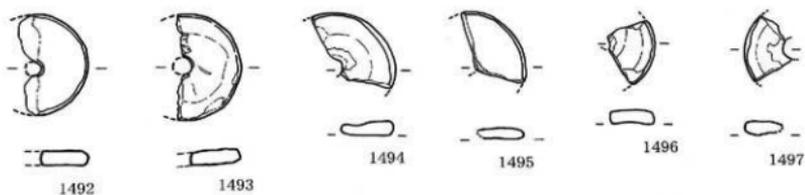


1417-86,1420-303,1422-211,1425-179



第140图 II区 出土遗物实测图 (24)

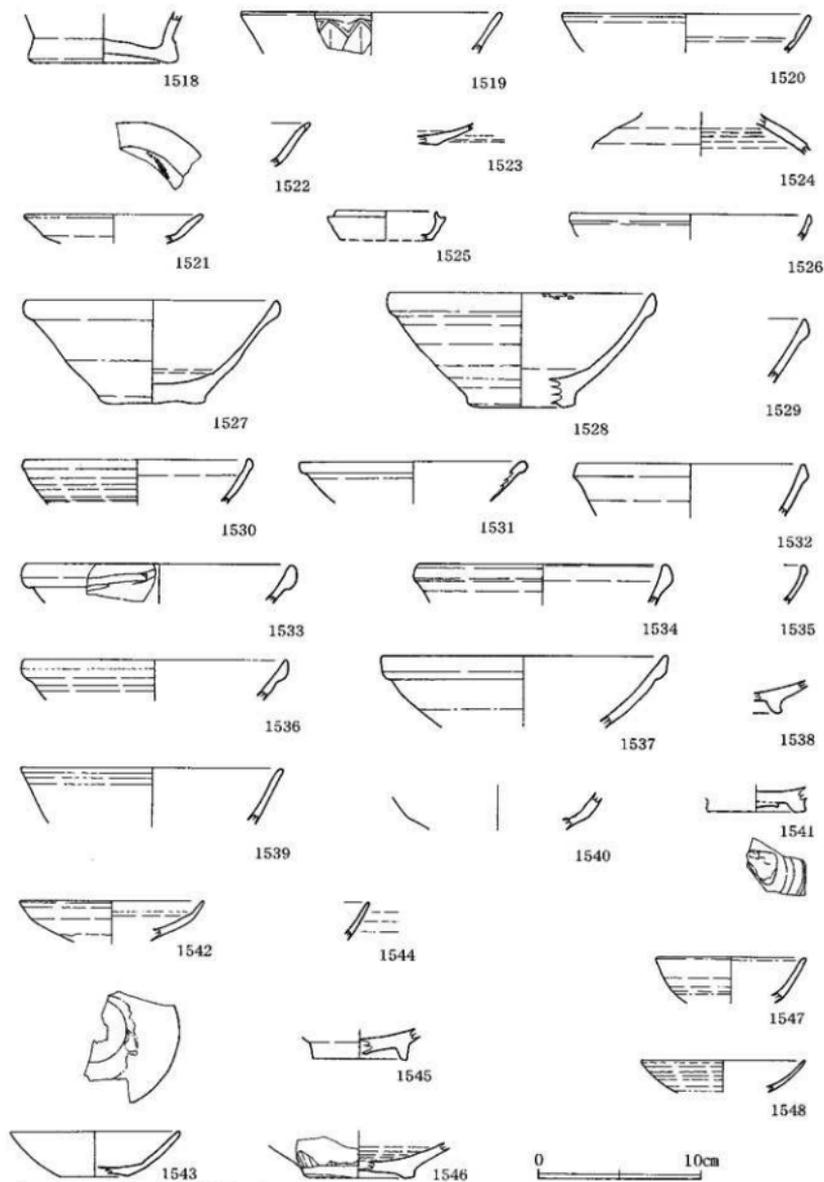
1468-160



第141图 II区 出土遺物実測图 (25)

0 10cm

1507:154,1509:326,1512:297



第142图 II区 出土遺物実測図 (26)

1518: SZ-01.1522-143.1527-1528 SZ-01.1540: SK 214.1548 SK.219



第143図 II区 出土遺物実測図 (27)

た。

**SK-296** (第112図)

II区の中央部東側で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.83m、短径0.72m、検出面から床面までの深さは12cmを測る。遺物は、土師器の鉢と布痕土器が出土し、時期は12世紀と思われる。

**SK-297**

II区の中央部東側、SK-296の西0.6mで検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.68m、検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

**SK-298** (第112図)

II区の中央部やや東側SK-192の南3.5mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.77m、短径0.71m、検出面から床面までの深さは30cmを測る。遺物は、弥生土器の甕の口縁部片、土師器の甕、磨製石鎌未製品が出土した。

**SK-299**

SK-298の南1.1mで検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.98m、検出面から床面までの深さは12cmを測る。遺物は、土師器の甕と黒色土器の塊、布痕土器が出土した。

**SK-301**

II区の南部東側の拡張部で検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.92m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

**SK-302**

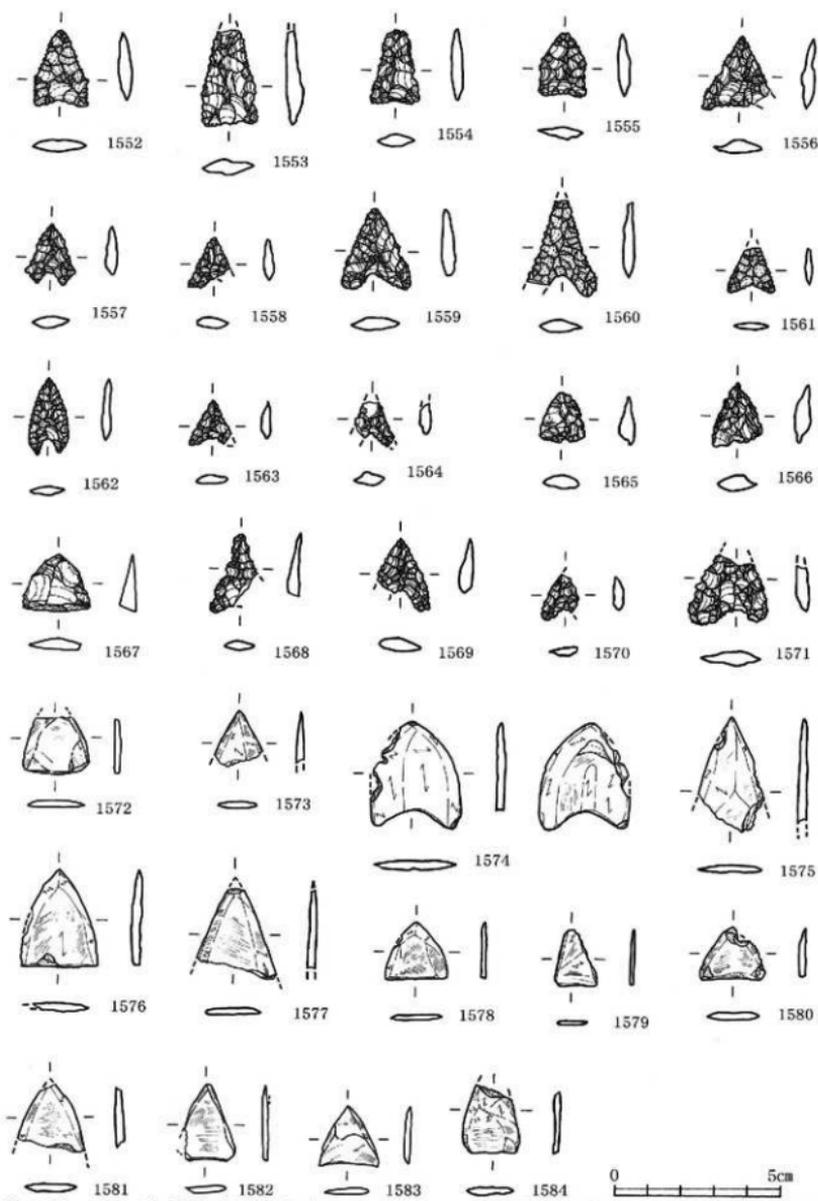
II区の中央部やや西側、SK-283の北東2mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.38m、短径1.18m、検出面から床面までの深さは28cmを測る。遺物は、弥生土器の甕の口縁部片が出土した。

**SK-307**

II区の南部中央、SK-232の北1.1mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.92m、短径0.67m、検出面から床面までの深さは24cmを測る。遺物は、土師器の甕の口縁部片が出土した。

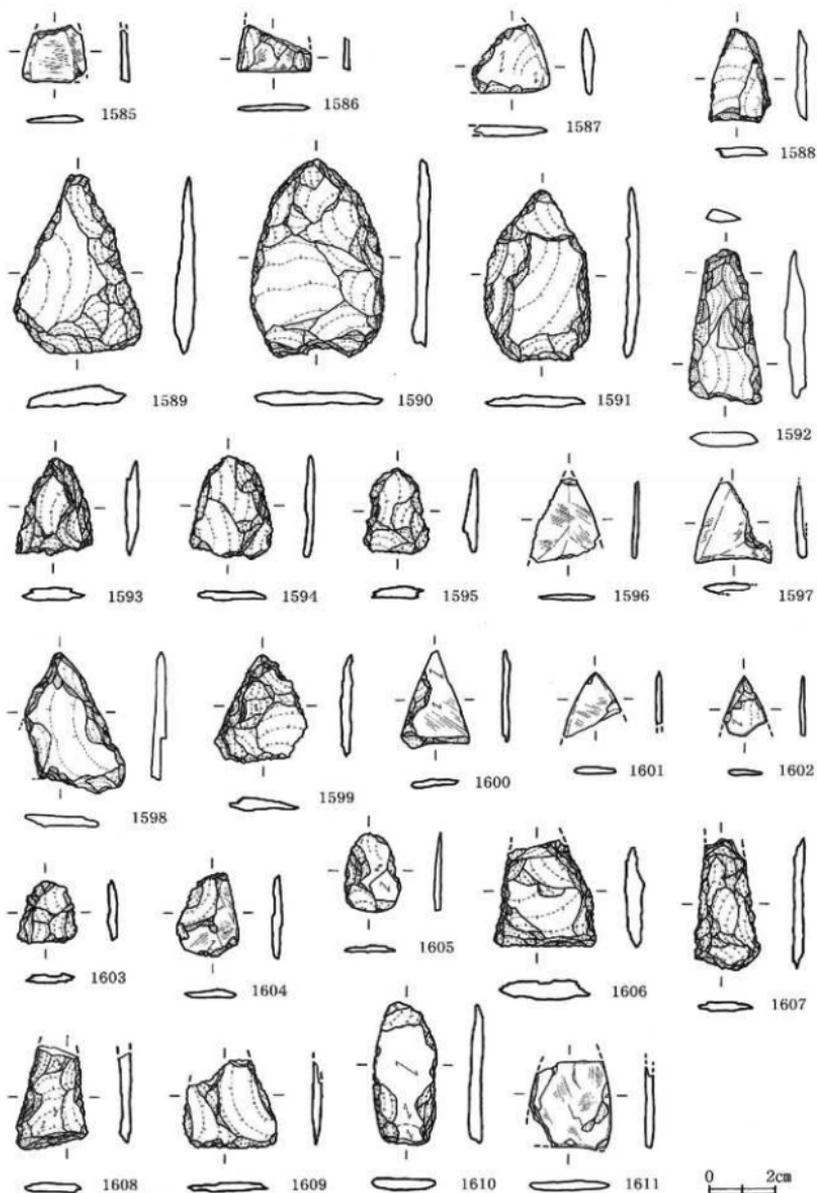
**SD-10**

III区の西部で検出された、東西にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約9m、幅1m、深さは45～



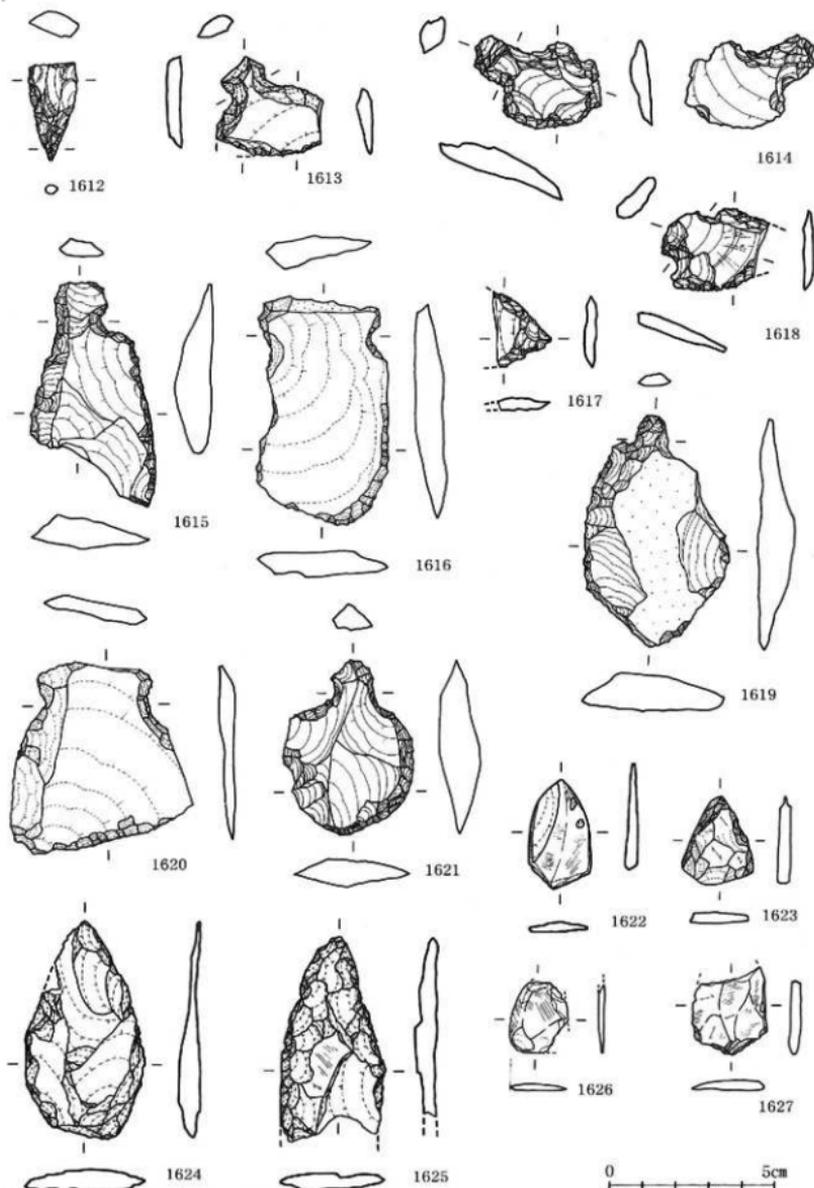
第144图 Ⅱ区 出土遗物实测图 (28)

1552: S2.01.1559-1582~1583 石器 1564: 骨质木 1565: SA-10.  
1566-1573: SA-23下層 1572: SA-16 1574: SK-50 1575: SK-161



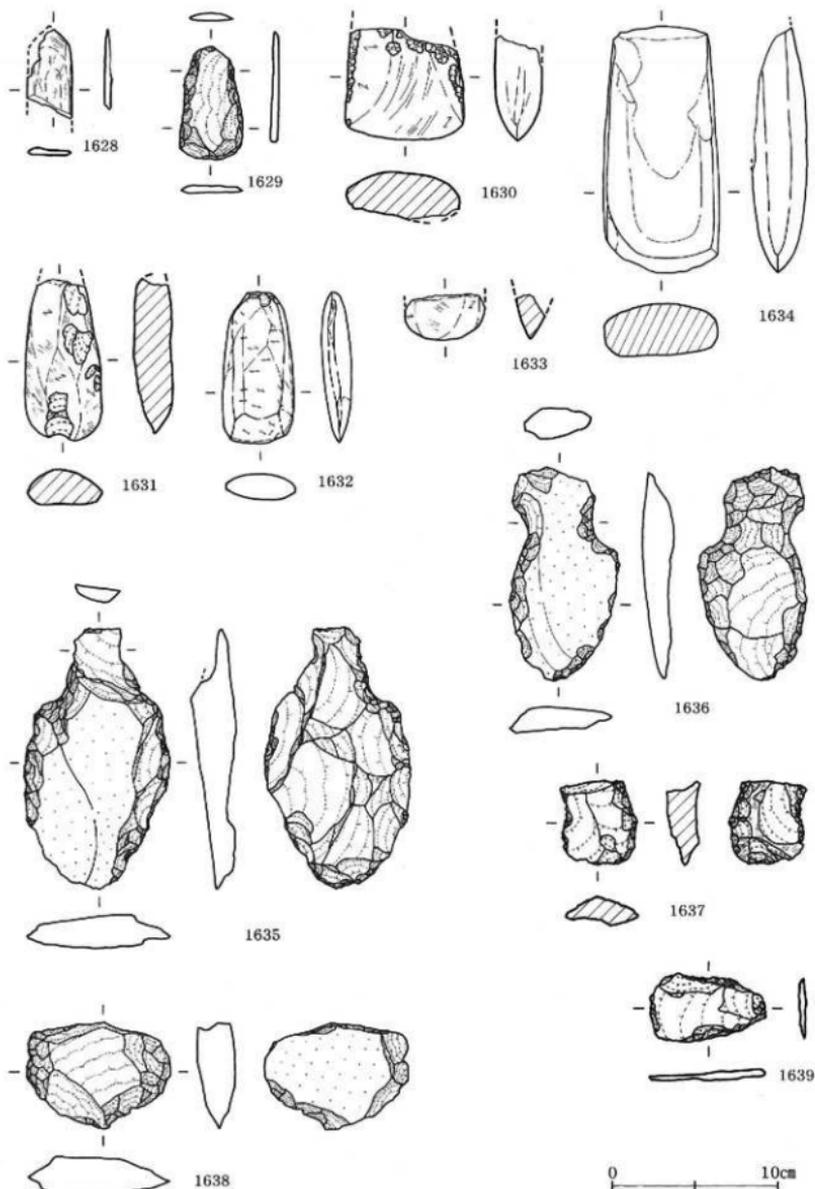
第145图 Ⅱ区 出土遗物实测图 (29)

1588·SA·141589·SK·298,1600·300



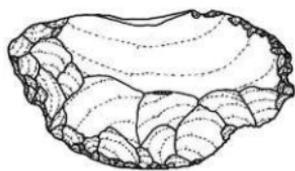
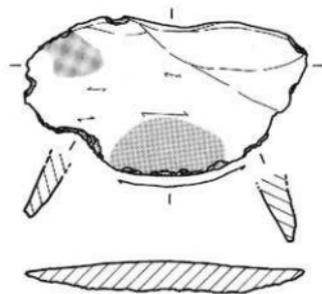
第146图 II区 出土遗物实测图(30)

1623-SA-22,1624-1625-SA-33,1626-IVaW,1627-SA-16中册

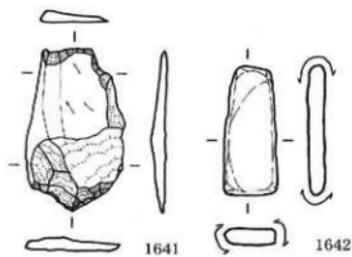


第147图 Ⅱ区 出土遺物実測図 (31)

1628: SA-21, 1630: SA-09, 1631: SA-29, 1633: SA-14, 1634: IV(Ⅱ)層,  
 1635: IV層, 1637: SA-24上層, 1639: SA-20

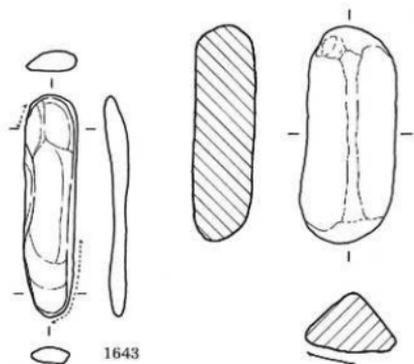


1640



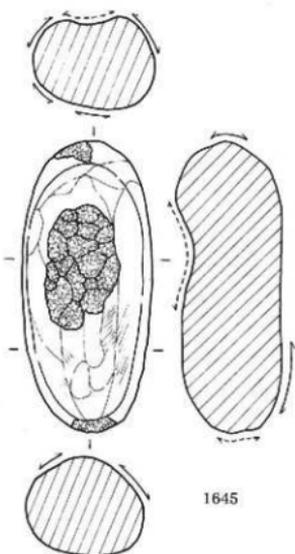
1641

1642

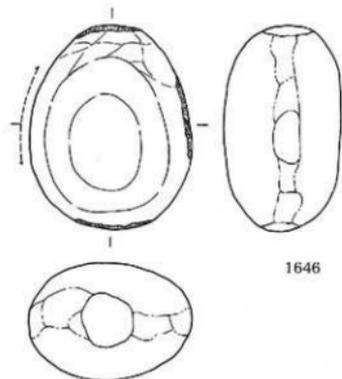


1643

1644



1645

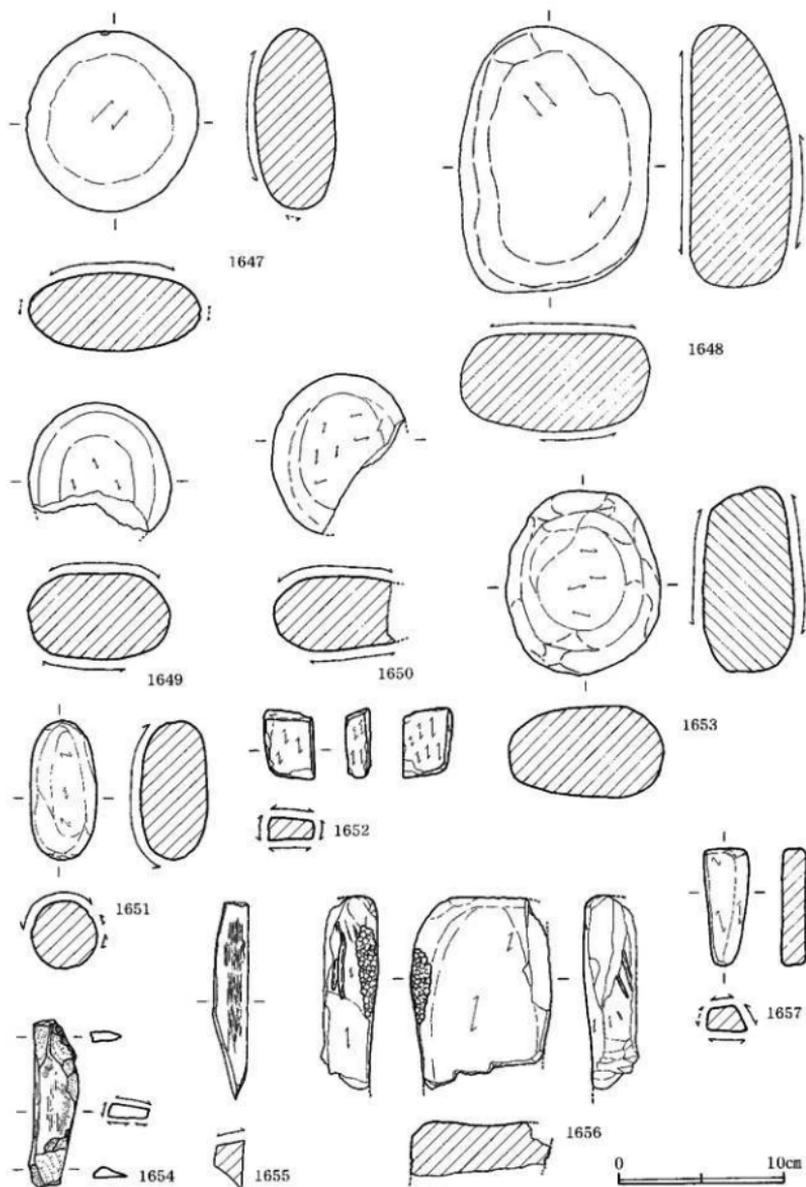


1646



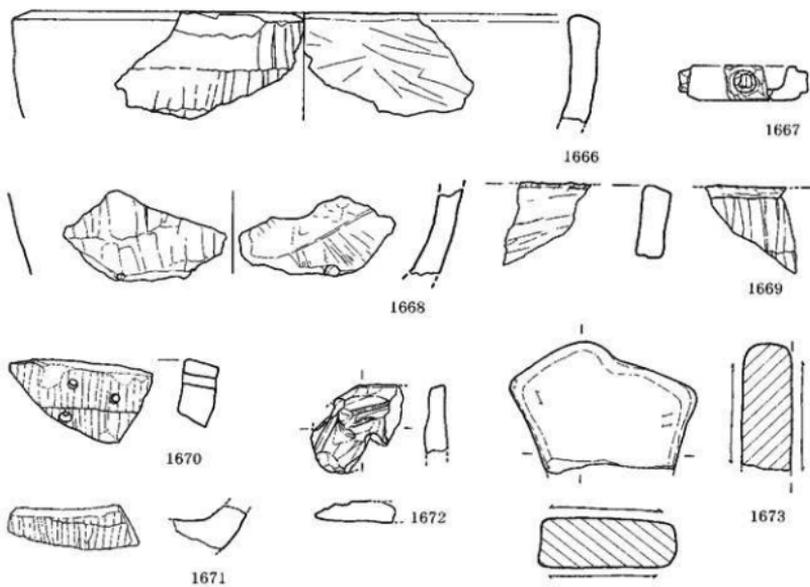
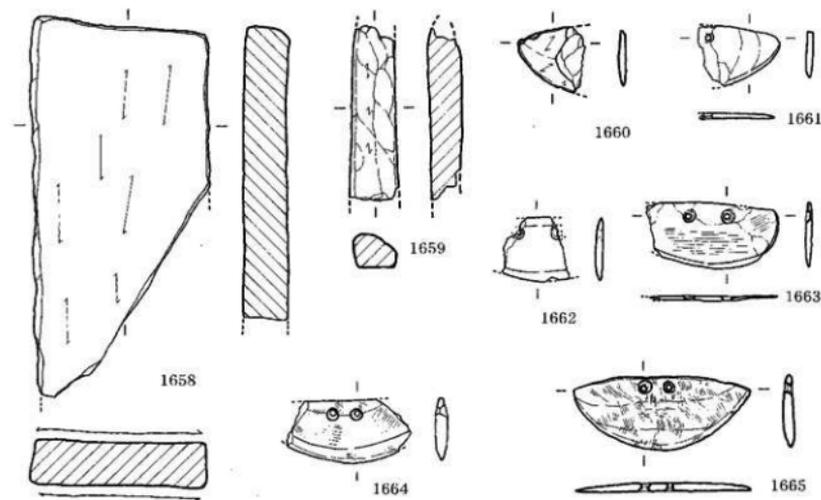
第148图 II区 出土遗物实测图(32)

1642 E/ M.1644 SA.10.1645 SA.15.1646 SK-179



第149图 Ⅱ区 出土遗物实测图(33)

1647: IV. 1648: SA.30.1651: SA.15.1652: SK.272.1655: SA.10

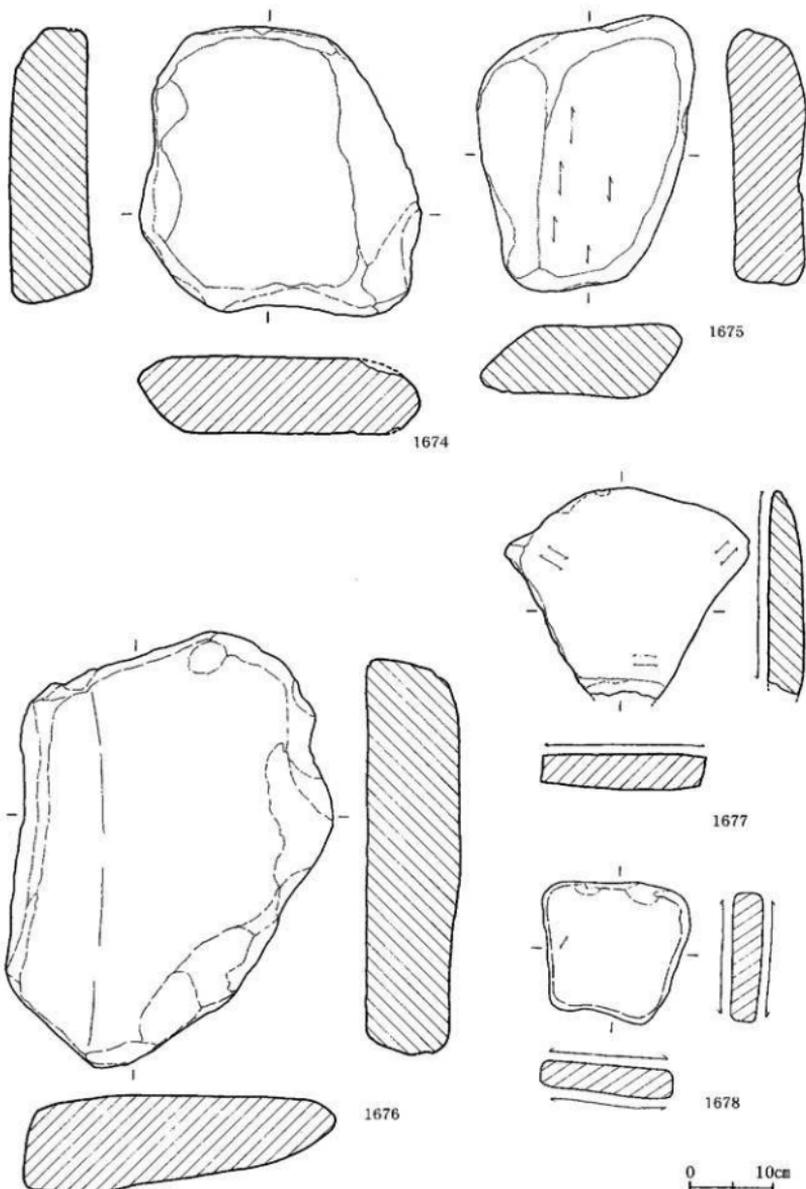


0 10cm

第150图 II区 出土遗物实测图(34)

0 10cm

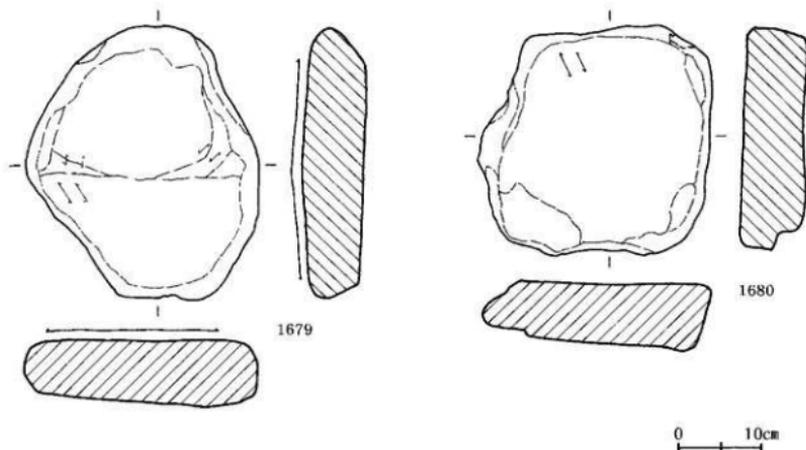
1663-174,1665-SA-25,1673-SA-14



第151图 II区 出土遗物实测图(35)

1674-SA-08,1675-SA-23,1676-SA-25,1677-SA-19,1678-SA-20

0 10cm



第152図 II区 出土遺物実測図 (36)

56cmを測る。遺物は縄文後期の土器片が2点出土した。

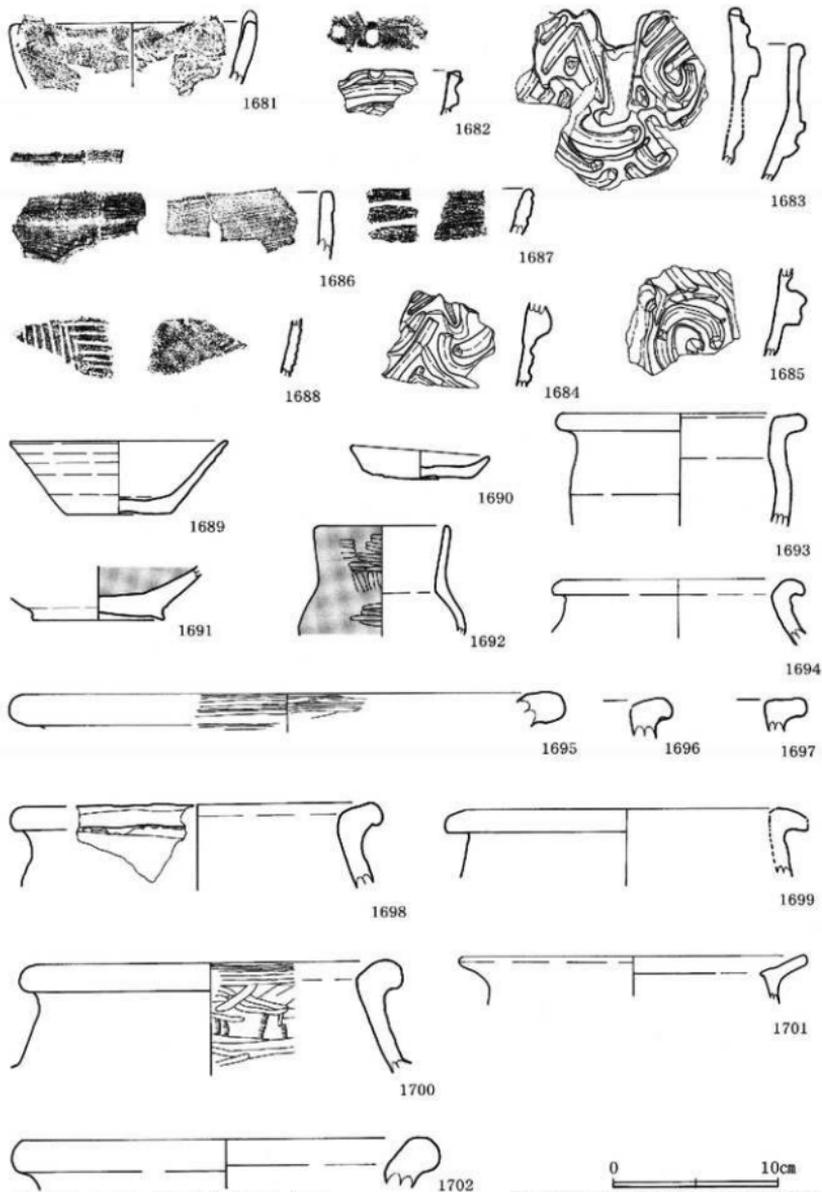
#### SD-11

Ⅲ区の西部で検出された、南北にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約10m、幅0.8～1m、深さ45～50cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

#### 出土遺物

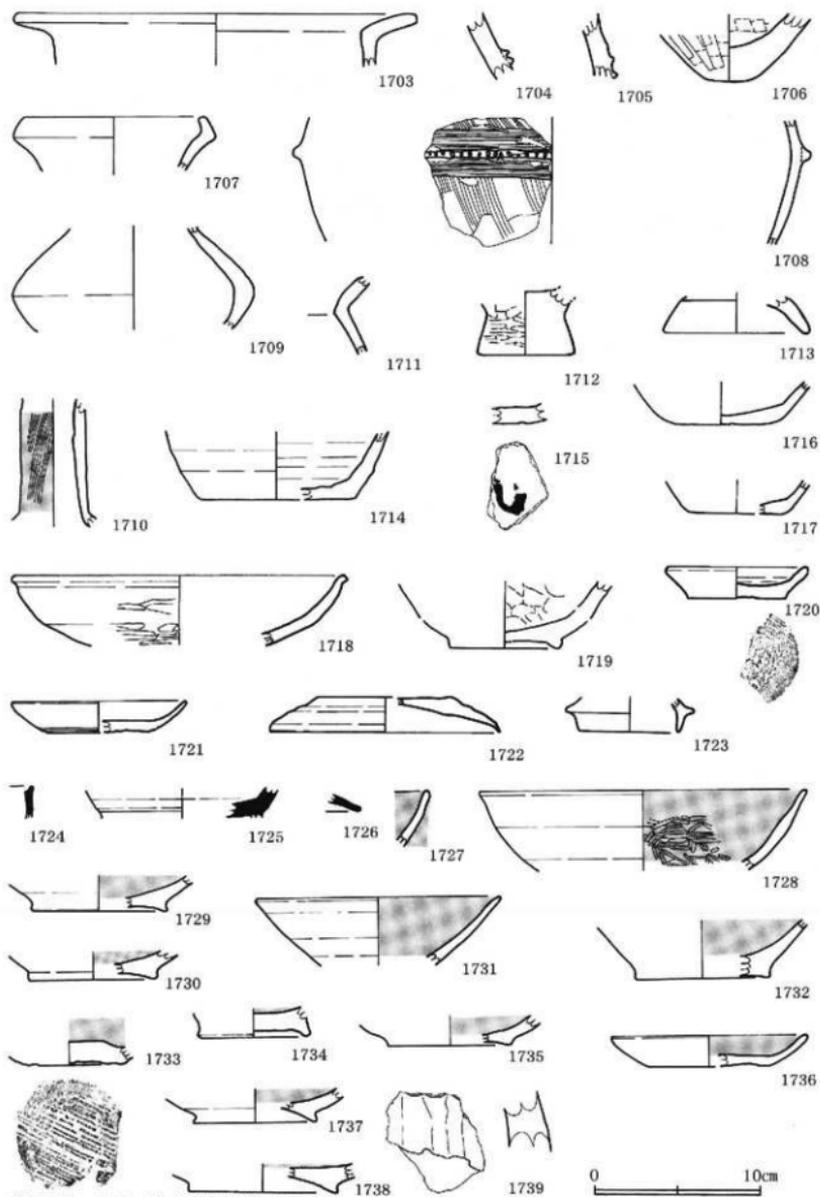
Ⅱ～Ⅲ区では、Ⅲc層上面での遺構検出、同層の掘り下げ、Ⅳ層上面での遺構検出の際、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器・黒色土器・瓦器・国産陶器・輸入陶磁器や鉄器、石器などが大量に出土した。

縄文土器は、出土量は少量であるが、沈線文によって施文される曾畑式土器に先行する早期の土器や後期から晩期の土器片が出土した。弥生土器は、出土量は多く、甕・壺・高坏などの土器片が出土しており、特に甕の口縁部が多く出土した。黒髪式土器や免田式土器がみられる。土師器は、甕・壺・高坏・鉢・埴・蓋・皿などの土器片が多く出土しており、甕の把手が1点出土した。甕の胴部に彩文を施したものが1点出土しており、丹塗りの壺・高坏・鉢などもみられる。また、墨書土器が5点出土した。坏や埴の体部外面に墨書は書かれているが、破片で墨書全体が残っていないため、釈文は不明である。須恵器は、甕・壺・蓋坏・高坏・埴・瓶・皿などの土器片が出土した。甕の胴部の叩きは、外面は、格子叩きと並行叩きで、格子叩きは目の細かいものと粗いものがみられる。内面は、同心円文・平行文の当て具痕の2種類がみられる。土師質土器は鉢と皿の上器片が少量出土しただけである。黒色土器A類・黒色土器B類は鉢や坏・埴の土器片が出土した。瓦質土器は甕・埴・皿の土器片が8点出土しただけである。国産陶器は甕・壺の破片が2点出土しただけ

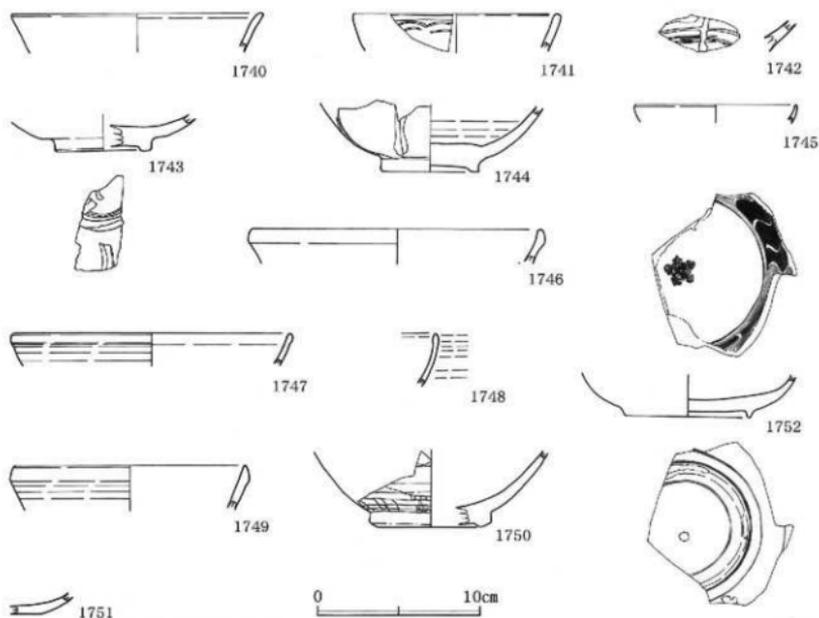


第153图 Ⅲ区 出土遺物実測図(1)

1681-1686:SD-09,1687:IV墓,1689:SK.256,1690-1691:SK.285,1692:SK.307-ベル下内



第154图 Ⅲ区 出土遗物实测图(2)



第155図 Ⅲ区 出土遺物実測図(3)

である。また、緑釉陶器の碗の破片が3点出土した。布痕土器や紡錘車、土盤、土錘などの土製品も出土した。輸入陶磁器は、青磁の瓶壺類・碗・東口碗・皿・小皿、白磁の瓶壺類・碗・皿・口壳小皿、青白磁の合子、青花の皿が出土した。

石器は、打製石鏃・磨製石鏃・石鏃未製品・磨製石鏃未製品、石匙・石匙未製品、石錐、扁平打製石斧、磨製石斧、刃器・大型刃器、石包丁、磨石、敲き石、砥石、剣型垂飾品と思われるもの、器面調整具と思われるもの、石製模造品と思われるもの、礫器未製品、用途不明未製品、石鍋・石鍋片再加工品、温石が出土した。

#### 第6節 IV区の調査

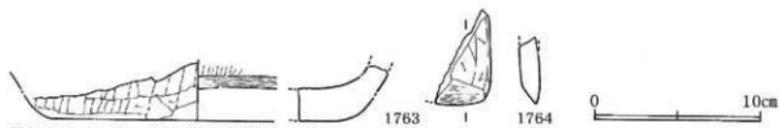
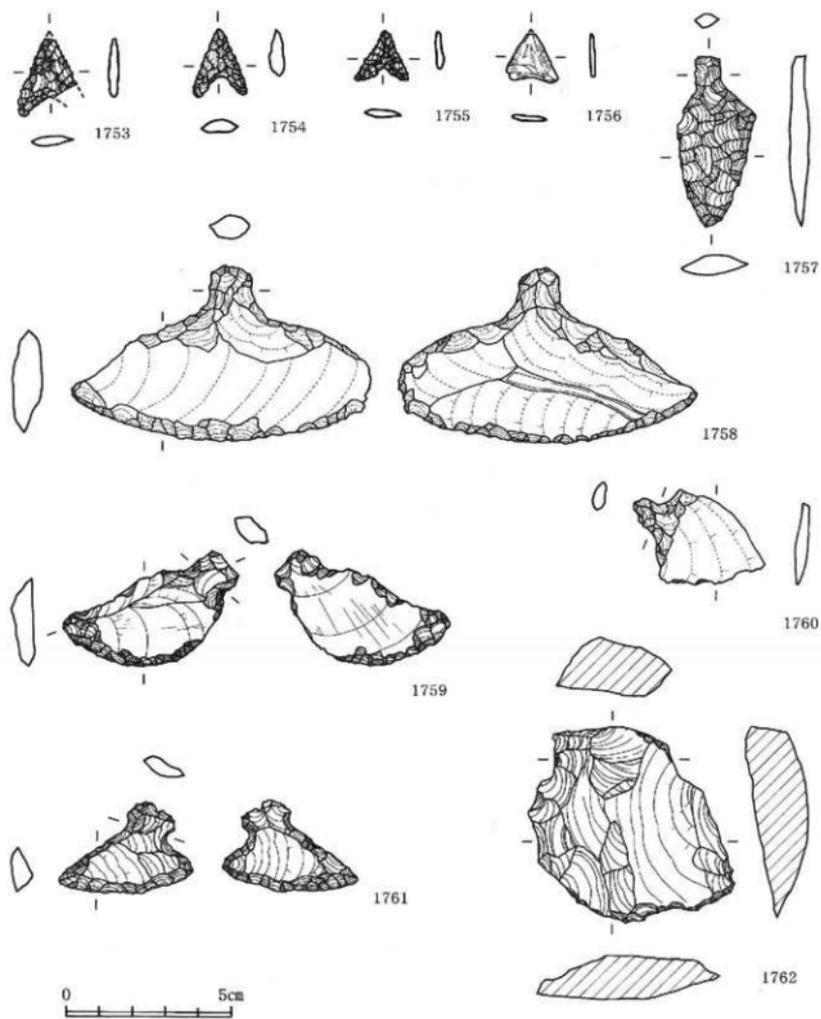
調査は、重機でⅢb層まで剥いで、遺構検出は、Ⅲc層上面とⅣ層上面で行った。その結果、竪穴住居13基、土坑・土塋墓18基、掘立柱建物24棟、溝状遺構6条、柱穴などを検出した。

#### 古墳時代

Ⅳ層上面で遺構検出を行った結果、竪穴住居が13基検出された。

#### SA-34 (第161・164図)

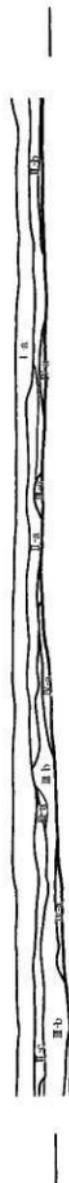
調査区の南部東側で検出された、方形を呈する住居である。規模は、3.42×3.62m、検出面から床面までの深さは18~30cmを測る。柱穴は4個で、径20~32cm、深さ14~28cmを測る。住居の中央



第156图 Ⅲ区 出土遺物実測図(4)

1759:Ⅳ層1763:SK-265-ベムト内

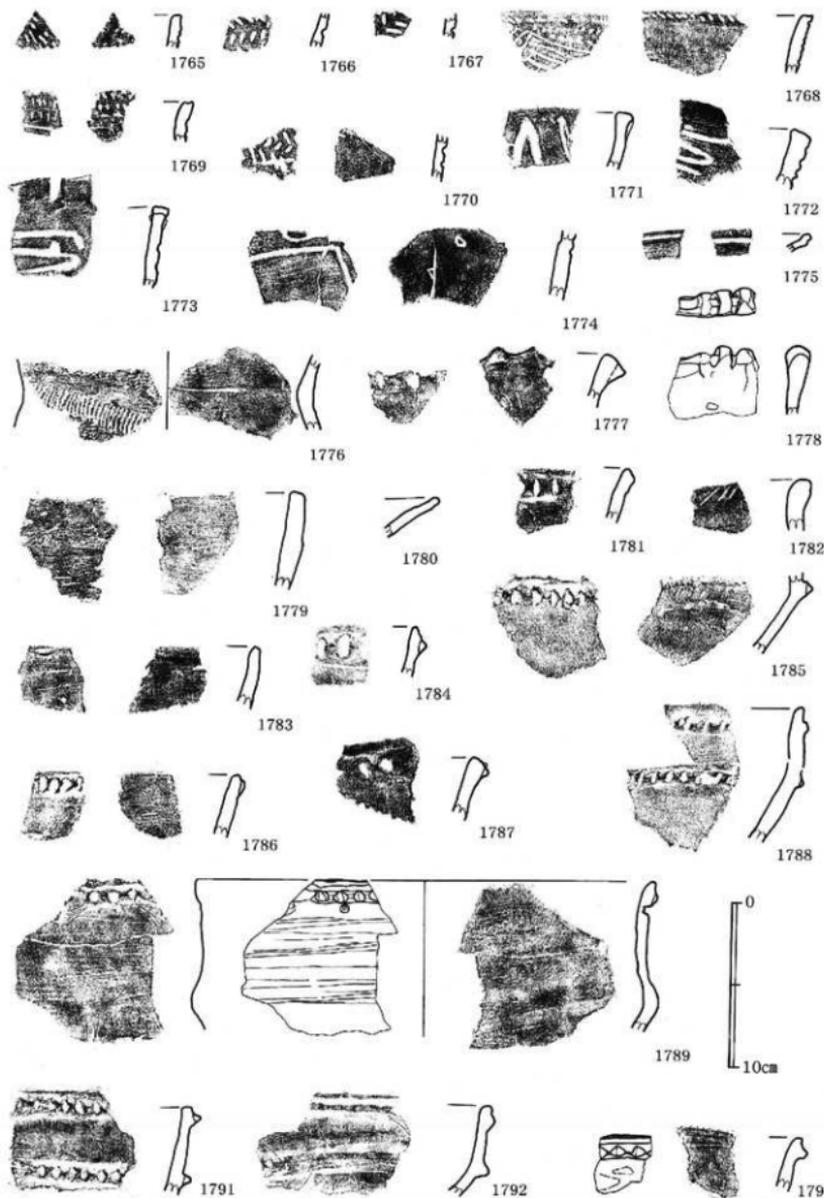




- I-a. 灰褐色土
- I-b. 淡褐色ブロック+灰茶褐色粘質土
- II-a. 淡褐色粗砂質土
- II-b. 赤灰褐色粗砂質土
- II-c. 灰褐色粗砂質土
- III-a. 赤褐色+黒色粗砂質土
- III-b. 灰褐色+暗褐色粗砂質土
- III-c. 黒褐色微細砂質土
- IV-a. 暗褐色微細砂質土
- a. 木の根 カクラン
- b. 灰褐色+茶褐色砂質土

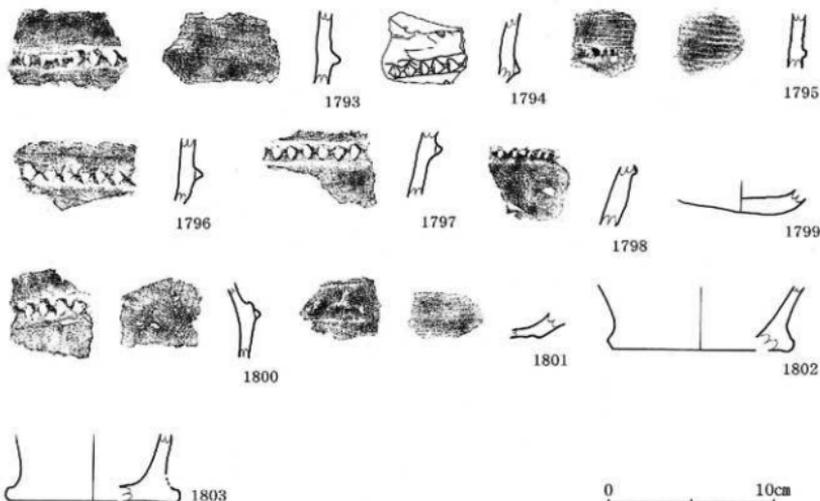


第158図 IV区 中央壁層序図



第159图 IV区 出土遗物实测图(1)

1766-1767-1787-SA-45.1775-1779-1781-1783-1786-1789-1792-491.1777-1782-SK.354,  
1784-1785-SA-46.1788.327



第160図 IV区 出土遺物実測図(2)

0 10cm

1793~1794・1796~1798・1800~1801・491

や南側には、長径1.44m、短径1.18m、深さ9cmの楕円形を呈する掘り込みが検出され、埋土に炭化物を含んだ黒褐色土が確認されたことから、この掘り込みは炉跡と思われる。貼床は検出されなかった。

遺物は少なく、土師器の甕の口縁部と底部片、高坏の坏部片と、石器では、紫褐色を呈する凝灰質頁岩製の石包丁の計6点が出土したのみである。

#### SA-35 (第162・164図)

調査区の中央やや北側で検出された、住居の南壁半分をSK-363によって切られている、方形を呈する住居である。規模は、1.95×2.08m、検出面から床面までの深さは19cmを測る。柱穴は2個で、径19~25cm、深さ28~67cmを測る。貼床や炉跡は検出されなかった。

遺物は少なく、土師器の甕の口縁部片が2点出土したのみである。

#### SA-40 (第163・164図)

調査区の東壁中央部で検出された、住居である。東壁にかかっているため詳細は不明である。検出面から床面までの深さは13cmを測る。柱穴は3個で、径19~25cm、深さ20~30cmを測る。東西に設定した土層断面用のベルトで、住居の中央と思われる部分に炭化物を含んだ黒褐色土が確認された。この部分に炉があったと思われる。貼床は検出されなかった。

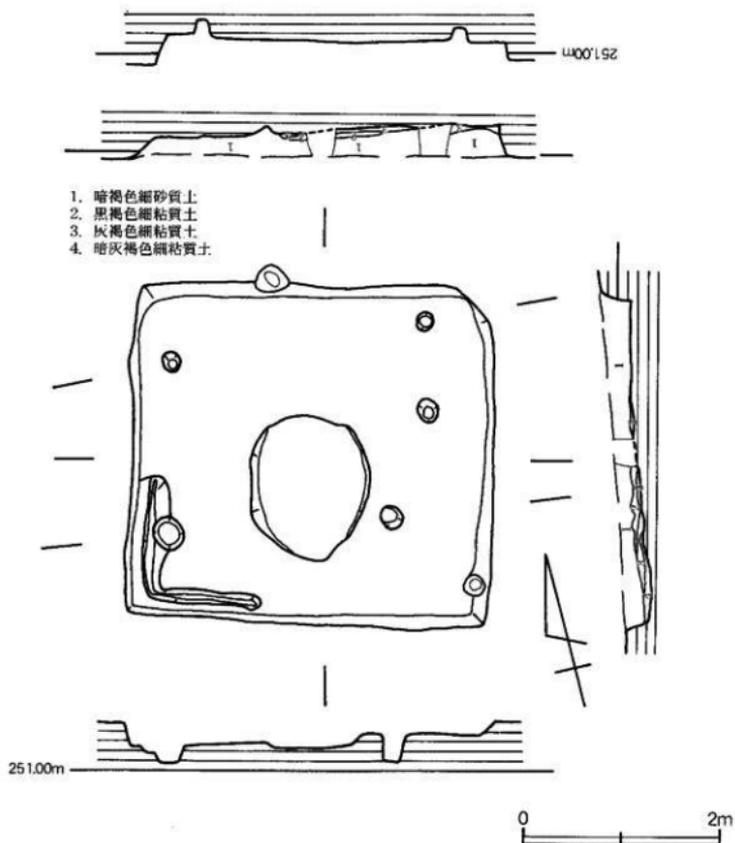
遺物は少なく、土師器の甕の底部片、高坏の口縁部と脚部片、高坏の脚部を転用した輪の羽口が出土した。石器では、チャート製のナイフ形石器、打製石鏃・磨製石鏃、磨石、砥石が出土した。

#### SA-41 (第165・169・170・171・172・173図)

調査区の南部西側で検出された、SA-42と切りあっている、方形を呈する住居である。規模

は、4.36×4.96m、検出面から床面までの深さ34cmを測る。柱穴は4個で、径25~39cm、深さ13~22cmを測る。貼床が施してあり、厚さ7~24cmを測る。住居中央やや南側に、貼床から掘り込んだ長径89cm、短径80cm、深さ8cmを測る、楕円形を呈する掘り込みが検出された。埋土は、炭化物を含んだ黒褐色土が確認されたことから、この掘り込みは炉跡と思われる。

遺物は、土師器が大量に出土しており、弥生土器の甕の口縁部が1点出土した。土師器は、甕の口縁部・胴部・底部片、壺の口縁部・胴部・底部片、高杯の口縁部・脚部片・鉢の口縁部片が出土した。甕の底部で、上底になっているものが出土した。丹塗りの壺・高杯・鉢も出土した。また、高杯の脚部を転用した甕の羽口の破片も数点出土した。石器では、礫石が出土した。



第161図 SA-34 遺構実測図

#### SA-42 (第166図)

調査区の南部西側で検出された住居である。SA-41・43と切りあっているため、規模などの詳細は不明である。検出面から床面までの深さは15cmを測る。柱穴や炉跡、貼床は検出されなかった。

遺物は出土していない。

#### SA-43 (第166・173図)

調査区の南部西側で検出された、SA-42と切りあっている、方形を呈する住居である。規模は、2.51×3.39m、検出面から床面までの深さは33cmを測る。柱穴は2個で、径20~38cm、深さ11~42cmを測る。住居の中央東側に長径45cm、短径36cm、深さ9cmの不整形を呈する掘り込みがみられるが、焼土や炭化物などは検出されなかった。

遺物は、土師器の甕の底部と高坏の脚部の土器片が2点と、溶結安山岩製の白石が1点出土した。

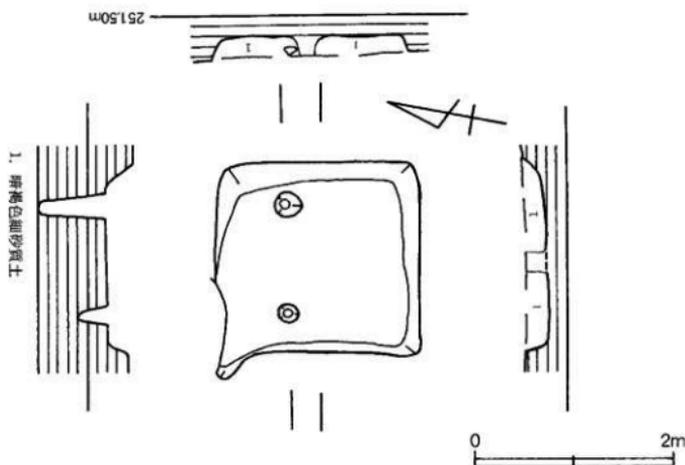
#### SA-44 (第167図)

調査区の中央部やや西側で検出された、方形を呈する住居である。規模は、1.31×2.31m、検出面から床面までの深さは13cmを測る。柱穴、炉跡、貼床などは検出されなかった。遺物も出土していない。

#### SA-45 (第168・173・174図)

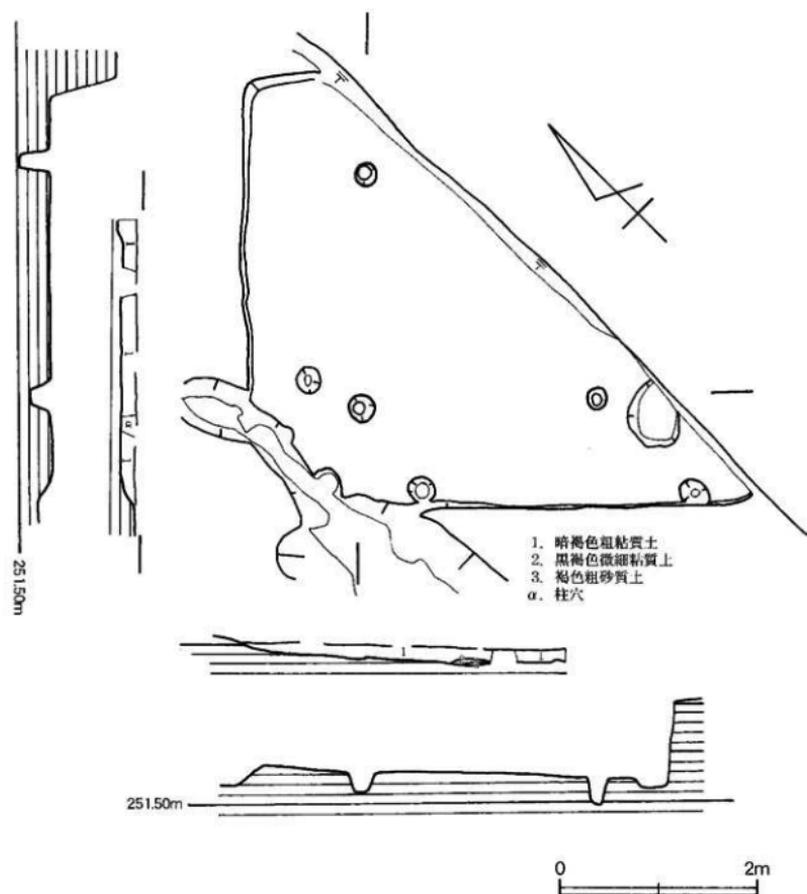
調査区の南部やや東側で検出された、方形を呈する住居である。規模は、4.67×5.45m、検出面から床面までの深さは55cmを測る。柱穴は4個で、径28~49cm、深さ8~29cmを測る。精査中に、検出面から約20cmで硬化面と中央部に、南北1.9m、東西1.4mの範囲で黒褐色土が認められた。

そこで、貼床と炉跡であるかを確認するために、土層断面用のベルトにサブトレンチを入れたと

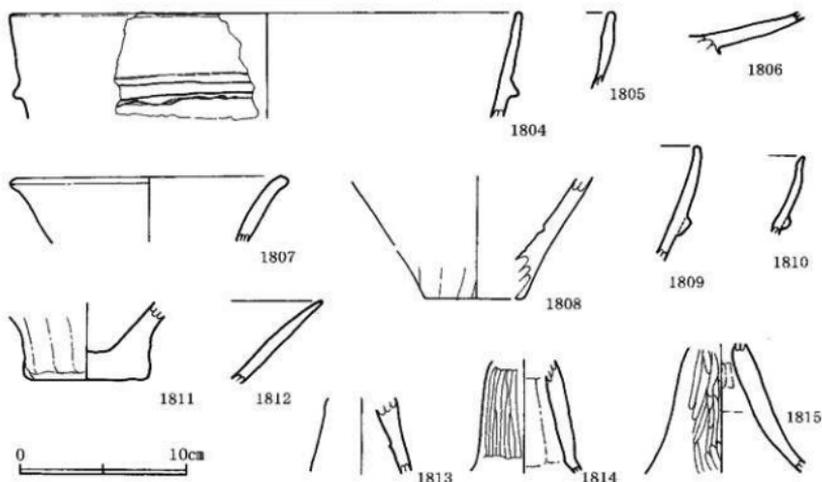


第162図 SA-35 遺構実測図

ころ、貼床は厚さ8~12cm、黒褐色土は掘り込んだ形で厚さ4~5cmを測った。しかし、その貼床の直下から2枚目の硬化面と中央部に南北1.25m、東西1.18mの範囲で黒褐色土が確認された。さらにサブトレンチを掘り下げたところ、2枚目の貼床は厚さ8~18cm、黒褐色土は、掘り込んだ形で、厚さ4~5cmを測った。このことから、この住居では、まず、貼床を8~18cm施し、住居中央に炉を設け生活していたが、その面にさらに貼床を8~12cm施して床面を上げ、住居中央に炉を設けて再び生活していたことが伺える。



第163図 SA-40 遺構実測図



第164図 SA-34・35・40 出土遺物実測図

1804~1806 SA.31.1809~1810 SA.35.1811~1815 SA.40

遺物は、土師器の甕の口縁部・胴部・底部片、壺の口縁部片・脚部片・鉢の口縁部片が出土しており、高坏の脚部を転用した甕の羽口が2点と、石器では、砂岩製の礫器、溶結安山岩製の台石が1点ずつ出土した。

#### SA-46 (第175・176・177・178図)

調査区の中央東側で検出された、SA-47・50を切っている、方形を呈する住居である。規模は、5.32×5.65m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。柱穴は4個で、径17~32cmを測り、深さは13~43cmを測る。貼床が施されており、厚さ10~13cmを測る。住居中央部には、南北1.32m、東西1.35m、深さ8~10cmの掘り込みが土層断面用のベルトで確認され、埋土は、炭化物を含んだ黒褐色土であるため、炉跡であると思われる。

遺物は、土師器の土器片が多く出土した。甕の口縁部・胴部・底部片、壺の口縁部・胴部片、高坏の口縁部・脚部片・鉢の口縁部・底部片、コップ型土器が出土した。また、丹塗りの壺・高坏・鉢もみられる。高坏の脚部を転用した甕の羽口片も数点出土した。石器では、打製石鏃、石鏃未製品、磨石兼敲き石、砥石のほか、台石が4点出土した。

#### SA-47 (第167図)

調査区の中央部東側で検出された、SA-46に切られている、不整形を呈する住居である。住居の大半をSA-46に切られているため、規模などの詳細は不明である。検出面から床面までの深さは15cmを測る。柱穴、炉跡、貼床などは検出されなかった。遺物は出土していない。

#### SA-48 (第167・178図)

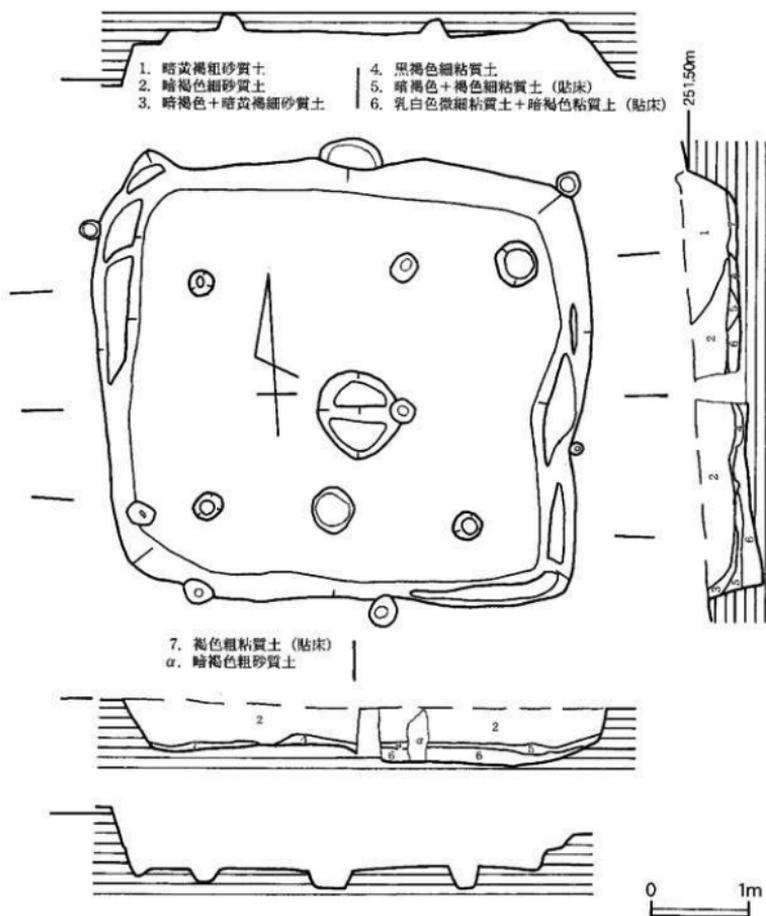
調査区の中央部やや北側で検出された、方形を呈する住居である。規模は、2.27×2.81m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。柱穴は2個で、径20~27cm、深さ18~54cmを測る。炉跡や貼床などは検出されなかった。遺物は、土師器の壺の土器片が1点出土したのみである。

SA-50 (第167図)

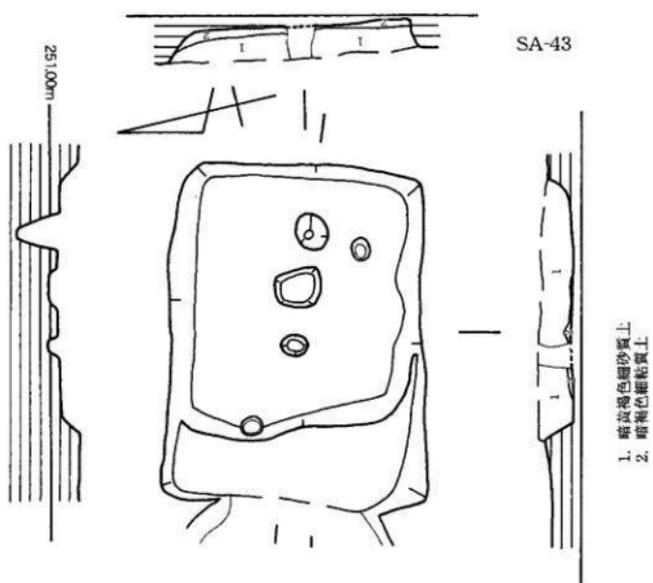
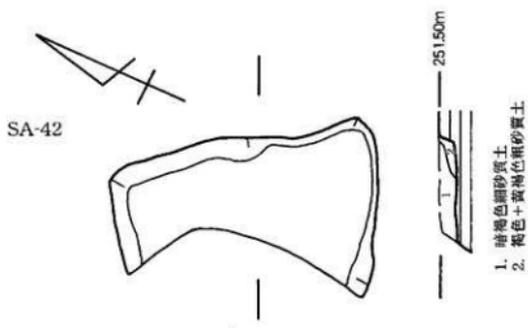
調査区の中央部やや東側で検出された、SA-46に切られている住居である。住居の大半をSA-46に切られているため、規模などの詳細は不明であるが、検出面から床面までの深さは8cmを測る。柱穴、炉跡、貼床などは検出されなかった。遺物は出土していない。

中世

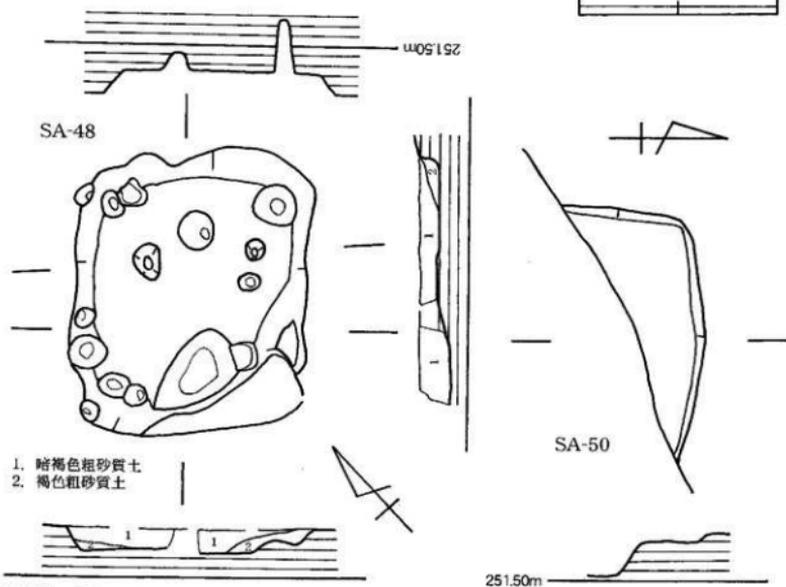
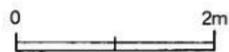
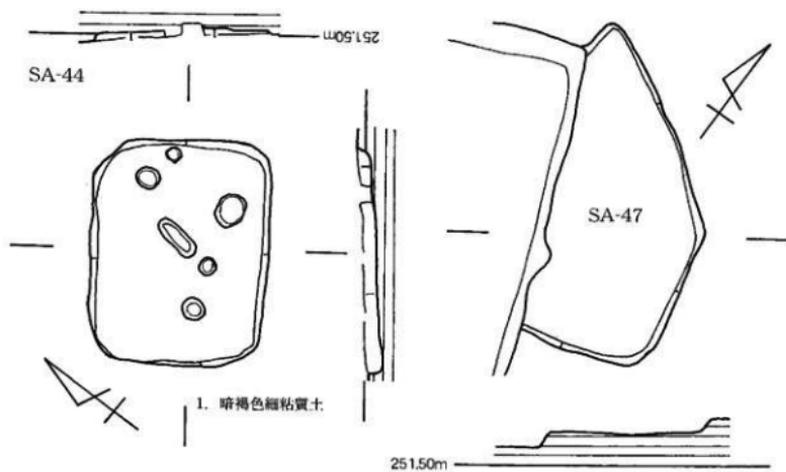
Ⅲc層上面で遺構検出を行ったところ、掘立柱建物が24棟、土坑・土墳墓18基、溝状遺構6条が



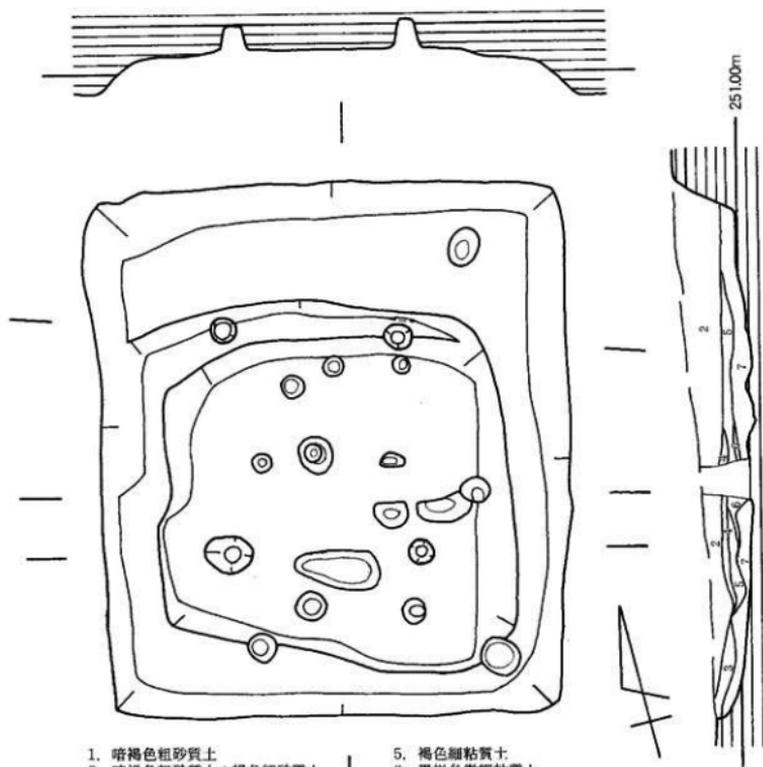
第165図 SA-41 遺構実測図



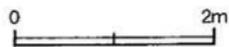
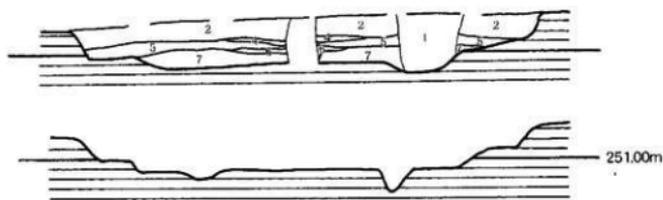
第166圖 SA-42·43 遺構実測圖



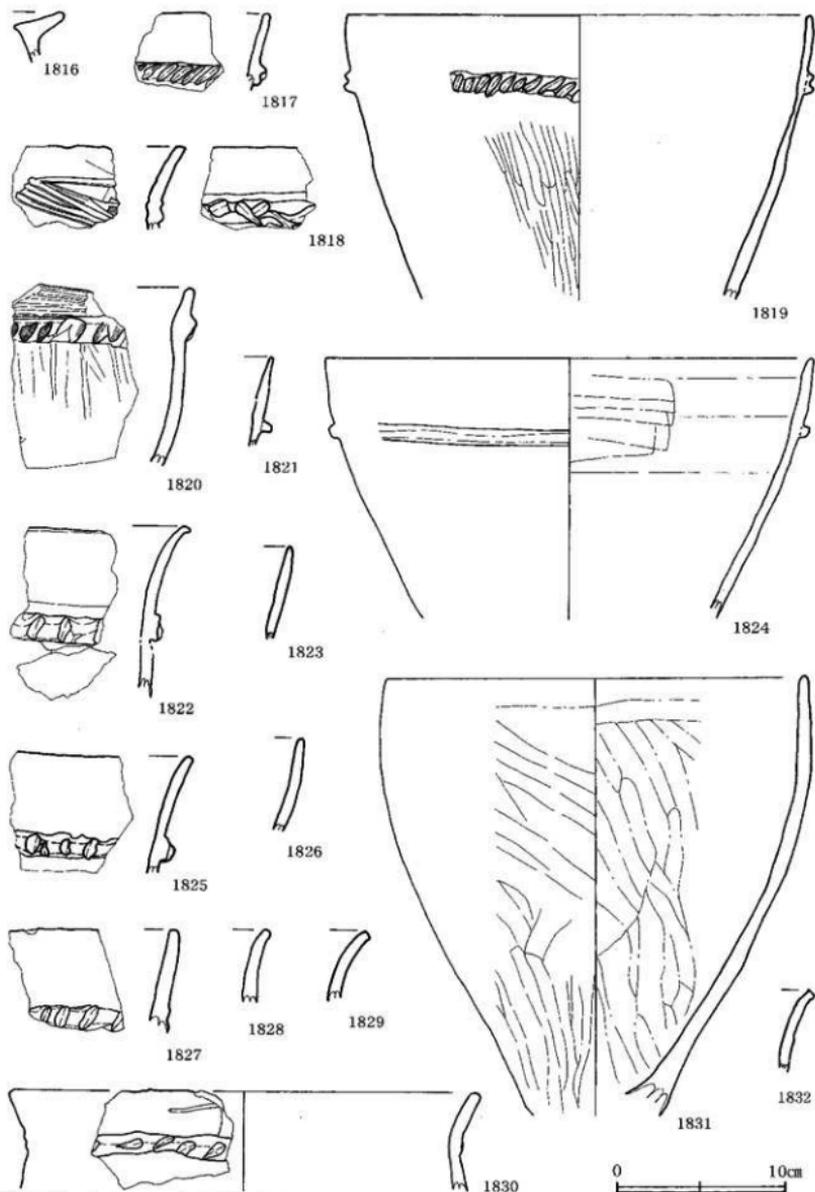
第167图 SA-44·47·48·50 遺構実測図



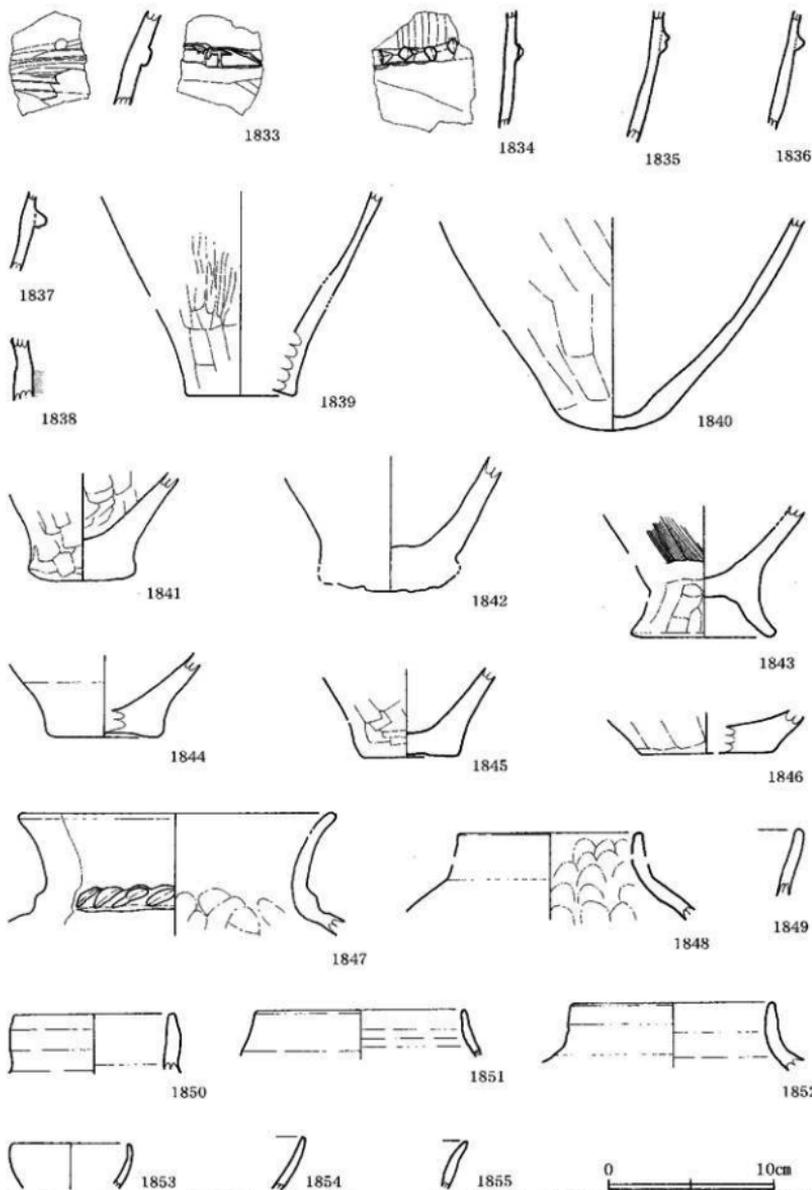
- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 1. 暗褐色粗砂質土        | 5. 褐色細粘質土         |
| 2. 暗褐色粗砂質土+褐色細砂質土 | 6. 黒褐色微細粘質土       |
| 3. 灰褐色細粘質土        | 7. 褐色細砂質土+暗褐色細粘質土 |
| 4. 黒褐色微細粘質土       |                   |



第168図 SA-45 遺構実測図

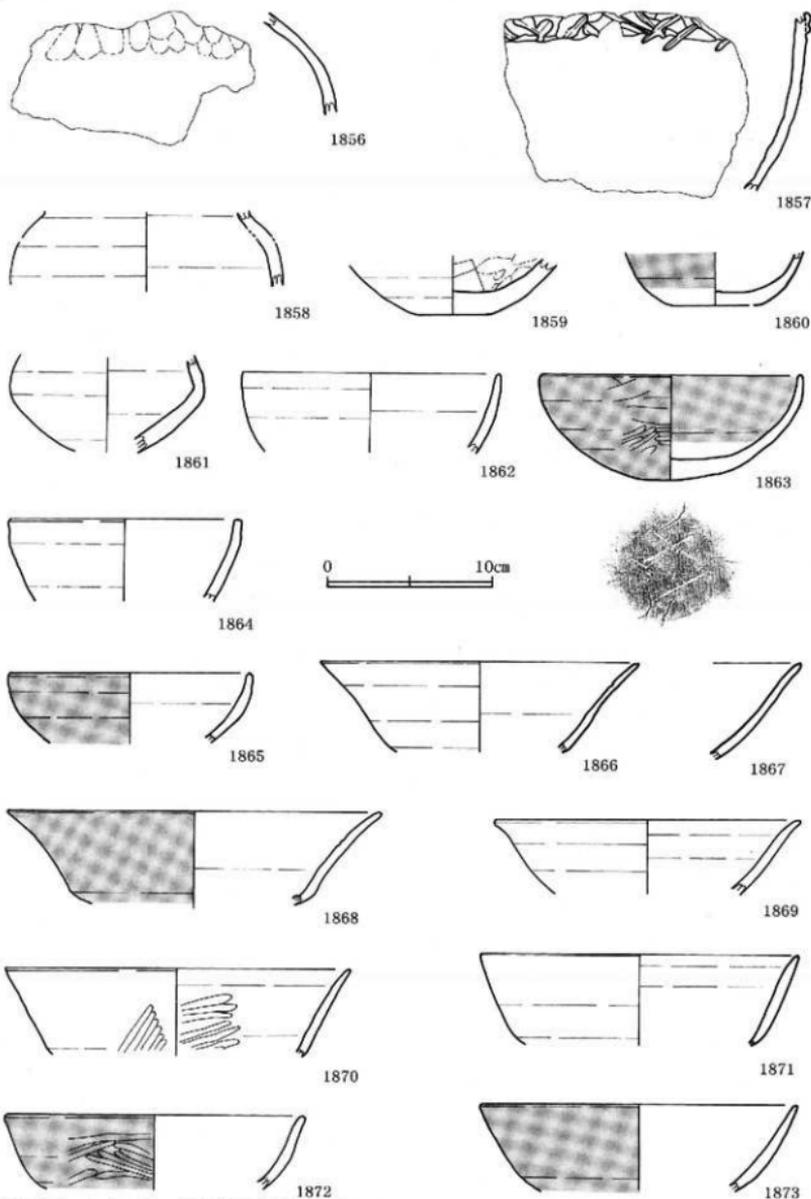


第169圖 SA-41 出土遺物実測圖(1)

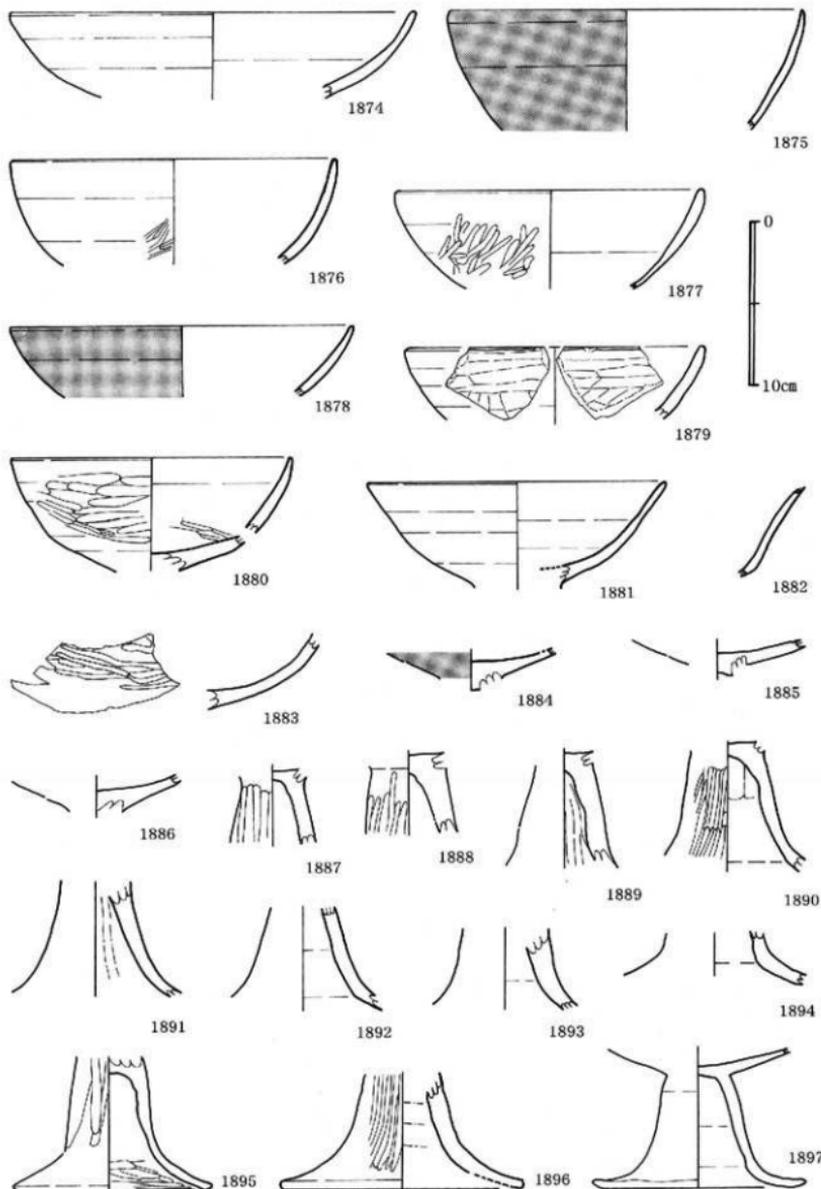


第170圖 SA-41 出土遺物実測圖(2)

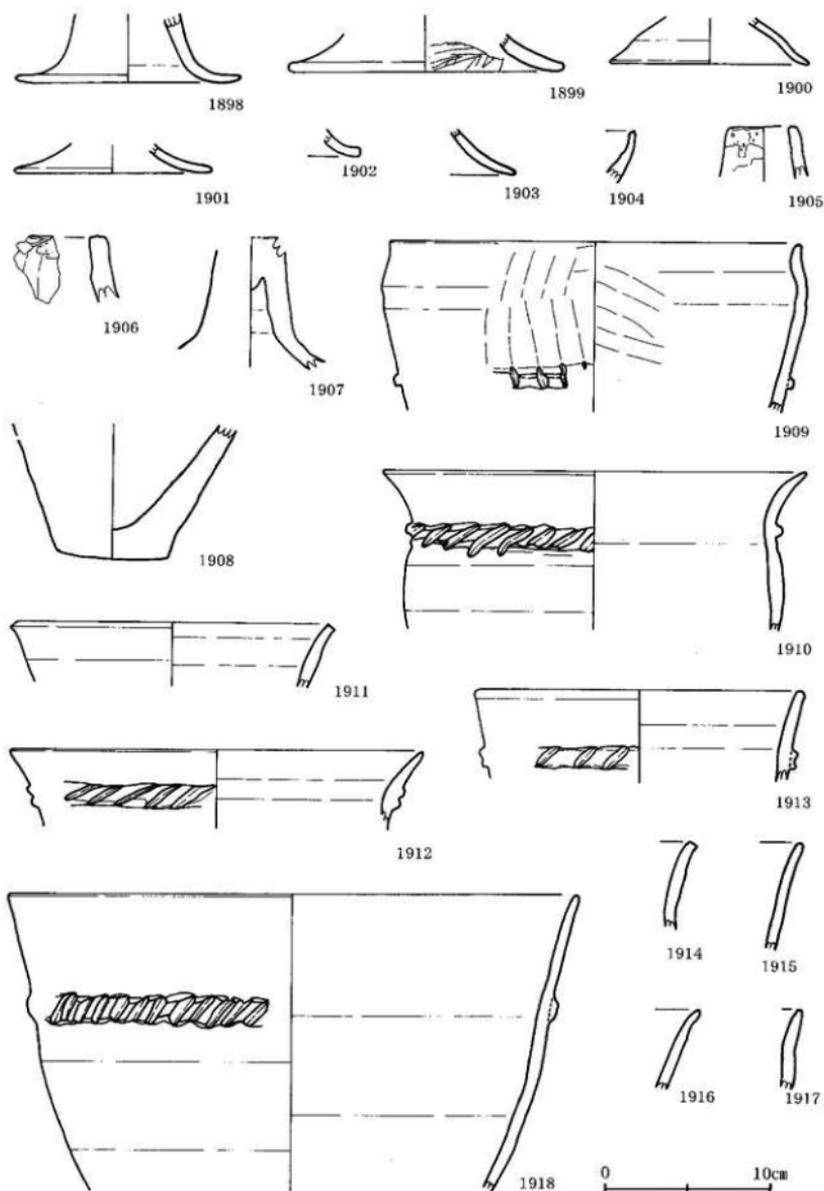
1833~1836・1838~1842・1844~1845・1847~1854 SA-41・1837・1843・1846・1855 SA-41-ベ&ト内 攝



第171图 SA-41 出土遺物実測图(3)

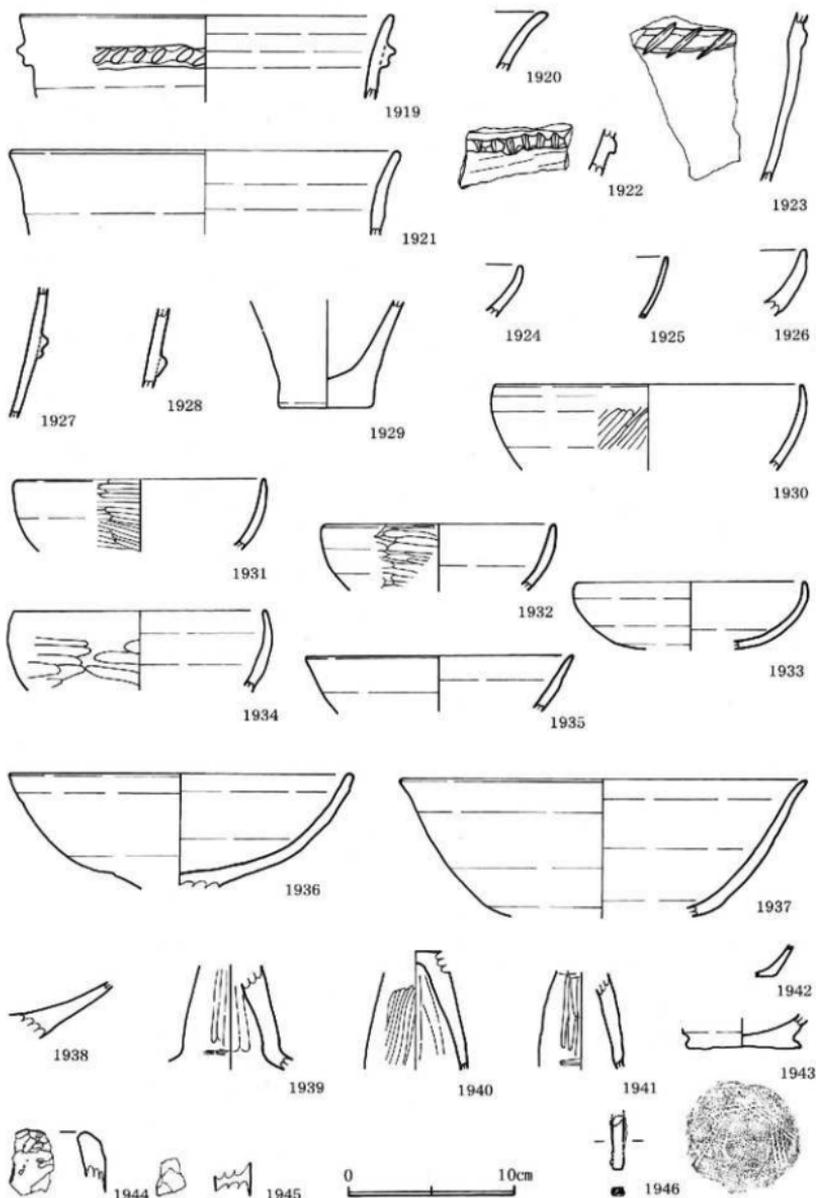


第172図 SA-41 出土遺物実測図(4) 1874-1881-1883-1885-1896-SA-41, 1882-1897-SA-41・ペルト内, 1884-SA-41・ペルト内



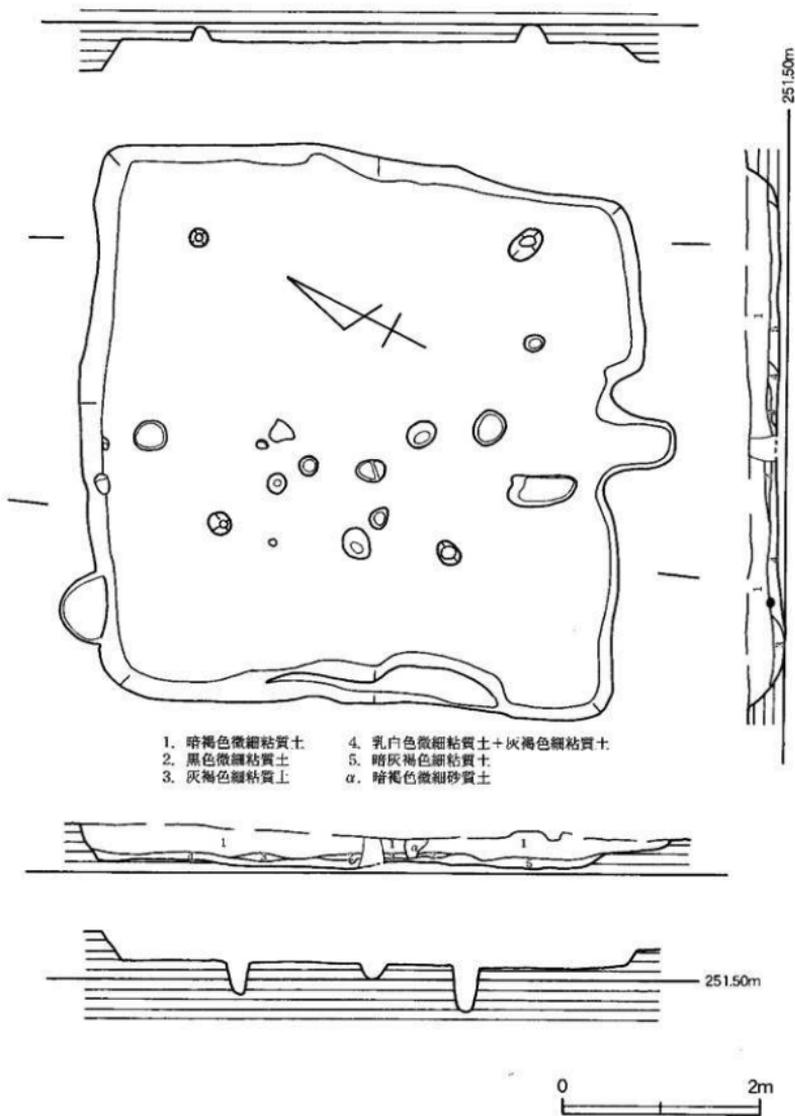
第173图 SA-41·43·45 出土遺物実測図

1898~1902·1904~1906:SA-41,1903:SA-41・ペルトI,1907~1908:SA-43,  
1909~1916·1918:SA-45,1917:SA-45・龍床内

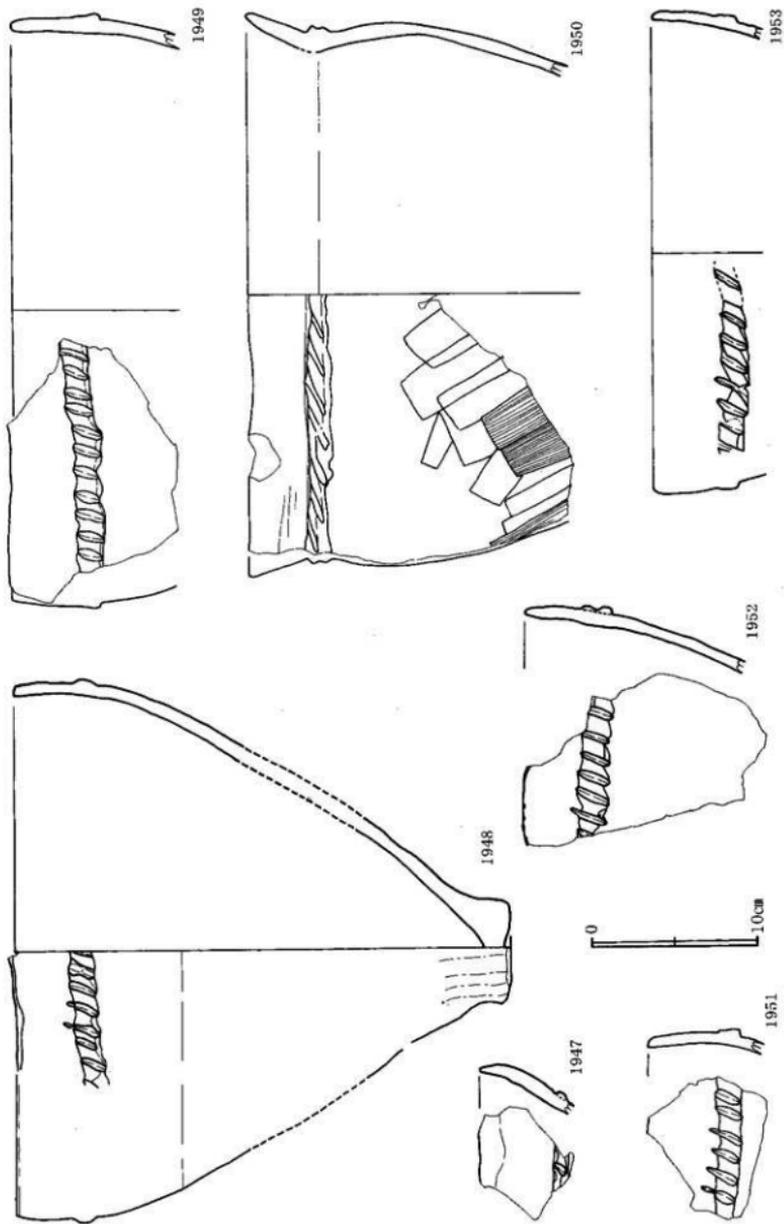


第174圖 SA-45 出土遺物実測図

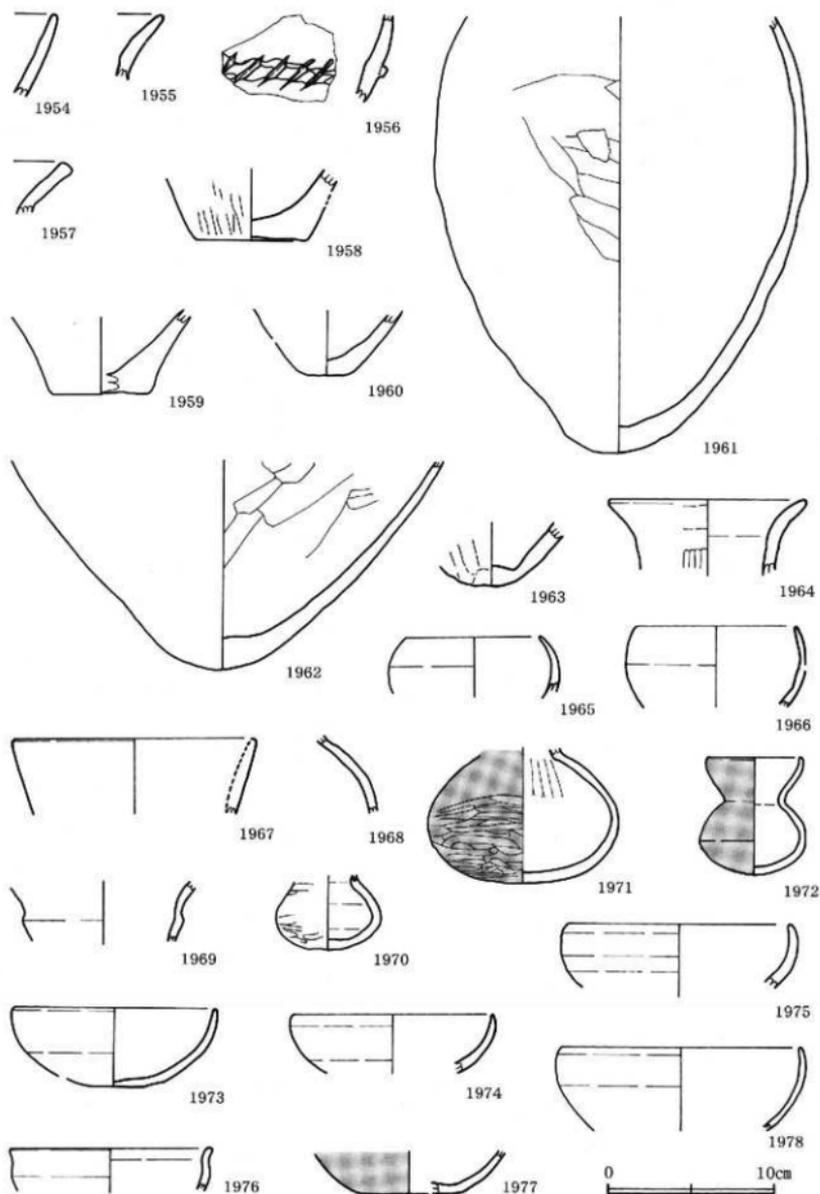
1919~1922・1924~1945 SA-43,1923 SA-45・船底内,1946 SA-45・ベル下内



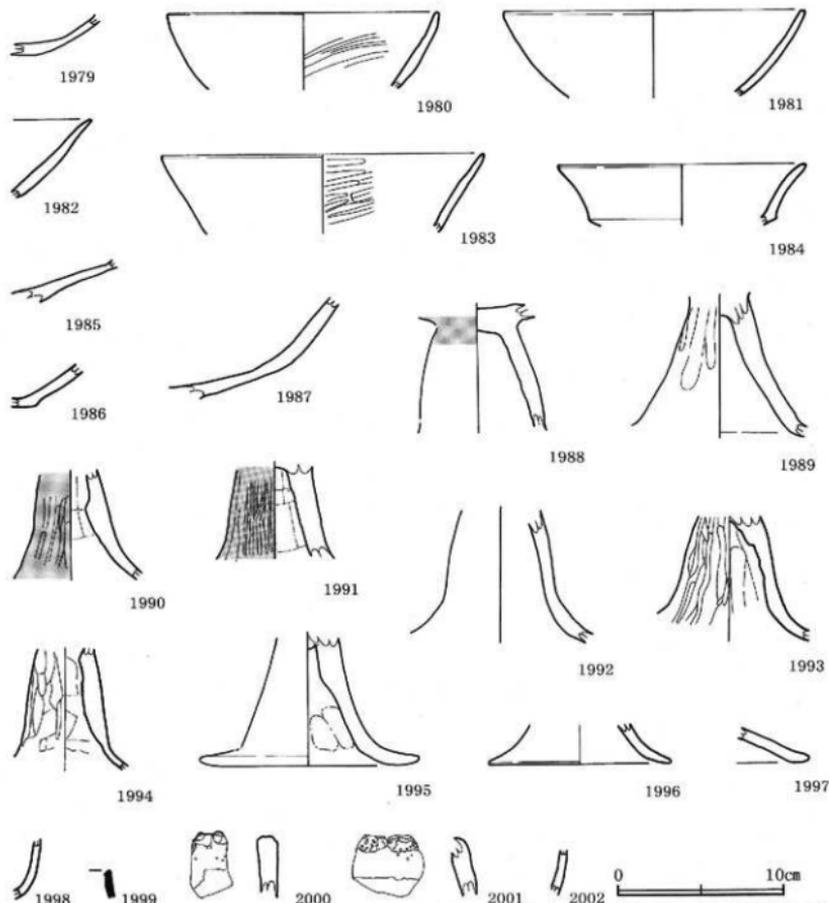
第175図 SA-46 遺構実測図



第176圖 SA-46 出土遺物実測図(1)



第177图 SA-46 出土遺物実測図(2)



第178図 S A-46・48 出土遺物実測図

1979・1981～1994・1996～2000:SA 46,1980:SA 46・ベルト内,1995・2001:SA 46-pit, 2002:SA 48

検出された。

**S B-99 (第179図)**

調査区の西部北側にある、梁行2間3.93～3.96m、桁行3間5.90～5.95mを測る建物である。柱穴の規模は、径18～29cm、深さ14～29cmを測る。主軸方位はN 1° Eである。

**S B-100 (第179図)**

調査区の西部やや南側にある、梁行2間4.55～4.60m、桁行3間6.60～6.68mを測る建物である。柱穴の規模は、径22～38cm、深さ26～36cmを測る。主軸方位はN89° Wである。

**S B-101 (第179図)**

調査区の西部中央にある、現存で、梁行1間1.93m、桁行3間4.86mを測る建物である。柱穴の規模は、径22～55cm、深さ12～29cmを測る。主軸方位はN3°Eである。

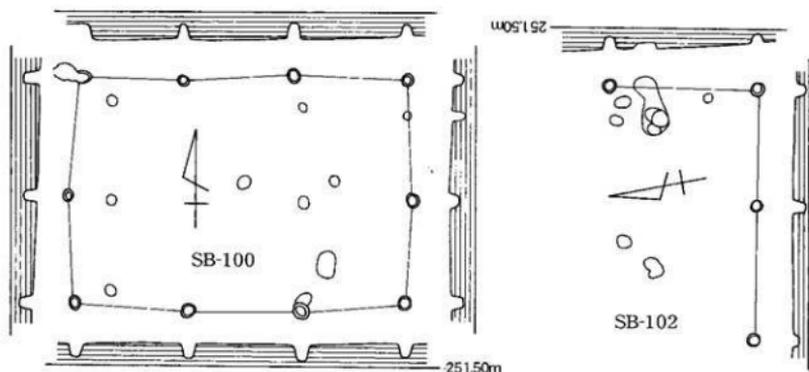
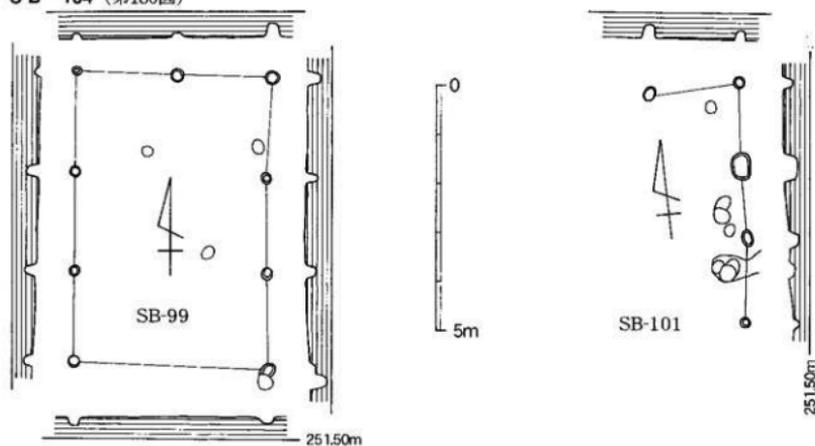
**SB-102** (第179図)

調査区の西部中央にある、現存で、梁行2間5.10m、桁行1間3.04mを測る建物である。柱穴の規模は、径24～28cm、深さ13～26cmを測る。主軸方位はN11°Eである。

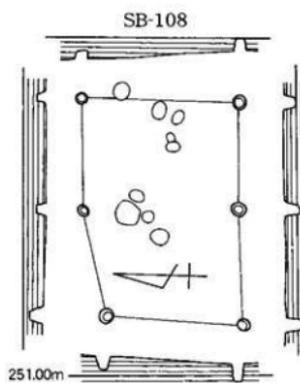
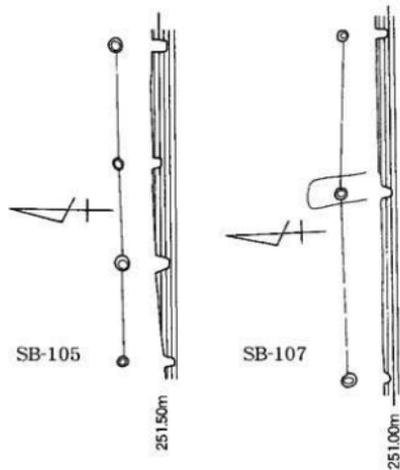
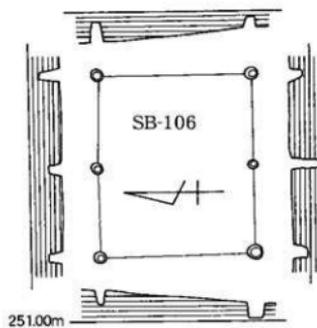
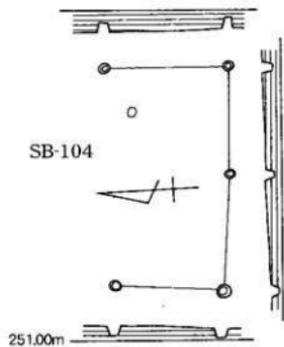
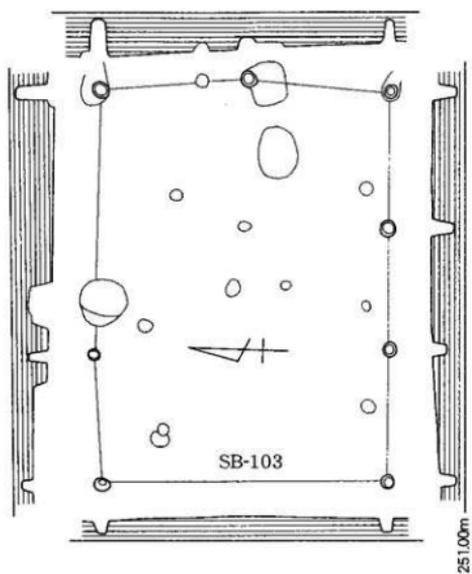
**SB-103** (第180図)

調査区の西部やや南側にある、梁行2間5.74～5.84m、桁行3間7.92～8.02mを測る建物である。柱穴の規模は、径27～31cm、深さ25～79cmを測る。主軸方位はN89°Eである。

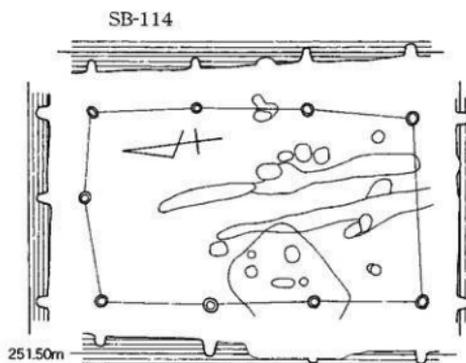
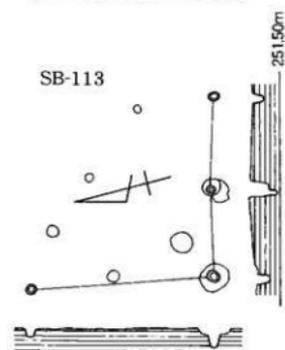
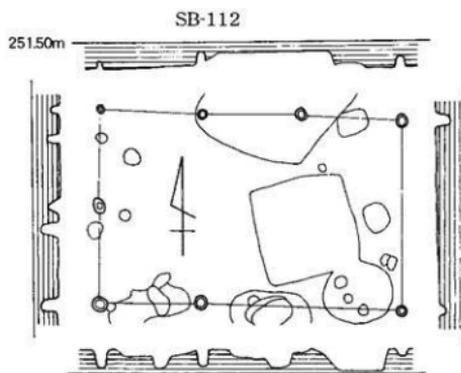
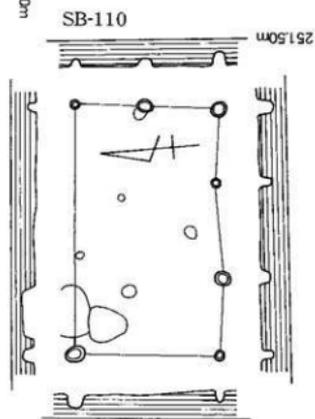
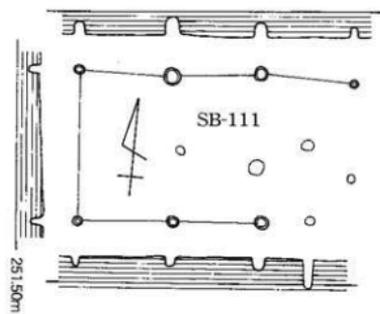
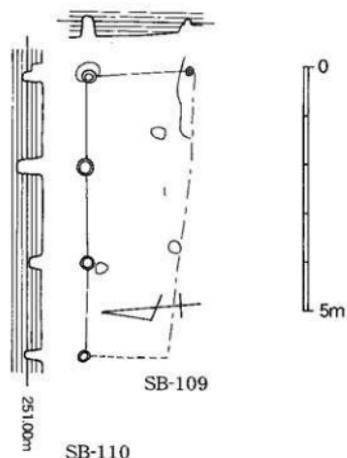
**SB-104** (第180図)



第179図 SB-99-102 遺構実測図



0 5m  
第180圖 SB-103~108 遺構実測図



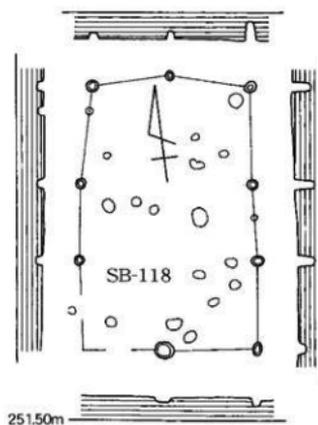
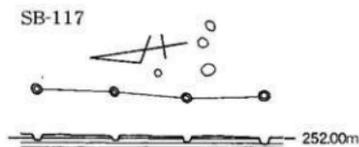
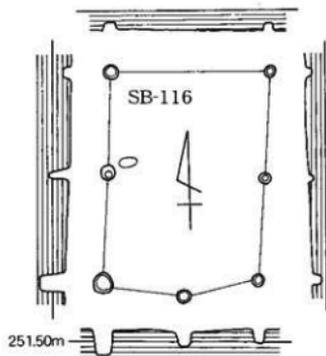
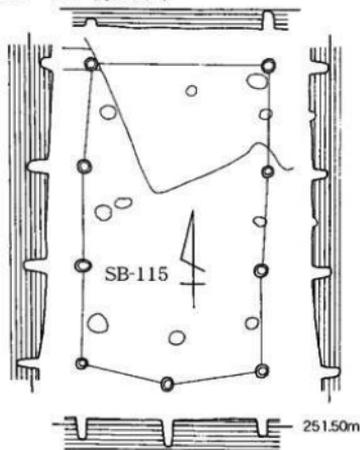
第181圖 SB-109~114 遺構実測図

調査区の西部南側にある、現存で、梁行2間4.59m、桁行1間2.17~2.47mを測る建物である。柱穴の規模は、径24~29cm、深さ20~25cmを測る。主軸方位はN5°Eである。

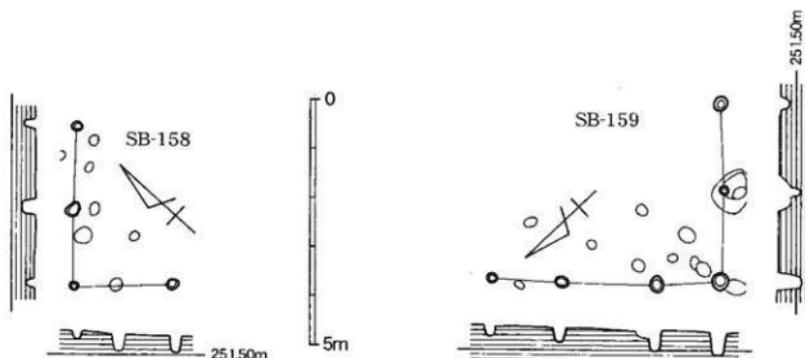
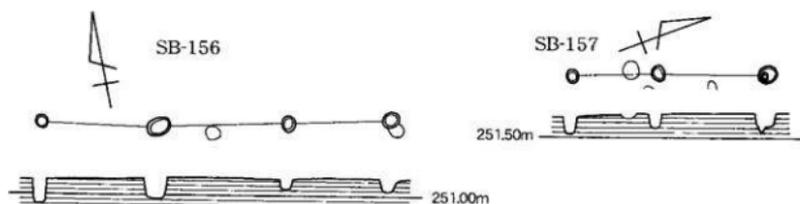
SB-105 (第180図)

調査区の西部南側にある、現存で、3間6.41mを測る建物である。柱穴の規模は、径23~30cm、深さ19~33cmを測る。主軸方位はN88°Eである。

SB-106 (第180図)



第182図 SB-115~118 遺構実測図



第183図 SB-156~159 遺構実測図

調査区の西部南側にある、梁行1間3.03~3.07m、桁行3間5.42~5.48mを測る建物である。柱穴の規模は、径23~31cm、深さ20~59cmを測る。主軸方位は $N89^{\circ}E$ である。

**SB-107** (第180図)

調査区の西部南端にある、現存で、2間7.02mを測る建物である。柱穴の規模は、径23~28cm、深さ10~28cmを測る。主軸方位は $N87^{\circ}W$ である。

**SB-108** (第180図)

調査区の西部南側にある、梁行1間2.68~3.15m、桁行2間4.46~4.53mを測る建物である。柱穴の規模は、径25~29cm、深さ17~43cmを測る。主軸方位は $N88^{\circ}E$ である。

**SB-109** (第181図)

調査区の西部南端にある、南半分が南壁に入っている建物で、詳細は不明であるが、現存で、梁行1間2.04m、桁行3間5.70mを測る建物である。柱穴の規模は、径20~35cm、深さ25~54cmを測る。主軸方位は $N86^{\circ}W$ である。

**SB-110** (第181図)

調査区の中央やや北部西よりにある、梁行2間2.92~2.95m、桁行3間5.02~5.09mを測る建物である。柱穴の規模は、径18~41cm、深さ18~29cmを測る。主軸方位は $N83^{\circ}W$ である。

**SB-111** (第181図)

調査区の中央やや北よりにある、梁行1間3.10m、桁行3間5.52mを測る建物である。柱穴の規

模は、径20～33cm、深さ20～36cmを測る。主軸方位はN85° Eである。

**S B-112** (第181図)

調査区の中央部にある、梁行2間3.89～3.95m、桁行3間6.03～6.06mを測る建物である。柱穴の規模は、径15～30cm、深さ10～40cmを測る。主軸方位はN89° Wである。

**S B-113** (第181図)

調査区の中央部にある、現存で、梁行2間3.65m、桁行1間3.72mを測る建物である。柱穴の規模は、径20～23cm、深さ19～57cmを測る。主軸方位はN11° Eである。

**S B-114** (第181図)

調査区の中央部南側にある、梁行2間3.74～3.86m、桁行3間6.41～6.43mを測る建物である。柱穴の規模は、径20～29cm、深さ20～35cmを測る。主軸方位はN7° Eである。

**S B-115** (第182図)

調査区の中央部東南よりにある、梁行2間3.60～3.66m、桁行3間6.12～6.24mを測る建物である。柱穴の規模は、径22～34cm、深さ22～55cmを測る。主軸方位はN2° Eである。

**S B-116** (第182図)

調査区の中央部東南よりにある、梁行2間3.13～3.20m、桁行2間4.24～4.33mを測る建物である。柱穴の規模は、径24～42cm、深さ10～51cmを測る。主軸方位はN3° Eである。

**S B-117** (第182図)

調査区の東部北側にある、現存で、3間4.57mを測る建物である。柱穴の規模は、径20～22cm、深さ12～15cmを測る。主軸方位はN11° Eである。

**S B-118** (第182図)

調査区の東部北側にある、梁行2間3.15m、桁行5.33mを測る建物である。柱穴の規模は、径22～36cm、深さ11～40cmを測る。主軸方位はN7° Eである。

**S B-156** (第183図)

調査区の東部南端にある建物で、南側が南壁に入っているため、詳細は不明であるが、現存で、3間7.05mを測る。柱穴の規模は、径28～47cm、深さ22～49cmを測る。主軸方位はN75° Wである。

**S B-157** (第183図)

調査区の西部中央にある、現存で、2間3.87mを測る建物である。柱穴の規模は、径27～40cm、深さ29～42cmを測る。主軸方位はN20° Eである。

**S B-158** (第183図)

調査区の西部中央にある、現存で、梁行2間3.27m、桁行1間2.98mを測る建物である。柱穴の規模は、径18～34cm、深さ17～36cmを測る。主軸方位はN46° Eである。

**S B-159** (第183図)

調査区の西部中央にある、現存で、梁行2間3.62m、桁行3間4.60mを測る建物である。柱穴の

規模は、径22~37cm、深さ23~47cmを測る。主軸方位はN44° Eである。

#### SK-310

調査区の南部西側で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.03m、短径0.62m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

#### SK-313

調査区の中央部西側で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.76m、短径0.65m、検出面から床面までの深さは13cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

#### SK-314

調査区の中央やや西側で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.13m、短径0.91m、検出面から床面までの深さは19cmを測る。遺物は土師器片、黒色土器片が出土した。

#### SK-316

調査区の中央、SK-314の東4mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.48m、短径0.94m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

#### SK-317

調査区の北部西側で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.1m、短径0.72m、検出面から床面までの深さは17cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

#### SK-319

調査区の北部中央、SK-317の東3.4mで検出された、SK-320を切っている楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.13m、短径0.84m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は出土していない。

#### SK-320

調査区の北部中央、SK-319に切られている土坑である。現存で、径0.78m、検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は出土していない。

#### SK-325

調査区の北部中央やや東側で検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径1.33m、検出面から床面までの深さは13cmを測る。遺物は、土師器の高環が出土した。

#### SK-331

調査区の北部、SK-317の西4mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.1m、短径0.54m、検出面から床面までの深さは13cmを測る。遺物は、土師器の皿が出土した。

#### SK-332

調査区の中央部で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.72m、短径0.66m、検出面から床面までの深さは38cmを測る。遺物は出土しなかった。

#### SK-354

調査区の北部で検出された、不整形を呈する土坑である。規模は、1.7×1.8m、検出面から床面までの深さは28cmを測る。遺物は、縄文土器片と土師器の甕片、石炭未製品が出土した。

#### SK-358

調査区の北部中央で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.23m、短径0.83m、検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は縄文土器片、土師器の甕片が出土した。

#### SK-359

調査区の東部中央東壁際で検出された、不整形を呈する土坑である。現存で、径1.56m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は出土していない。

#### SK-360

調査区の南部東側南壁際で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.97m、短径0.57m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

#### SK-361

調査区の南部中央で検出された、不整形を呈する土坑である。規模は、長径1.16m、短径0.42m、検出面から床面までの深さは8cmを測る。遺物は土師器片、輪の羽口片が出土した。

#### SK-362

調査区の南部東側南壁際で検出された、南壁に入っている土坑である。現存で、長径0.93m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

#### SK-363

調査区の中央で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.42m、短径1.23m、検出面から床面までの深さは23cmを測る。遺物は、土師器の甕片が出土した。

#### SD-12

調査区の南部中央で検出された、南北にのびる溝状遺構である。現存で、長さ約10m、幅0.4～0.5m、深さ10～15cmを測る。遺物は土師器片、黒色土器片、輸入陶磁器片が出土した。

#### SD-13

調査区の東部で検出された、南北にのびる溝状遺構である。現存で、長さ約15m、深さ10～20cmを測る。遺物は縄文土器片、弥生土器片、土師器片、須恵器片、黒色土器片が出土した。

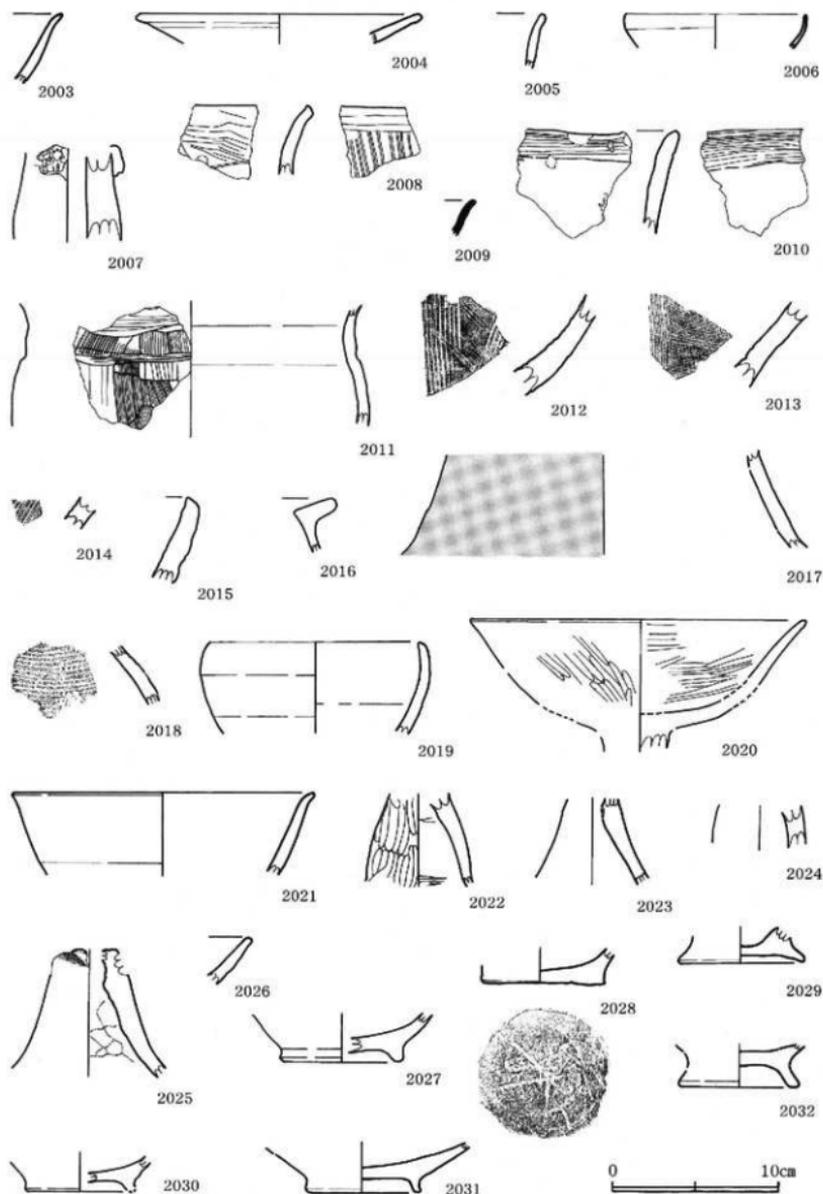
#### SD-14

調査区の東部で検出された、南北にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約17m、幅1.2～1.4m、深さ30～60cmを測る。遺物は、布痕土器と土師器の甕片と中世の国産陶器の摺鉢が出土した。

#### SD-15

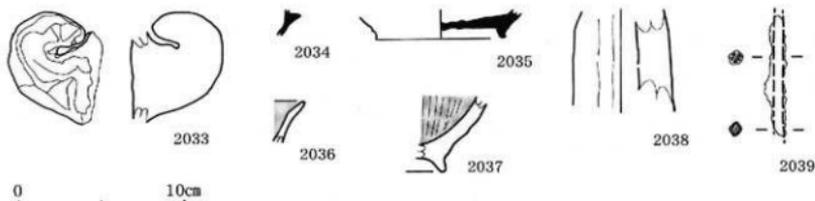
調査区の南部壁に沿って検出された、東西にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約8m、深さ10～20cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

#### SD-17



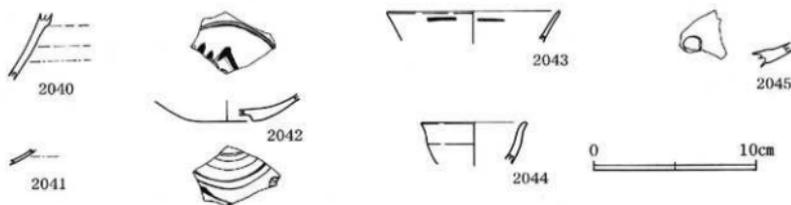
第184图 SK·IV区 出土遗物实测图(1)

2003: SK.325; 2004: SK.331; 2005: SK.351; 2006: SK.358; 2007: SK.361; 2008: SK.363;  
 2009: SD-13.2010~2015; SD-14.2017~2020; 2023~2026; 491.2021~2022; 2029: IV区;  
 2024: 134.2025; 19.2028; 327.2030; 128.2031; 36.2032; 三编



第185図 IV区 出土遺物実測図(2)

2034・491・2038～2039・IV区



第186図 IV区 出土遺物実測図(3)

調査区の南部中央、SD-12の東側で検出された、南北にのびる溝状遺構である。現存で、長さ約5m、幅0.2～0.58m、深さ8～15cmを測る。遺物は出土していない。

#### SD-18

調査区の中央で検出された、東西にのびる溝状遺構である。現存で、長さ約6m、幅0.82～1.21m、深さ12～16cmを測る。遺物は縄文土器片、土師器片が出土した。

調査区の北側に東西に並ぶ深い穴が検出された。貯蔵穴と思われるが定かではない。以下に述べる。

#### SZ-01

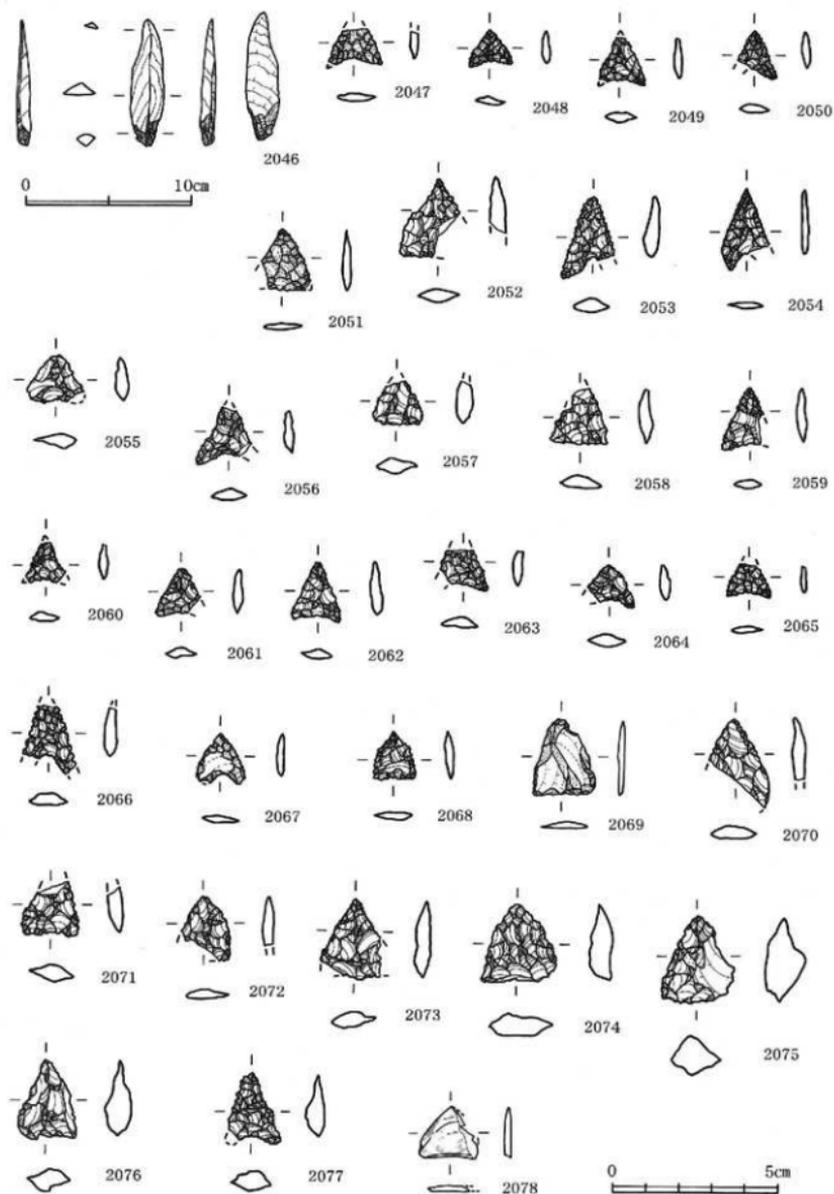
調査区の北部中央で検出され、規模は、1～2.8m、深さ0.9～1.3mを測り、不整形を呈する。遺物は縄文土器片、土師器片が出土した。

#### SZ-02

調査区の北部、SZ-01の東6.5mで検出され、規模は1.9～3.1m、深さ0.7～1.3mを測り、不整形を呈する。遺物は縄文土器片、土師器片が出土した。

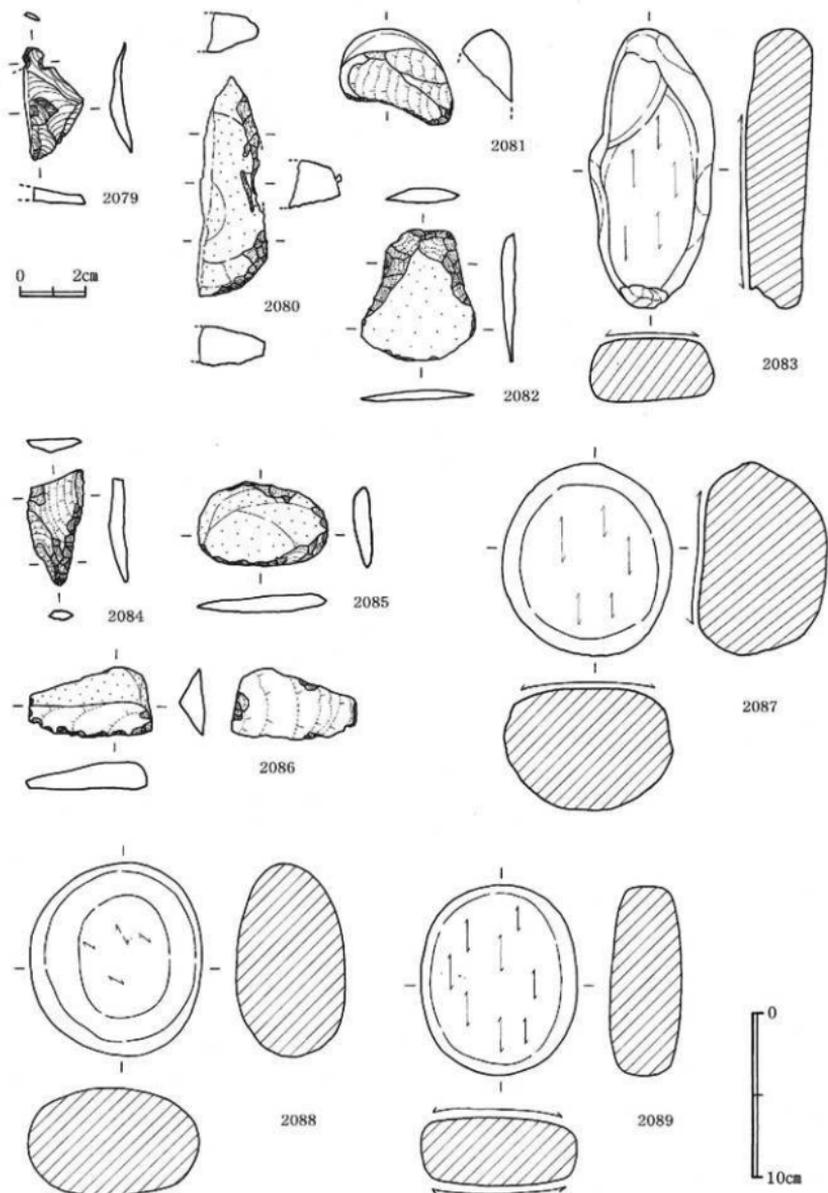
#### SZ-03

調査区の北部東壁際で検出され、東壁に入っているため規模は不明であるが、深さ2.1～2.5mを測り、不整形を呈する。遺物は縄文土器の突帯文土器や弥生土器や土師器が出土した。



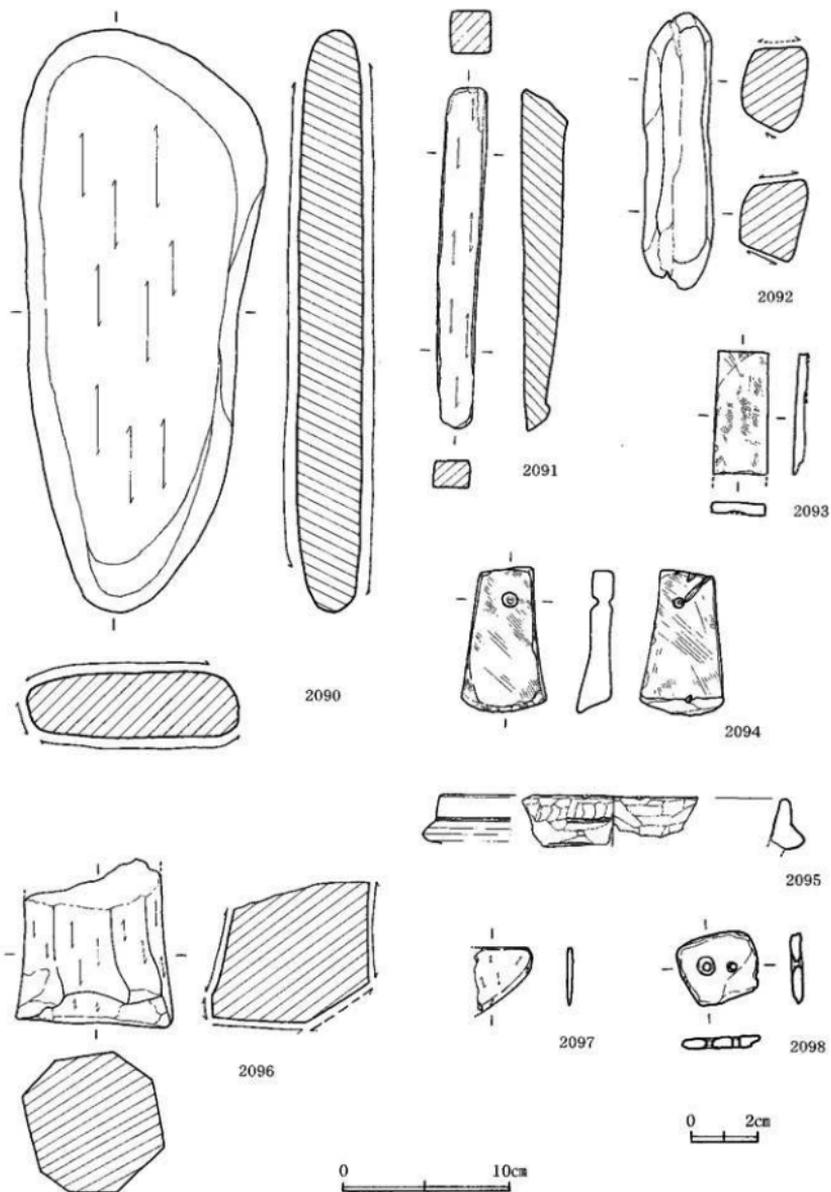
第187图 IV区 出土遗物实测图(4)

2046~2047·2078 SA-40;2048~2051·2071 SA-46;2052 SA-48;2053·SD-12,  
2054~2055·2058~2065·2067~2068·2070·2073~2074·2076·491.2069 SD-14,  
2075·SS-334



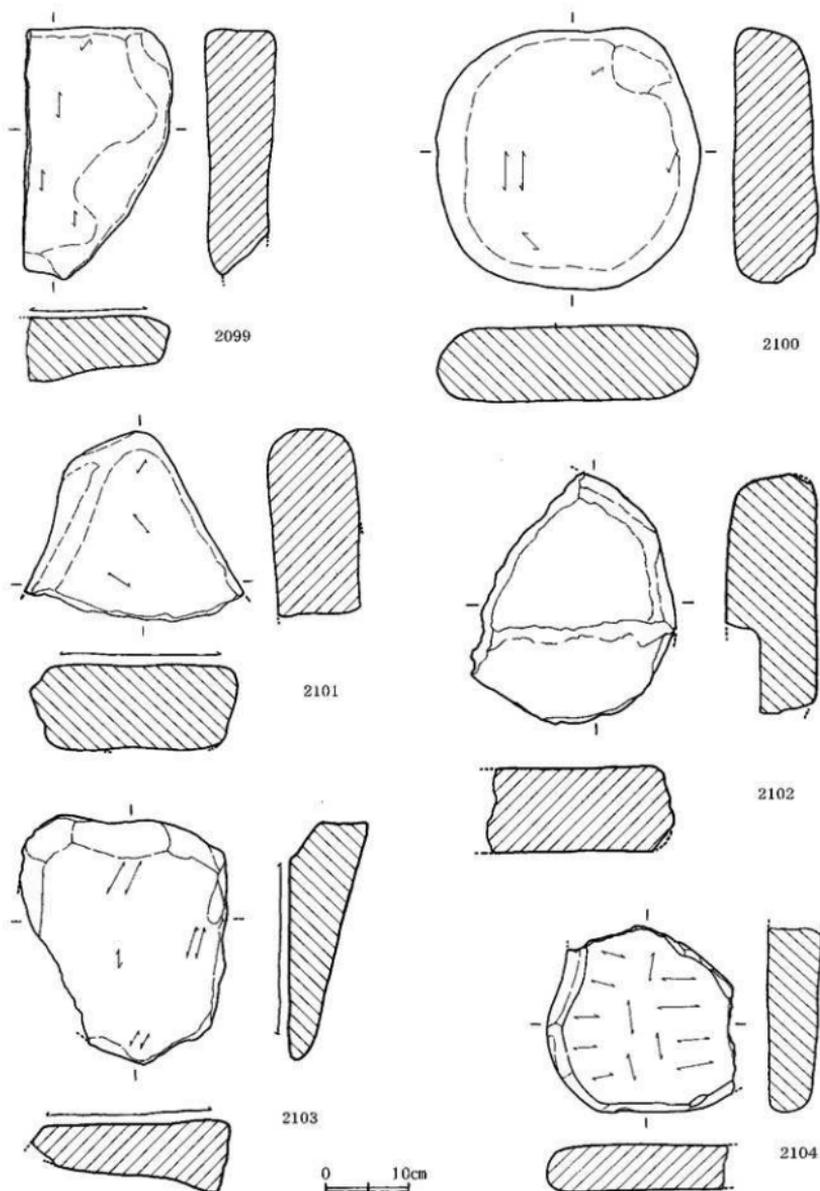
第188图 IV区 出土遺物実測図(5)

2080-2087:546.2081:SA-45.2082-2084:491.2083:SA-46.2086-2088:IV第  
2089:SA-40



第189图 IV区 出土遺物実測図(6)

2090-SA-40,2091-2096-SA-45,2092-SA-41,2094-2098-IV区,2097-SA-34



第190图 IV区 出土遗物实测图(7)

2099-SA-432100-2102-2104:SA-452103-SA-45

## 出土遺物

Ⅲc層上面での遺構検出、Ⅲc層掘り下げ、Ⅳ層上面での遺構検出の際、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器・輸入陶磁器、鉄器・石器など数十点の遺物が出土した。

弥生土器は、甕の口縁部が1点出土し、土師器は、高坏の口縁部・脚部、鉢の底部、埴の底部、甔の耳部などの土器片が出土している。須恵器は、坏の口縁部、埴の底部、黒色土器は、鉢の口縁部、埴の底部の土器片が出土している。輸入陶磁器は、白磁の碗・皿、青花の碗・皿が出土している。鉄器は鉄鏝の茎部が出土している。石器は、打製石鏝・打製石鏝未製品、石匙、刃器、磨石、石鍋、滑石製の用途不明石製品が出土している。

## 第7節 V区の調査

調査は、重機でⅢb層まで削いで、遺構の検出は、Ⅲc層上面とⅣ層上面で行った。その結果、掘立柱建物14棟、土坑・土壇臺9基、溝状遺構5条を検出した。調査区の北壁中央部では、遺構が北壁にかかって検出されたため、その部分を北側に拡張した。

## 中世

Ⅲc層上面で遺構検出を行ったところ、掘立柱建物14棟、土坑・土壇臺9基、溝状遺構5条を検出した。

### SB-119 (第192図)

調査区の南部西側にある建物で、南側が、南壁に入っているため、詳細は不明であるが、現存で、梁行2間3.05m、桁行2間4.25mを測り、柱穴の規模は、径26～46cm、深さ12～41cmを測る。主軸方位はN87°Wである。

### SB-120 (第192図)

調査区の中央部やや西側にある、梁行2間2.64～3.24m、桁行2間4.62～4.74mを測る建物である。柱穴の規模は、径30～47cm、深さ27～61cmを測る。主軸方位はN9°Wである。

### SB-121 (第192図)

調査区の中央部北側にある、現存で、2間4.35mを測る建物である。柱穴の規模は、径29～36cm、深さ30～49cmを測る。主軸方位はN85°Wである。

### SB-122 (第192図)

調査区の中央部やや東側にある、梁行2間4.16～4.25m、桁行3間5.43～6.10mを測る建物である。柱穴の規模は、径28～35cm、深さ23～59cmを測る。主軸方位はN85°Wである。

### SB-123 (第192図)

調査区の中央部東側にある、梁行2間3.86～3.92m、桁行3間5.66～5.80mを測る建物である。柱穴の規模は、径22～60cm、深さ20～58cmを測る。主軸方位はN4°Eである。

### SB-124 (第192図)

調査区の中央部東側にある、現存で、梁行2間4.05m、桁行2間4.21mを測る建物である。柱穴の規模は、径21～47cm、深さ35～60cmを測る。主軸方位はN87° Wである。

#### S B-125 (第193図)

調査区の東部北側にある、梁行2間3.76～3.94m、桁行3間6.80～7.04mを測る建物である。柱穴の規模は、径25～46cm、深さ30～59cmを測る。主軸方位はN86° Wである。

#### S B-126 (第193図)

調査区の東部南側にある建物で、南側が南壁に入っているため、詳細は不明であるが、現存で、2間4.05mを測る。柱穴の規模は、径28～35cm、深さ29～47cmを測る。主軸方位はN16° Eである。

#### S B-127 (第193図)

調査区の東部南側にある、現存で、梁行2間3.96m、桁行3間6.05mを測る建物である。柱穴の規模は、径24～35cm、深さ33～47cmを測る。主軸方位はN87° Wである。

#### S B-128 (第193図)

調査区の東部南側にある建物で、南側が南壁に入っているため、詳細は不明であるが、現存で、桁行3間5.28mを測る。柱穴の規模は、径25～33cm、深さ32～49cmを測る。主軸方位はN70° Wである。

#### S B-129 (第193図)

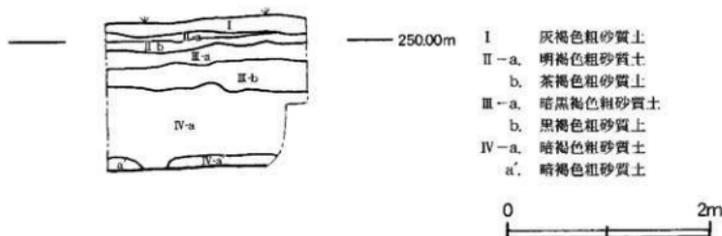
調査区の中央部南側にある建物で、南側が南壁に入っているため、詳細は不明であるが、現存で、2間4.28mを測る。柱穴の規模は、径32～39cm、深さ40～51cmを測る。主軸方位はN1° Eである。

#### S B-160 (第194図)

調査区の中央部にある、梁行2間3.83～4.18m、桁行3間6.35～6.86mを測る建物である。柱穴の規模は、径38～68cm、深さ27～58cmを測る。主軸方位はN4° Eである。

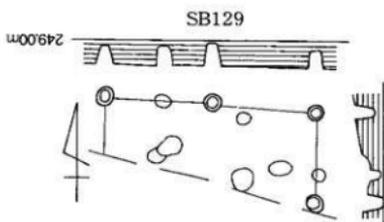
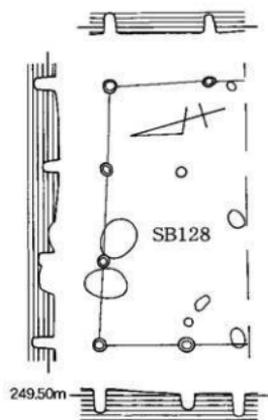
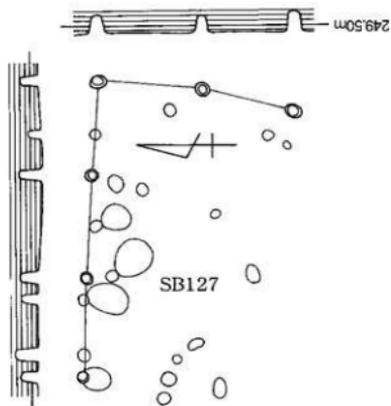
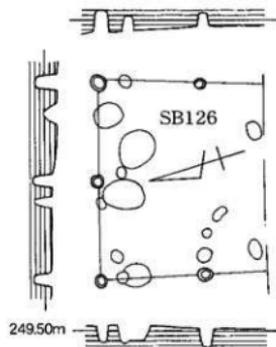
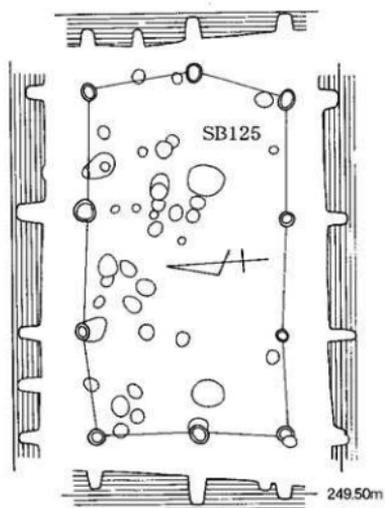
#### S B-161 (第194図)

調査区の中央部北側にある、現存で、桁行3間6.62mを測る建物である。柱穴の規模は、径25～45cm、深さ33～39cmを測る。主軸方位はN75° Wである。



第191図 V区 南壁層序図





0 5m

第193圖 SB-125-129 遺構実測図

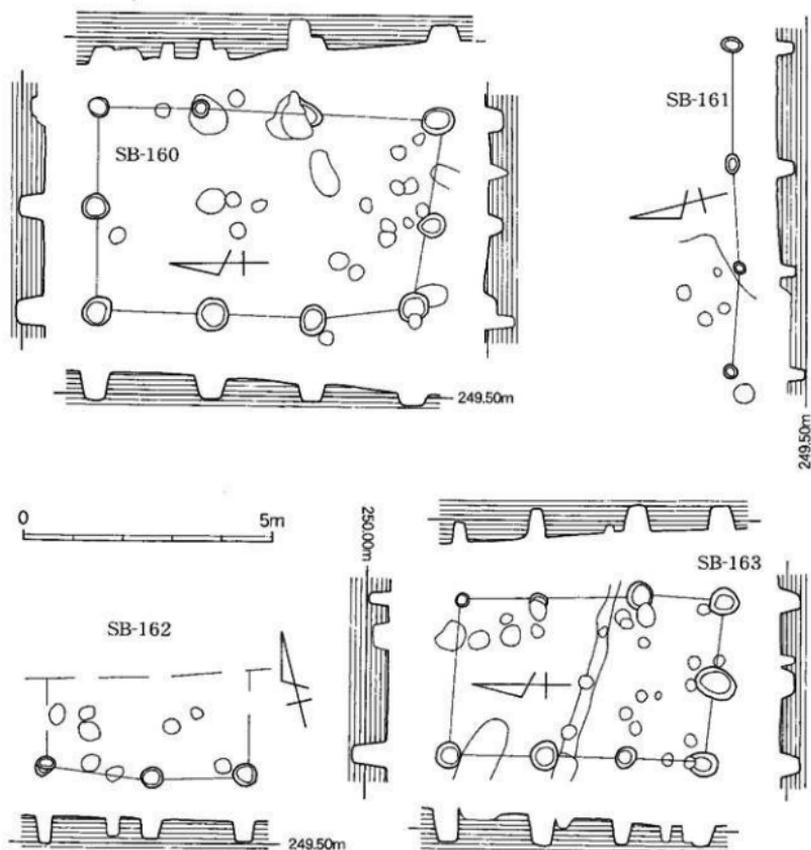
**SB-162 (第194図)**

調査区の東部北側にある建物で、北側が北壁に入っているため、詳細は不明であるが、現存で、2間4.04mを測る。柱穴の規模は、径35~50cm、深さ40~57cmを測る。主軸方位はN16° Eである。

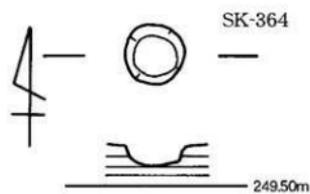
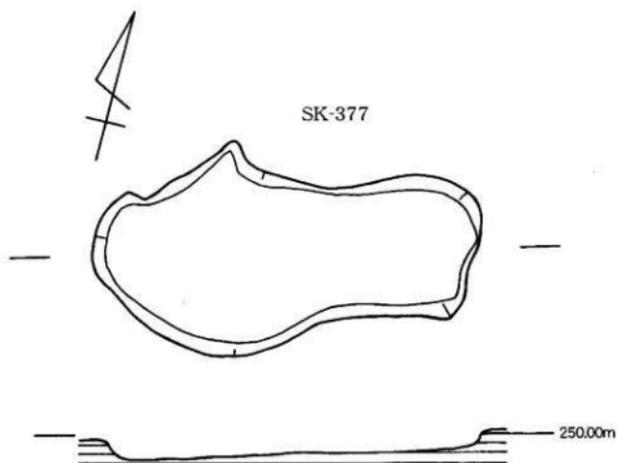
**SB-163 (第194図)**

調査区の東部にある、梁行2間3.20~3.34m、桁行3間5.12~5.25mを測る建物である。柱穴の規模は、径28~82cm、深さ30~68cmを測る。主軸方位はN1° Eである。

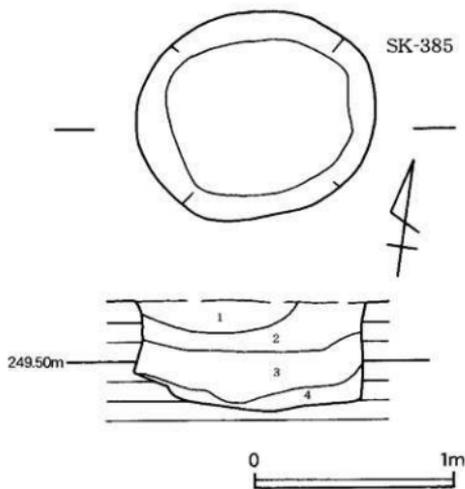
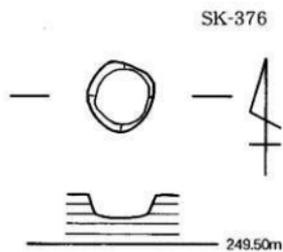
**SK-364 (第195図)**



第194図 SB-160~163 遺構実測図



1. 暗褐色粗砂質土
2. 暗褐色+黒色粗砂質土
3. 黒色細砂質土
4. 暗褐色細粘質土



第195図 SK-364・376・377・385 遺構実測図

調査区の西部中央で検出された、円形を呈する土坑である。径0.60m、検出面から床面までの深さ20cmを測る。遺物は、布痕土器の口縁部片と輪の羽口片と紡錘車が出土し、時期は10世紀と思われる。

#### **SK-366**

調査区の中央西側、SK-364の東1.9mで検出された、楕円形を呈する土坑である。長径0.84m、短径0.76m、検出面から床面までの深さは23cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

#### **SK-369**

調査区の中央東側やや北よりで検出された、楕円形を呈する土坑である。長径1.04m、短径0.74m、検出面から床面までの深さは23cmを測る。遺物は縄文土器片、土師器片、青磁の碗が出土した。

#### **SK-374**

調査区の中央、SK-372の西0.8mで検出された、楕円形を呈する土坑である。長径0.97m、短径0.57m、検出面から床面までの深さは37cmを測る。遺物は土師器片、須恵器片、黒色土器片が出土した。

#### **SK-375**

調査区の西部南壁際で検出された、不整形を呈する土坑である。長径1.18m、短径1.15m、検出面から床面までの深さは39cmを測る。遺物は土師器片、須恵器の甍片が出土した。

#### **SK-376** (第195図)

調査区の南部西側、SK-375の北0.6mで検出された、円形を呈する土坑である。径0.72m、検出面から床面までの深さは22cmを測る。遺物は土師器片、鉄器が出土した。

#### **SK-377** (第195図)

調査区の北部中央の拡張部で検出された、不整形を呈する土坑である。1.34×3.82m、検出面から床面までの深さは23cmを測る。遺物は縄文土器片、土師器片、須恵器の蓋片が出土した。

#### **SK-385** (第195・196図)

調査区の中央部北側で検出された、楕円形を呈する土坑である。長径1.24m、短径1.04m、検出面から床面までの深さは55cmを測る。遺物は土師器の壺の口縁部、碗の口縁部、黒色土器片が出土した。

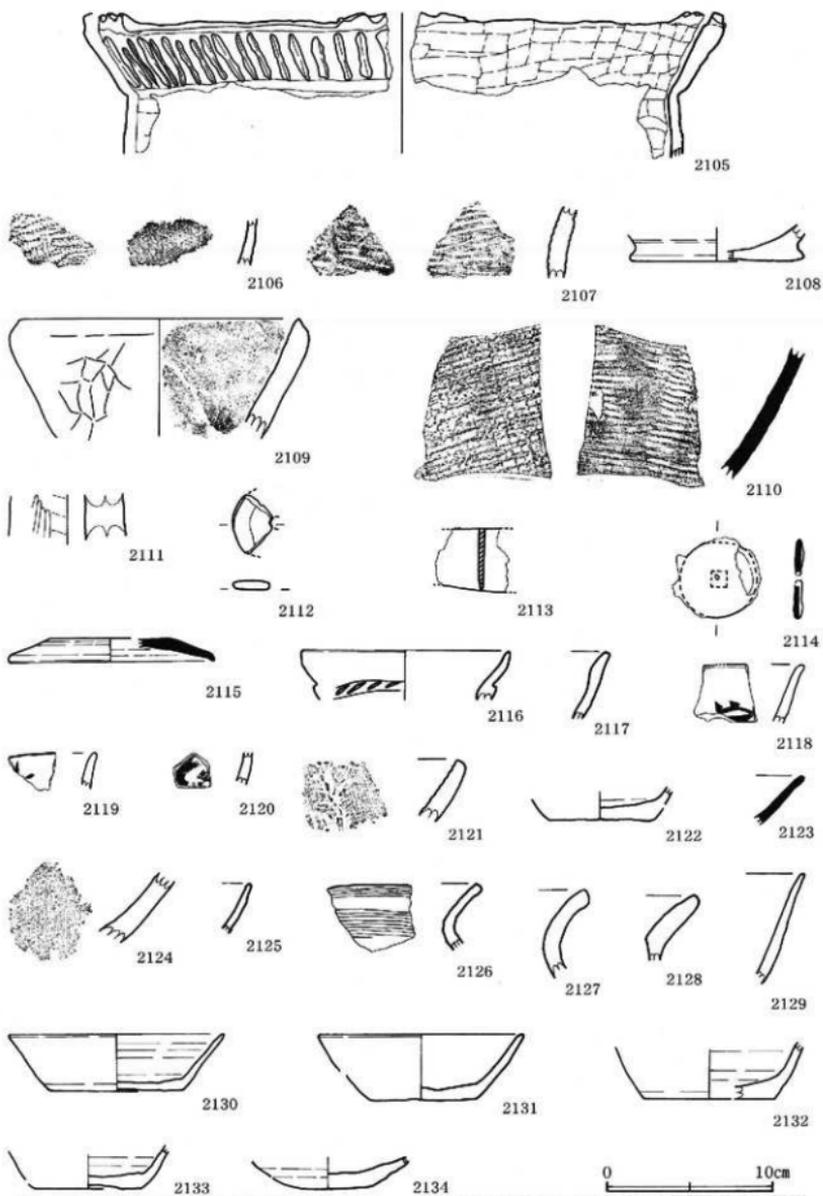
#### **SD-26**

調査区の中央を東から西へとのびて中央部付近で南へ曲がる溝状遺構で、現存で、長さ約16m、幅0.3～0.7m、深さ8～63cmを測る。遺物は少量で土師器の土器片と布痕土器が出土した。

#### **SD-27**

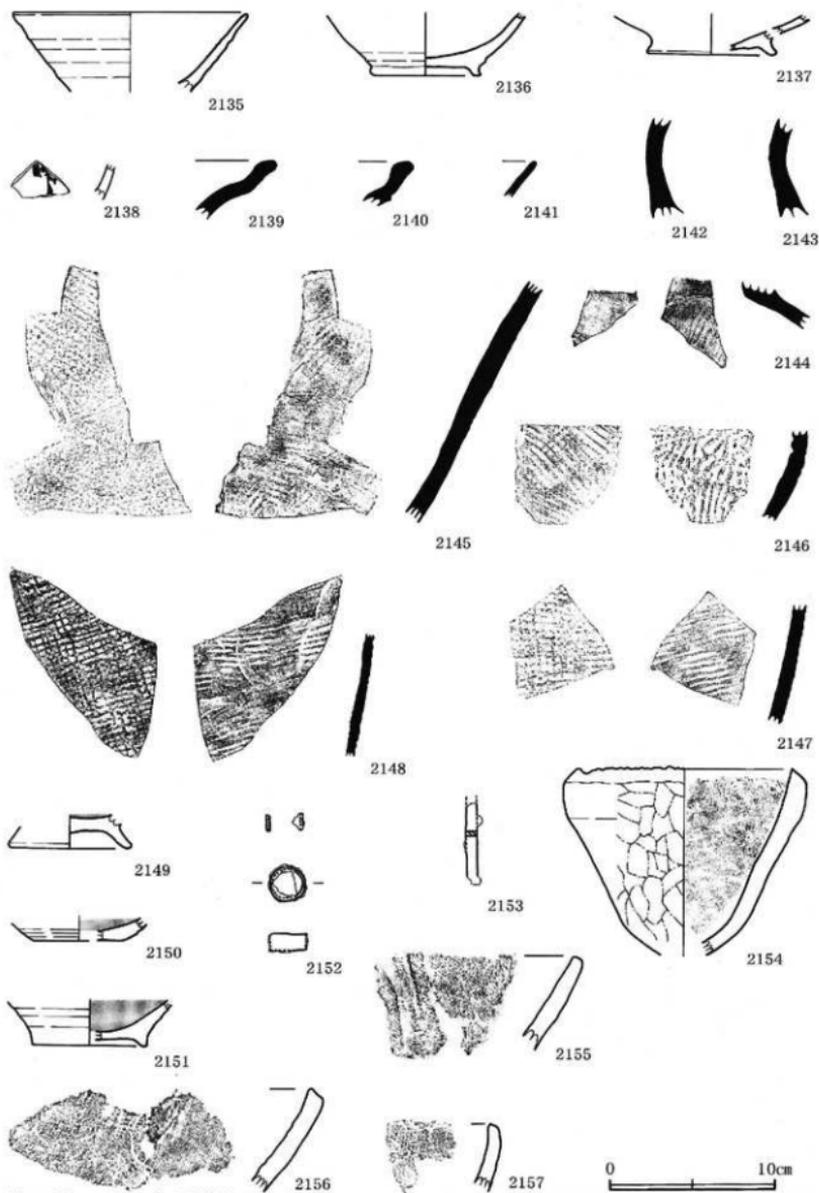
調査区の中央部やや北側にある、東西にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約8m、幅0.8～1.2m、深さ10～23cmを測る。遺物は縄文土器片、土師器片、黒色土器片が出土した。

#### **SD-28**



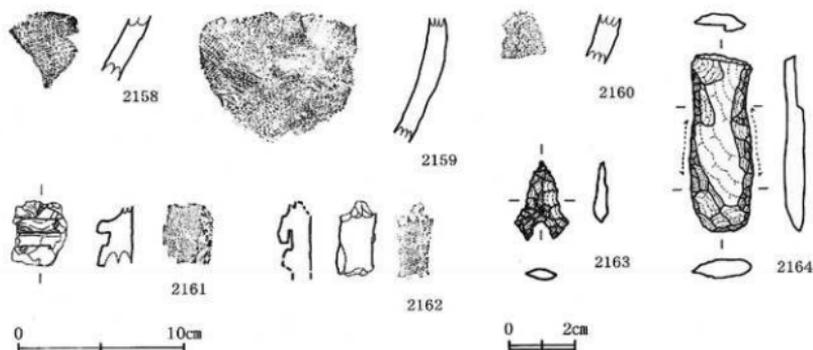
第196图 V区 出土遺物実測図(1)

2105-115, 2109-2111-2112: SK.364, 2110-SK.375, 2113-2114-SK.376, 2115-SK.377, 2116-2117-SK.385, 2118-2121-SD.26, 2122-2124-SD.28, 2125-SD.29, 2127-79, 2131-226, 2133-189, 2134-16



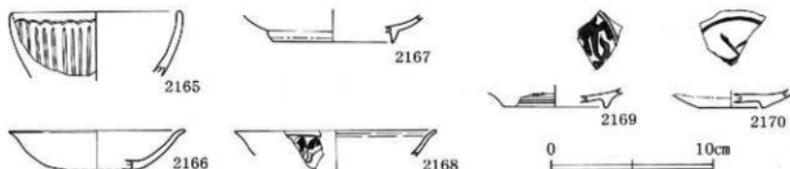
第197图 V区 出土遗物实测图(2)

2136:193.2139:SA-34.2144-2147:197.2145:157.2148:133.2149:195.  
2152:72.2154-2157:158.2155~2156:160



第198図 V区 出土遺物実測図(3)

2159・193.2162・136



第199図 V区 出土遺物実測図(4)

2165 SK.369.2166・21.2169・30.2170・43

調査区の中央にある、北東から南西にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約4m、幅0.4~0.9m、深さ20~46cmを測る。遺物は土師器の坏片、須恵器の埴片、布痕土器が出土した。

#### SD-29

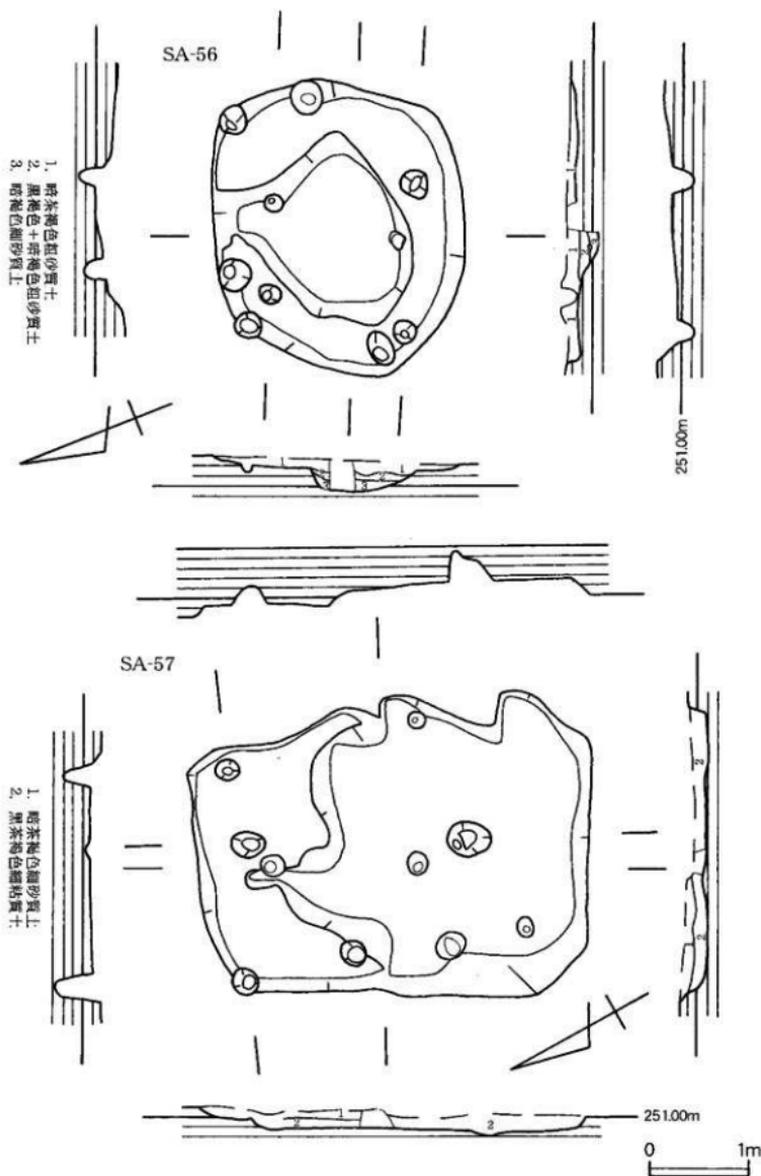
調査区の中央部にある、南北にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約8m、幅0.5~0.8m、深さ40~60cmを測る。遺物は少量で、土師器の坏片が出土した。

#### SD-30

調査区の南部西側南壁際にある、東西にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約7m、幅0.4~0.98m、深さ8~20cmを測る。遺物は出土していない。

#### 出土遺物

Ⅲc層上面での遺構検出、同層の掘り下げ、Ⅳ層上面での遺構検出の際に少量であるが、縄文土器・土師器・須恵器・黒色土器・土製品・輸入陶磁器・鉄器・石器が出土した。縄文土器は、中期の土器の口縁部、胴部、底部片が出土した。土師器は、甕の口縁部、鉢、埴などが出土しており、須恵器は、甕の口縁部、頸部、胴部片、黒色土器は、埴、皿の底部片が出土した。土製品は、布痕土器の口縁部が出土した。鉄器は、鉄鎌の茎部と環状遺物が出土した。石器は、打製石鏃と扁平打製石斧が出土しただけである。



第201図 SA-56・57 遺構実測図

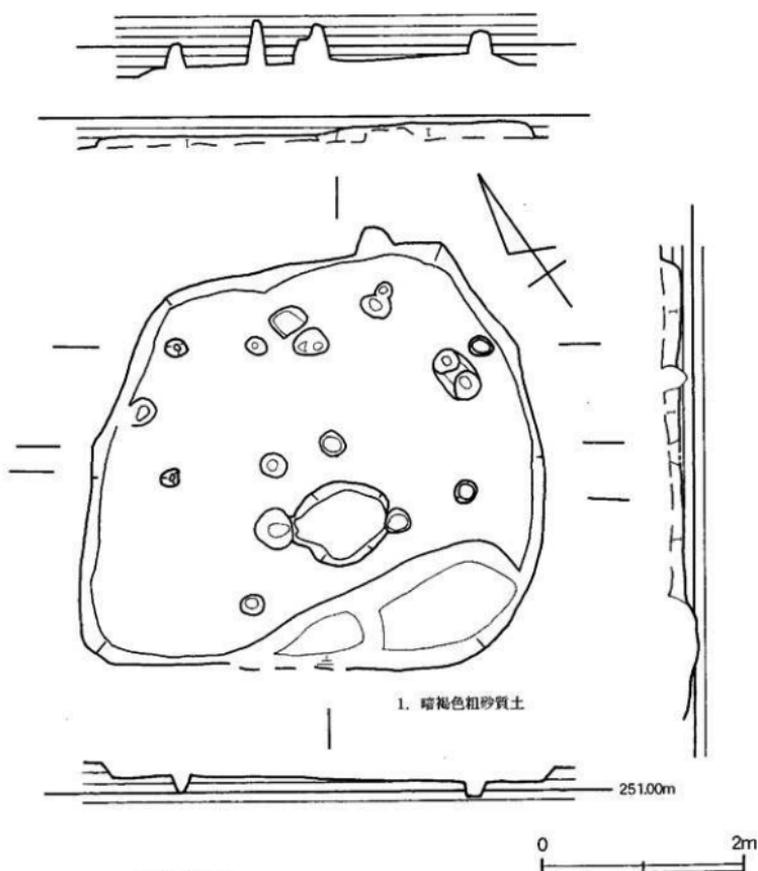
## 第8節 VI区の調査

Ⅲc層上面とⅣ層上面で遺構検出を行った結果、集石遺構1基、竪穴住居10基、竪穴状遺構2基、掘立柱建物16棟、土坑・土塚墓16基、溝状遺構5条、多数の柱穴を検出した。調査区の北壁中央付近で竪穴住居が、西側で土坑が、北壁にかかって検出されたので、その部分を北側へ拡張した。

### 縄文時代

Ⅳ層上面で遺構検出を行ったところ、竪穴住居3基、集石遺構1基を検出した。

#### SA-56 (第201図)



第202図 SA-58 遺構実測図

調査区の中央部で検出された、不整形を呈する住居である。規模は、長径3.12m、短径2.53mで検出面から床面までの深さは10～25cmを測る。柱穴は4個で、径20～28cm、深さ18～22cmを測る。住居の中央部は約20cm掘りこまれているが、焼土や炭化物などは検出されなかったことから、炉跡ではない。

遺物は少なく、縄文土器片が4点と、石器が磨石と石皿の2点が出土したのみである。

#### SA-57 (第201図)

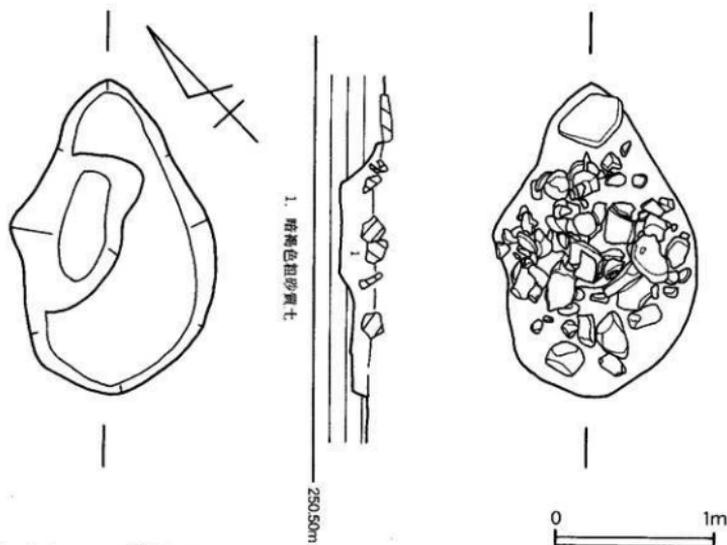
調査区の中央部やや東側で検出された、不整形を呈する住居である。規模は、3.02×3.94mで検出面から床面までの深さは16～22cmを測る。柱穴は2個で、径33～45cm、深さ19～32cmを測る。炉跡は検出されなかった。

遺物は少なく、縄文土器片が5点と、石器が打製石鏃3点と石皿1点が出土したのみである。

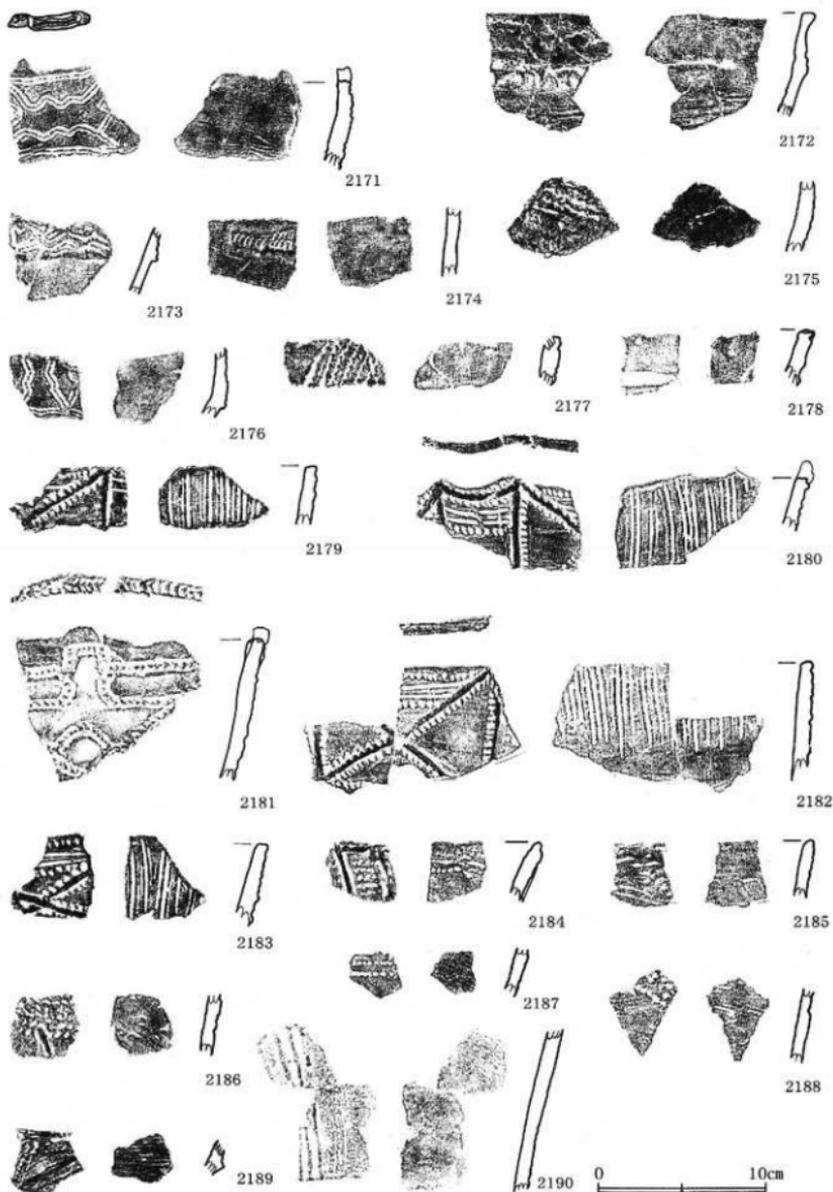
#### SA-58 (第202図)

調査区の中央部やや西側で検出された、不整形を呈する住居である。規模は、4.10×4.52mで検出面から床面までの深さは9～11cmを測る。柱穴は4個で、径17～22cm、深さ16～22cmを測る。炉跡は検出されなかった。

遺物は少なく、縄文土器片が10点と石器が、打製石鏃4点、磨石1点、台石1点が出土したのみである。

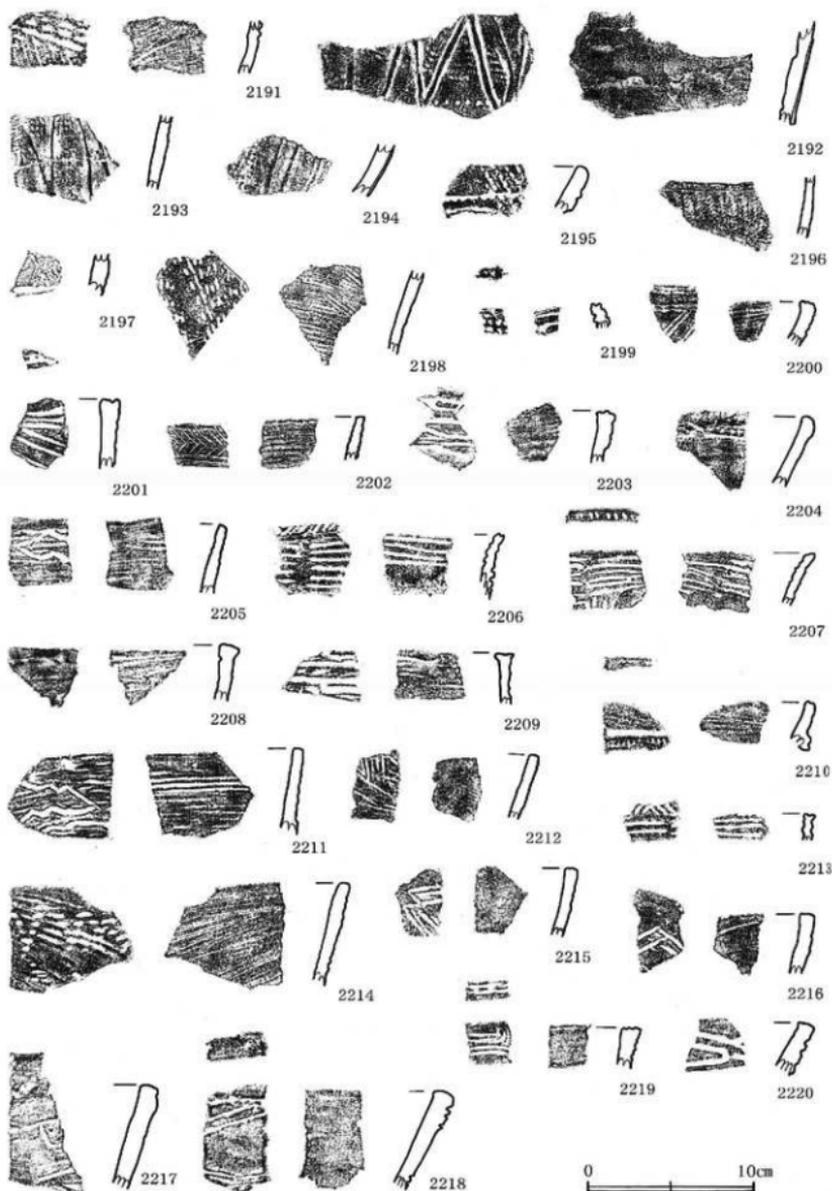


第203図 SS-01 遺構実測図



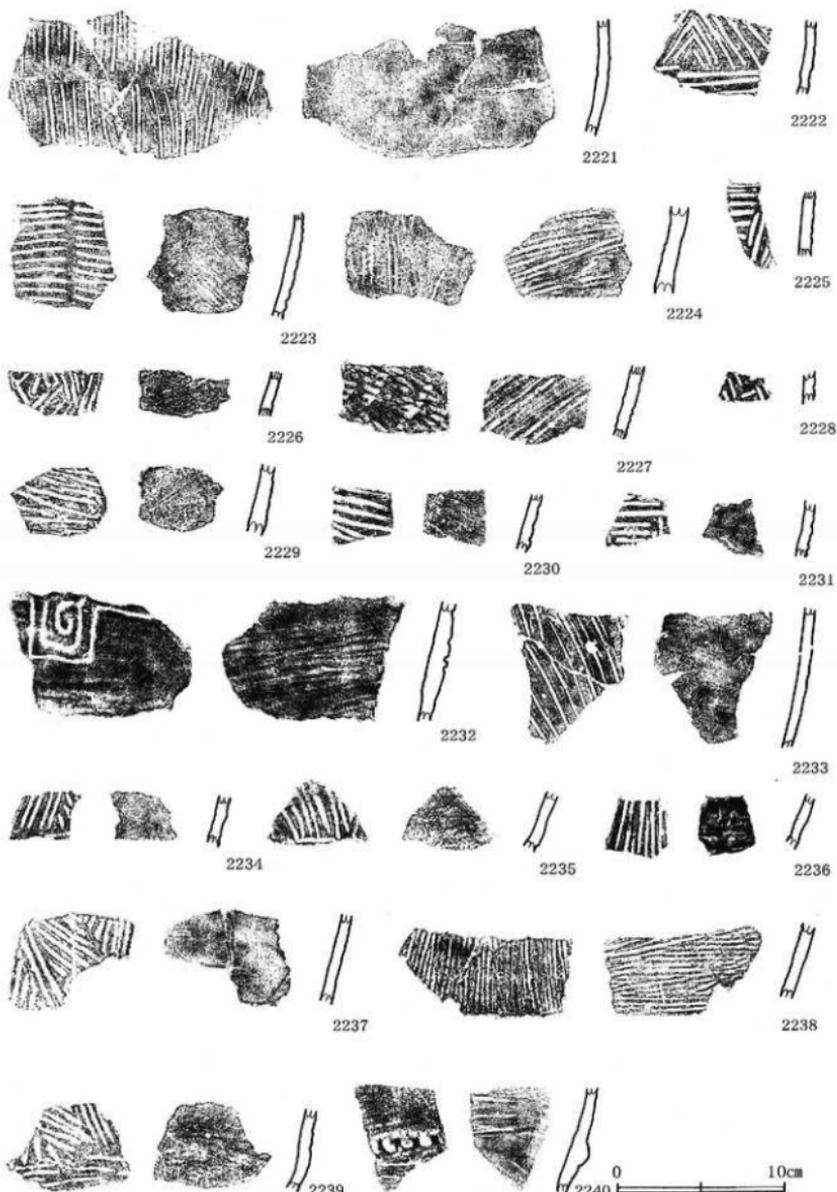
第204图 VI区 出土遺物実測图 (1)

2173:SA.562178 SA.30.2182:SA.38



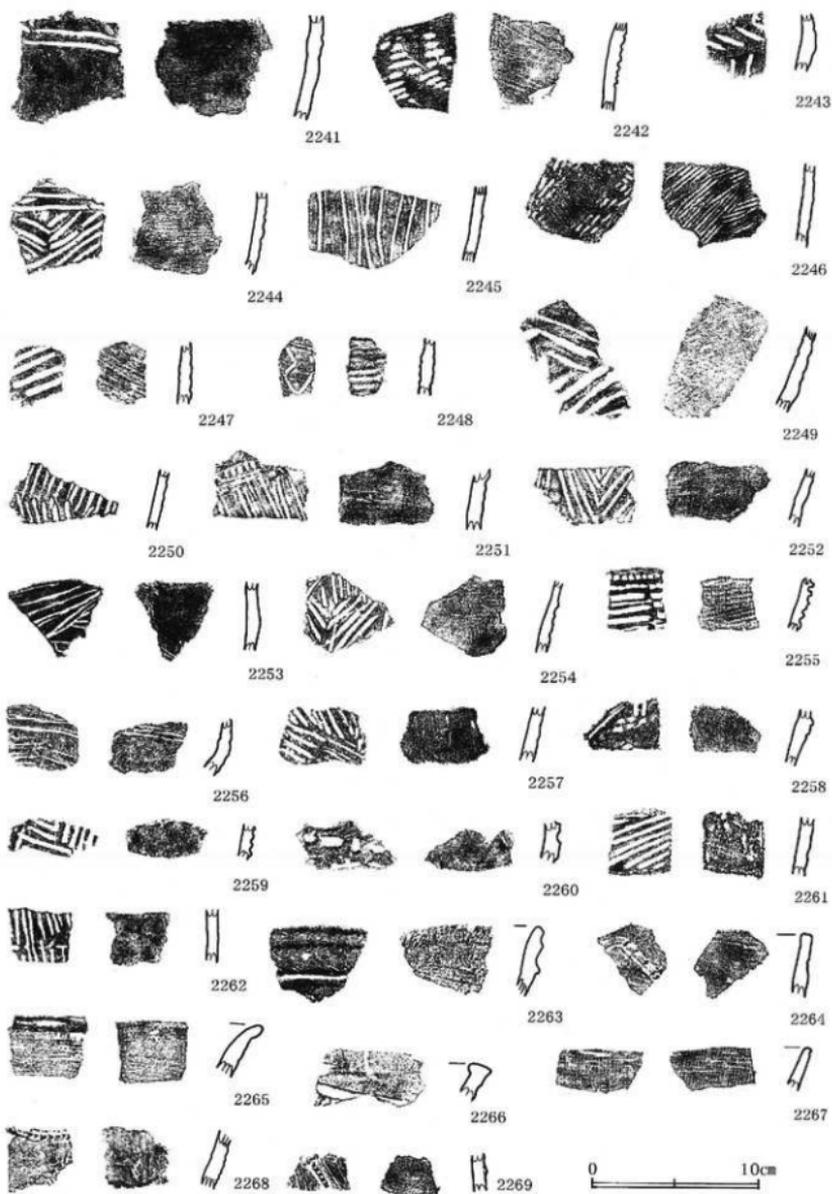
第205图 VI区 出土遗物实测图(2)

2193:302.2196:SA-55.2203:SA-58-ベ&ト内.2204:SD-19.2206-2213:SA-08  
2214-2217:SA-51.2215:SS-02.2216:SD-30.2219:SK-378



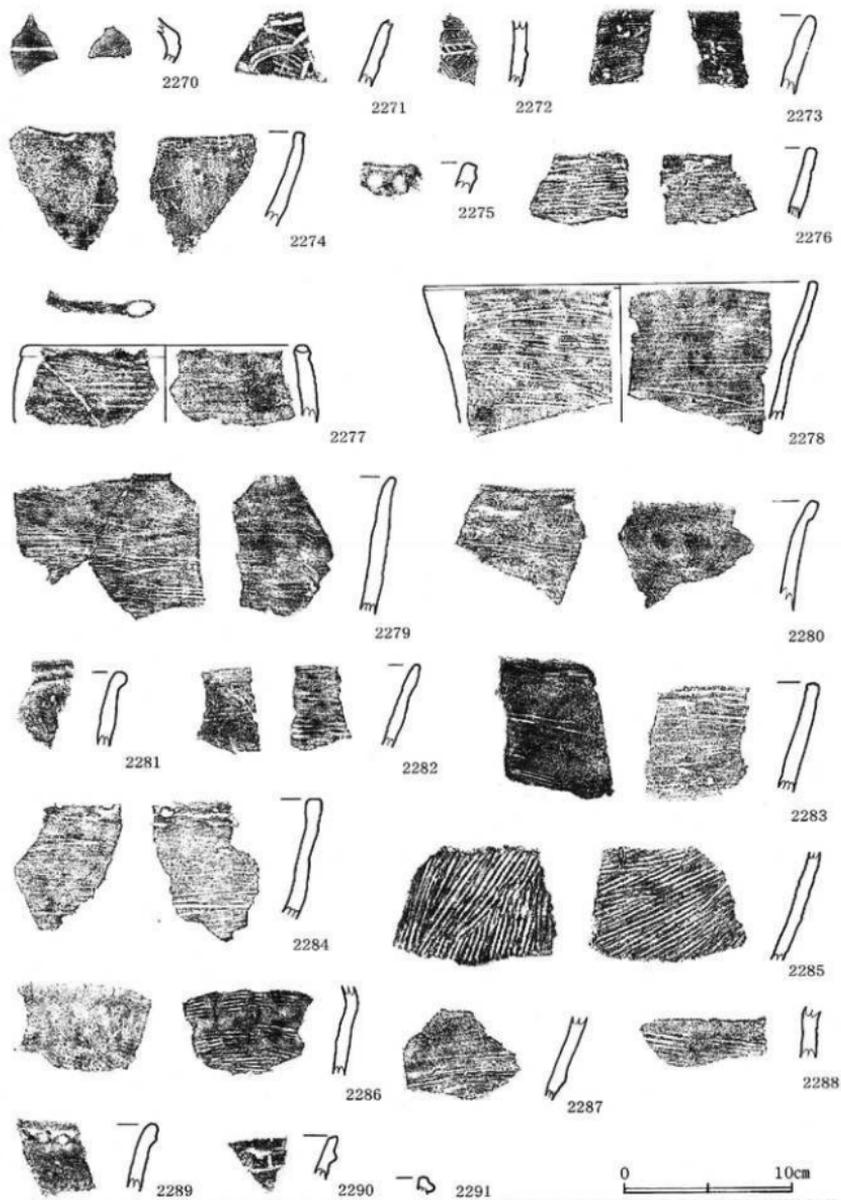
第206图 VI区 出土遺物実測图(3)

2221-2222222-2223-SK.330.2224-2229-2236-SA.30.2225-SD.19.  
 2226-SA.60.2227-SK.351.2228-SA.49.2230-SA.38.2231-SA.51-64-6-内  
 2234-SA.67



第207图 VI区 出土遗物实测图(4)

2245-SA-082252-167 2253-444 2257-306 2262-SA-492269-35



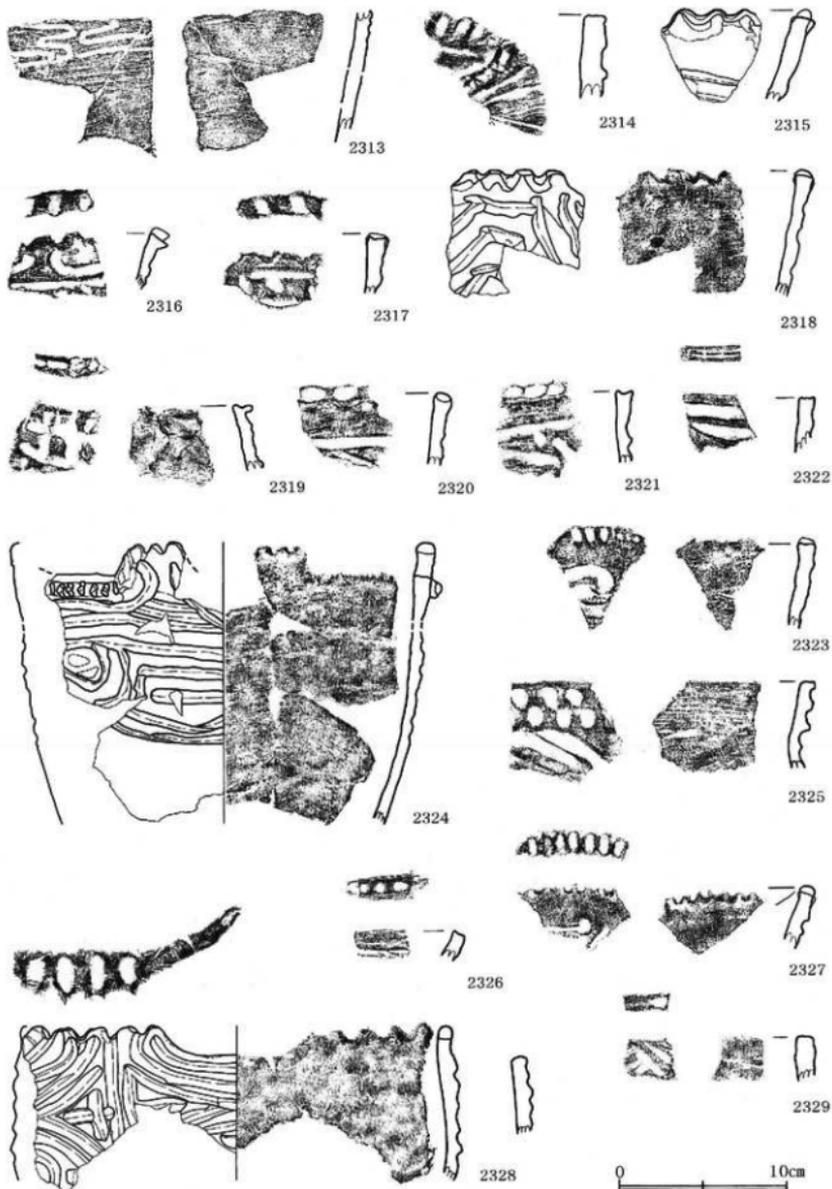
第208图 VI区 出土遺物実測図(5)

2274: 194.2275-SA-38, 2277-SA-58, 2278-SK-345, 2280-SA-49, 2281-SA-39,  
2282-SA-49、ベルト内, 2284-SA-51



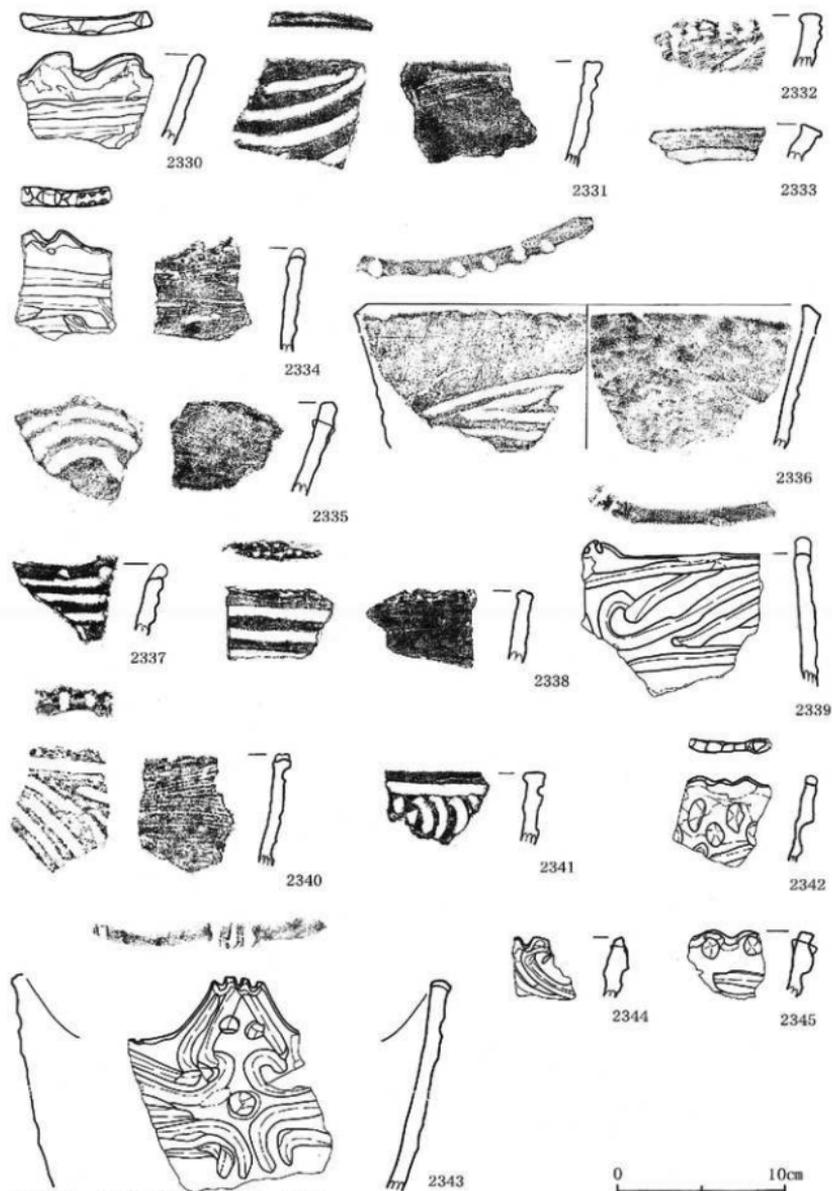
第209图 VI区 出土遗物实测图(6)

2294:SK-303,2295:SD-16,2297:SA-39,2298:436,2300:66,2308:151



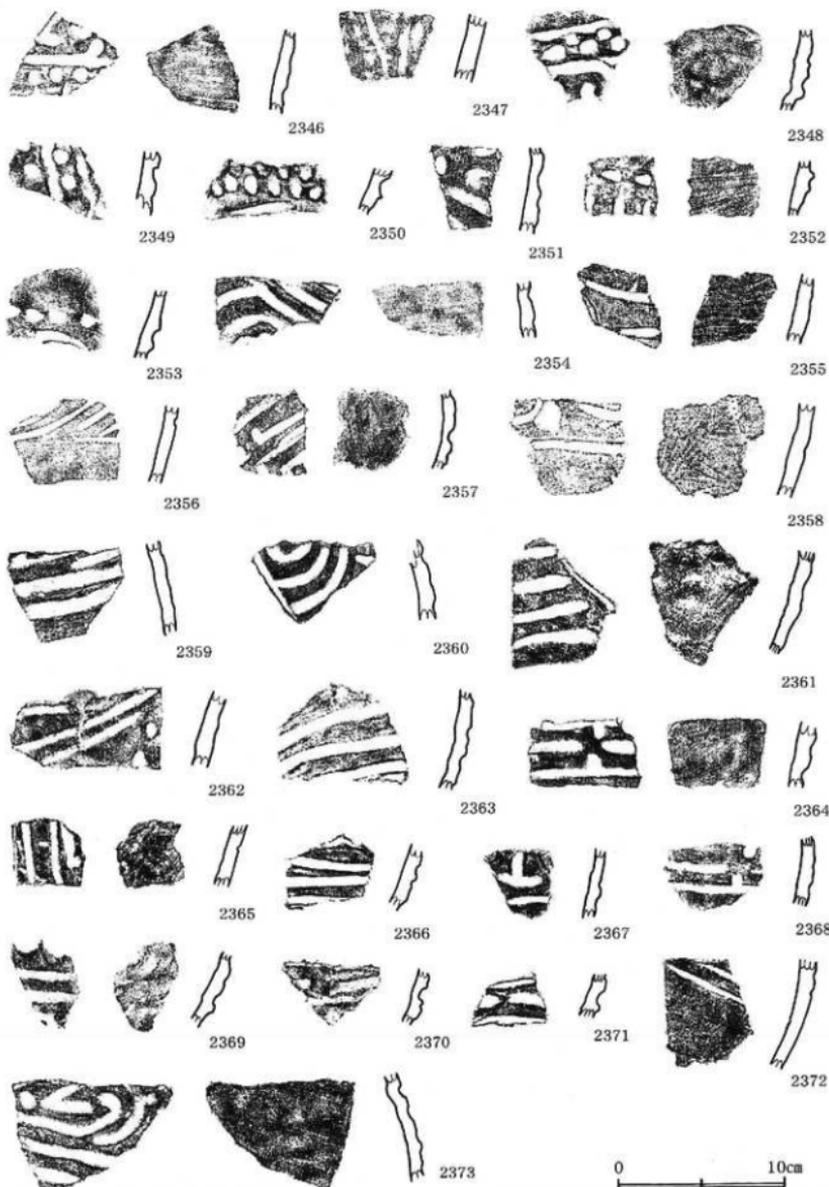
第210图 VI区 出土遺物実測図(7)

2316 SA-54,2319 SA-57,2322-2325 SA-39,2323 SA-51,2324 SA-53-ベルト内  
2328 SD-16



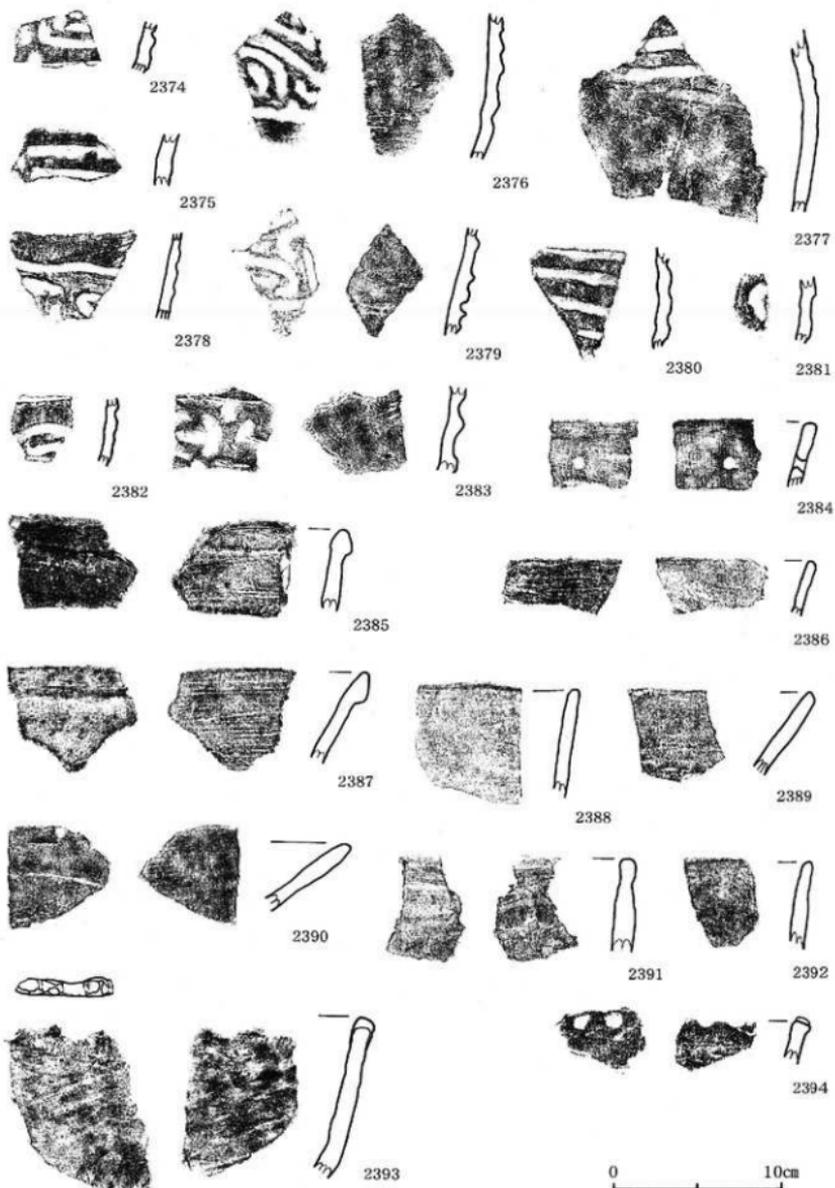
第211图 VI区 出土遗物实测图(8)

2331-12L2333; IVW51.2340-SA.61.2341-SAS6.2342-SA.39



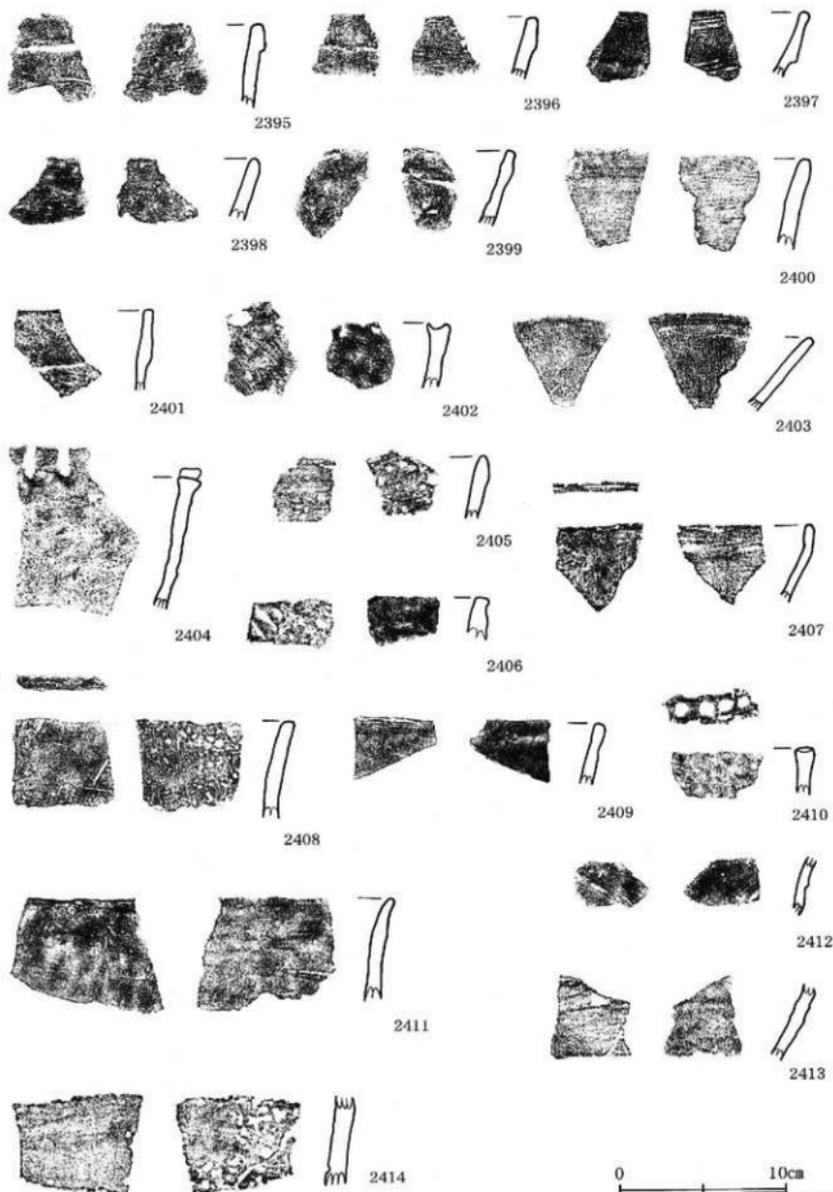
第212图 VI区 出土遗物实测图(9)

2349·2362·SA.58.2354·SA.49.2355·2358·SA.39.2357·2364·SA.54.  
2361·SA.36.2366·149.2367·SA.S1.2369·SA.56



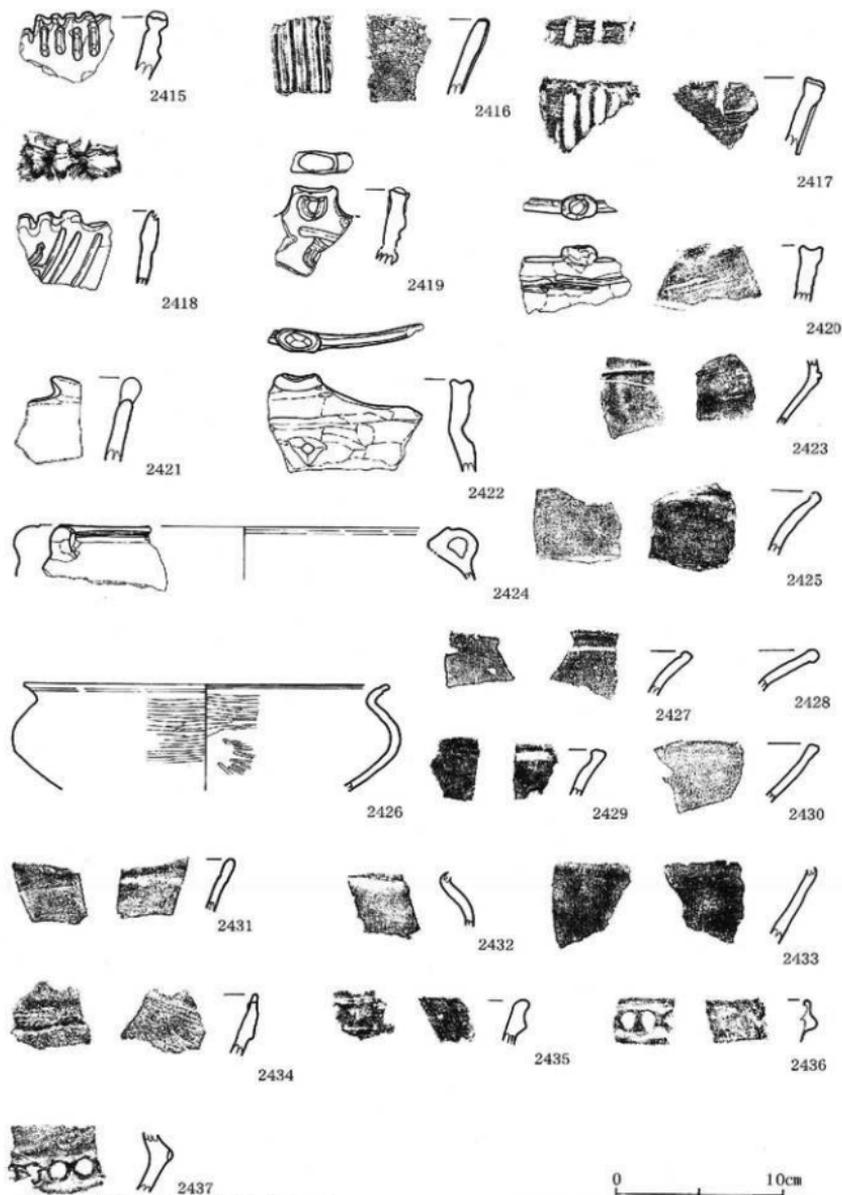
第213图 VI区 出土遗物实测图(10)

2375-SA.53.2376-2378-SA.51.2380-SA.56.2381-SA.38.  
2383-SA.50.2394-SA.37



第214図 VI区 出土遺物実測図(11)

2397-2401:SK-379,2339-2414:SA-51,2400-196,2403:SA-39,2405:SA-53附近III期, 2406:SA-55・ベクト内,2410:SA-57,2411:SK-342



第215图 VI区 出土遗物实测图(12)